# 厚和寮ホーム（仮称）新築工事

| 番 号 | 図 面 名 称 |
|---|---|
| 特 - 01 | 建築工事仕様書（1） |
| 特 - 02 | 建築工事仕様書（2） |
| 特 - 03 | 建築工事仕様書（3） |
| 特 - 04 | 建築工事仕様書（4） |
| 特 - 05 | 建築工事仕様書（5） |
| 特 - 06 | 建築工事仕様書（6） |
| 特 - 07 | 建築工事仕様書（7） |
| 特 - 08 | 建築工事仕様書（8） |
| 特 - 09 | 建築工事仕様書（9） |
| A - 01 | 附近見取図・全体配置図 |
| A - 02 | 配置図 |
| A - 03 | 求積図・面積求積表 |
| A - 04 | 室面積求積表 |
| A - 05 | 仕上表1 |
| A - 06 | 仕上表2 |
| A - 07 | 平面図 |
| A - 08 | 防災計画図 |
| A - 09 | 立面図 |
| A - 10 | 矩計図１ |
| A - 11 | 矩計図２ |
| A - 12 | 矩計図３ |
| A - 13 | 矩計図４ |
| A - 14 | 矩計図５ |
| A - 15 | 平面詳細図１ |
| A - 16 | 平面詳細図２ |
| A - 17 | 天井伏図・屋根伏図 |
| A - 18 | 展開図１ |
| A - 19 | 展開図２ |
| A - 20 | 展開図３ |
| A - 21 | 部分詳細図 |
| A - 22 | 建具キープラン・建具表 |
| A - 23 | 家具キープラン・家具図 |
| A - 24 | （参考）ユニットバス詳細図 |
| A - 25 | （参考）仮設計画図 |

| 番 号 | 図 面 名 称 |
|---|---|
| S - 01 | 構造関係共通事項（1） |
| S - 02 | 木質工事特記仕様書（1） |
| S - 03 | 木質工事特記仕様書（2） |
| S - 04 | 木造在来軸組工法標準納まり図（1） |
| S - 05 | 木造在来軸組工法標準納まり図（2） |
| S - 06 | 木造在来軸組工法標準納まり図（3） |
| S - 07 | 地質調査図 |
| S - 08 | 基礎梁断面リスト |
| S - 09 | 基礎・1階伏図 |
| S - 10 | 土台・アンカーボルト・筋交い伏図 |
| S - 11 | 小屋伏図 |
| S - 12 | 柱頭柱脚金物伏図 |
| S - 13 | 軸組図１ |
| S - 14 | 軸組図２ |
| | |
| E - 01 | 電気設備工事仕様書（1） |
| E - 02 | 電気設備工事仕様書（2） |
| E - 03 | 構内配電線路設備　配置図 |
| E - 04 | 防火区画貫通部・貫通措置工法例 |
| E - 05 | 受変電設備　単線結線図・参考姿図 |
| E - 06 | 分電盤結線図(1) |
| E - 07 | 分電盤結線図(2) |
| E - 08 | 照明器具参考姿図 |
| E - 09 | 電灯設備　平面図 |
| E - 10 | コンセント設備　平面図 |
| E - 11 | 非常用照明設備　平面図 |
| E - 12 | 動力・冷暖房電源設備　平面図 |
| E - 13 | 端子盤リスト・通信機器参考姿図 |
| E - 14 | 電話・情報・テレビ共聴設備　平面図 |
| E - 15 | 誘導支援・防犯カメラ設備　平面図 |
| E - 16 | 自動火災報知設備　平面図 |
| | |
| | |
| | |

| 番 号 | 図 面 名 称 |
|---|---|
| M - 01 | 機械設備工事 特記仕様書（1） |
| M - 02 | 機械設備工事 特記仕様書（2） |
| M - 03 | 冷暖房設備　機器表・凡例 |
| M - 04 | 冷暖房設備　平面図 |
| M - 05 | 換気設備　機器表・凡例 |
| M - 06 | 換気設備　平面図 |
| M - 07 | 衛生器具設備　機器表・桝表・凡例 |
| M - 08 | 給排水・ガス設備　屋外配管図 |
| M - 09 | 給排水・ガス設備　ユニット1　平面図 |
| M - 10 | 給排水・ガス設備　ユニット2　平面図 |
| M - 11 | スプリンクラー設備　平面図 |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

株式会社　白兎設計事務所

# 建　築　工　事　仕　様　書

Ⅰ．工　事　概　要

1．工 事 場 所　鳥取県鳥取市湖山町西三丁目113-1
2．敷 地 面 積　1，743.883　㎡
3．地 域 地 区　都市計画地域（⊙内　・外）　市街化調整区域（⊙内　・外）
　　用途地域（区域区分非設定）　防火地域（　-　　）
4．建 物 概 要

| 番号 | 名　称 | 工事種別 | 構　造 | 階数 | 建築面積(㎡) | 延べ面積(㎡) |
|---|---|---|---|---|---|---|
| (1) | 厚和寮ホーム（仮称） | 新築 | 木造 | 1 | 676.00 | 684.00 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |

Ⅱ．建築工事仕様

1．共通仕様

（1）　図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部制定「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）令和７年版」（以下、「標準仕様書」という。）による。
　　ただし、アスベスト成形板の処理等は、国土交通省官房官庁営繕部制定「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）令和７年版」（以下「改修標準仕様書」という。）による。
（2）　請負者は、建築基準法に基づく完了検査（中間検査含む）の検査には、特定行政庁（建築主事等）が求める検査に必要な資料等（報告書等）を用意する。
（3）　電気及び機械設備工事を本工事に含む場合、電気及び機械設備工事はそれぞれの工事仕様書を適用する。

2．特記仕様

（1）　項目は番号に○印のついたものを適用する。
（2）　特記事項は⊙印のついたものを適用する。
　　⊙印のつかない場合は、※印のついたものを適用する。
　　⊙印と◎印のついた場合は共に適用する。
（3）　項目に記載の（　　）内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。［　　］内表示番号は、改修標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を表す。
（4）　🅶印は、「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」（以下「グリーン購入法」という。）の特定調達品目を示す。判断基準は「環境物品等の調達の推進に関する基本方針（令和２年２月７日変更閣議決定）」（環境省のホームページからダウンロード可能）による。
（5）　関係法令（条例を含む）の改正等により、工事内容が法令等に抵触する恐れがあることを認識した場合には、その対応等について、監督職員と協議を行うものとする。
（6）　材料及び製造所等の記載は順不同である。

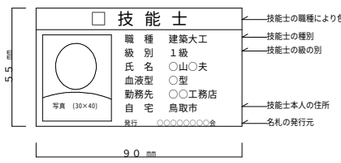
| 章 | | 項　目 | 特　記　事　項 |
|---|---|---|---|
| ① 一般共通事項 | ① | 適用基準等 | ※　建築工事標準詳細図（令和７年版）　国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課監修（以下「標準詳細図」という。）<br>※　建築工事監理指針（令和７年版）　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修<br>※　工事写真撮影ガイドブック建築工事編及び解体工事編（令和５年版）　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修<br>・　建築物解体工事共通仕様書（令和４年版）　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修<br>・　建築改修工事監理指針（令和７年版）　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 |
| | ② | 官公庁その他への手続<br>（1．3．3） | 工事の施工に伴い必要な官公署、その他への手続き、検査並びにその費用は、本工事請負者の負担とする。 |
| | 3 | 電気保安技術者<br>（1．3．3） | 工事現場におく電気保安技術者は、<br>当該工事の工事期間中自家用電気工作物の保安の業務を行うものとする。 |
| | ④ | 工事安全計画書<br>（1．3．7） | 建築工事安全施工技術指針及び建設公衆災害防止対策要綱を参考に、工事安全計画書を監督職員に提出する。 |
| | 5 | 発生材の処理等<br>（1．3．11） | ・　引き渡しを要するもの（　　）<br>・　現場において再利用を図るもの（　　）<br>・　再生資源化を図るもの<br>　・　コンクリート塊　・　アスファルトコンクリート塊　・　建設発生木材 |
| | ⑥ | 環境への配慮<br>（1．4．1） | 化学物質を放散させる建築材料等<br>1）本工事の建物内部に使用する建築材料等は、設計図書に規定する品質及び性能を有すると共に、次の①から④を満たすものとする。<br>①　合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、ＭＤＦ、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩衝材、断熱材、塗料、仕上げ塗材は、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しない又は発散が極めて少ない材料で、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する。<br>②　接着剤及び塗料にトルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する。<br>③　接着剤は可塑剤（フタル酸ジｎ－ブチル及びフタル酸ジ－２－エチルヘキシル等を含有しない難揮発性の可塑剤を除く）が添加されていない材料を使用する。<br>④　①の材料等を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器等は、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。<br>　また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒド放散量」は、次のとおりとする。<br>2）ホルムアルデヒド放散量の区分において、規制対象外とは次の①又は②に該当する材料を指す。<br>①　建築基準法施行令第２０条の７第１項に定める第一種、第二種及び第三種ホルムアルデヒド発散建築材料以外の材料<br>②　建築基準法施行令第２０条の７第４項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料<br>3）ホルムアルデヒド放散量の区分において、第三種とは次の①又は②に該当する材料を指す。<br>①　建築基準法施行令第２０条の７第１項に定める第三種ホルムアルデヒド発散建築材料<br>②　建築基準法施行令第２０条の７第３項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料<br>国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（平成１２年法律第１００号）に基づく環境物品等の調達の推進に関する基本方針における公共工事の配慮事項（資材（材料及び機材を含む）の梱包及び容器する。 |
| | ⑦ | 材料の品質等<br>（1．4．2） | 材料・機材等の品質及び性能<br>1）本工事に使用する材料は、設計図書に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする。<br>2）備考欄に商品名が記載された材料は、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は監督員の承諾を受ける。<br>3）標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法については、材料製造所の指定する工法とする。 |
| | ⑧ | 技能士<br>（1．5．2） | 4）本工事に使用する材料のうち、５）に指定する材料の製造業者等は、次の①～⑥の事項を満たすものとし、その証明となる資料（外部機関が発行する証明書の写し）を監督職員に提出して承諾を受けるものとする。ただし、あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合はこの限りではない。<br>①　品質及び性能に関する試験データを整備している。<br>②　生産施設及び品質の管理を適切に行っている。<br>③　安定的な供給が可能である。<br>④　法令等で定める許可、認可、認定又は免許を取得している。<br>⑤　製造又は施工の実績があり、その信頼性がある。<br>⑥　販売、保守等の営業体制が整えられている。<br><br>5）製造業者等に関する資料の提出を定める材料 |

| | |
|---|---|
| 床型枠用鋼製デッキプレート | オーバーヘッドドア |
| 鉄骨柱下無収縮モルタル | 防水剤 |
| 無収縮グラウト材 | 現場発泡断熱材 |
| 乾式保護材 | フリーアクセスフロア |
| 既成調合モルタル | 可動間仕切 |
| ルーフドレン | 移動間仕切 |
| 吸水調整材 | トイレブース |
| アルミニウム製建具 | 煙突用成形ライニング材 |
| 鋼製建具 | 天井点検口 |
| 鋼製軽量建具 | 床点検口 |
| ステンレス製建具 | グレーチング |
| 錠前類 | 屋上緑化システム |
| クローザ類 | トップライト |
| 自動扉機構 | エポキシ樹脂 |
| 自閉式上吊り引戸機構 | ポリマーセメントモルタル |
| 重量シャッター | 既成調合目地材 |
| 軽量シャッター | 鋳鉄製ふた |
| | |

下表により適用する技能士は、適用する工事作業中、１名以上の者が自ら作業をするとともに、他の技能者に対して、施工品質の向上を図るための作業指導を行う。
（技能士：職業能力開発促進法による一級技能士又は単一等級の資格を有する者）
また、その技能士はその者が技能士であることがわかる名札（下図参考）を常時着用する。

| 工事種目 | 技能検定職種 | 技能検定作業 |
|---|---|---|
| 仮設工事 | とび | ⊙　とび作業 |
| 鉄筋工事 | 鉄筋施工 | ⊙　鉄筋組立作業 |
| コンクリート工事 | 型枠施工 | ⊙　型枠工事作業 |
| | コンクリート圧送施工 | ⊙　コンクリート圧送工事作業 |
| 鉄骨工事 | 鉄工 | ・　構造物鉄工作業 |
| | とび | ・　とび作業 |
| | 塗装 | ・　建築塗装作業 |
| コンクリートブロック・ＡＬＣ | ブロック建築 | ・　コンクリートブロック工事作業 |
| パネル工事 | エーエルシーパネル施工 | ・　エーエルシーパネル工事作業 |
| 防水工事 | 防水施工 | ・　アスファルト防水工事作業<br>・　ウレタンゴム系塗膜防水工事作業<br>・　アクリルゴム系塗膜防水工事作業<br>・　合成ゴム系シート防水工事作業<br>・　塩化ビニル系シート防水工事作業<br>・　セメント系防水工事作業<br>⊙　シーリング防水工事作業<br>・　改質アスファルトシートトーチ工法防水工事作業<br>・　ＦＲＰ防水工事作業 |
| 石工事 | 石材施工 | ・　石張り作業 |
| タイル工事 | タイル張り | ⊙　タイル張り作業 |
| 木工事 | 建築大工 | ⊙　大工工事作業 |
| 屋根及びとい工事 | 建築板金 | ⊙　内外装板金作業 |
| | スレート施工 | ・　スレート工事作業 |
| 金属工事 | 内装仕上施工 | ⊙　鋼製下地工事作業 |
| | 建築板金 | ⊙　内外装板金作業 |
| 左官工事 | 左官 | ⊙　左官作業 |
| 建具工事 | サッシ施工 | ⊙　ビル用サッシ施工作業 |
| | ガラス施工 | ⊙　ガラス工事作業 |
| | 自動ドア施工 | ⊙　自動ドア施工作業 |
| | 建具製作 | ・　木製建具加工作業 |
| | ガラス用フィルム施工 | ⊙　建築フィルム作業 |
| カーテンウォール工事 | カーテンウォール施工 | ・　金属製カーテンウォール工事作業 |
| | サッシ施工 | ・　ビル用サッシ施工作業 |
| | ガラス施工 | ・　ガラス工事作業 |
| 塗装工事 | 塗装 | ⊙　建築塗装作業 |
| 内装工事 | 内装仕上施工 | ⊙　プラスチック系床仕上げ工事作業<br>⊙　カーペット系床仕上げ作業<br>（２級及びﾌﾞﾛｯｸ系仕上げ工事作業を含む）<br>⊙　ボード仕上げ工事作業 |
| | 表装 | ⊙　壁装作業 |
| 排水工事 | 配管 | ⊙　建築配管作業 |
| 舗装工事 | 路面表示施工 | ⊙　溶解ペイントマーカー工事作業<br>・　加熱ペイントマシンマーカー工事作業 |
| 植栽工事 | 造園 | ・　造園工事作業 |
| 畳工事 | 畳製作 | ・　畳製作作業 |
| 外壁改修工事 | 樹脂接着剤注入施工 | ・　樹脂接着剤注入工事作業 |
| | 左官 | ・　左官作業 |
| | タイル張り | ・　タイル張り作業 |

《技能士名札参考図》




| 章 | | 項　目 | 特　記　事　項 |
|---|---|---|---|
| ① 一般共通事項 | 9 | 化学物質の濃度測定<br>（1．5．10） | 1）測定対象室のホルムアルデヒド、スチレン、トルエン、キシレン、エチルベンゼンの室内濃度を測定し、厚生労働省が定める指針値以下であることを確認し、監督職員に報告する。<br>・パラジクロロベンゼンを追加して分析を行う<br>　測定対象室（　　）<br>2）パッシブ型採取機器を用いて測定を行う場合には、次の要領で測定及び分析を行う。<br>①３０分間換気<br>　測定対象室のすべての窓及び扉（造り付け家具、押し入れ等の収納部分の扉を含む）を開放し、３０分間換気する。<br>②５時間閉鎖<br>　①の後、測定対象室すべての窓及び扉を５時間閉鎖する。ただし、造り付け家具、押し入れ等の収納部分の扉は開放したままとする。<br>③測定<br>イ　②の状態のままで測定する。<br>ロ　測定時間は、原則として２４時間とする。ただし、工程等の都合により、２４時間測定が行えない場合は、８時間測定とする。なお、８時間測定の場合は、午後２時～３時が測定時間帯の中央となるよう、１０時３０分～１８時３０分までの時間帯で測定する。<br>ハ　測定回数は１回とし、複数回の測定は不要とする。<br>④分析<br>　測定対象化学物質を採取したパッシブ型採取機器を分析機関に送付し、濃度を分析する。<br>⑤その他<br>　監督職員から測定方法に関する注意事項等の指示を受ける。 |
| | ⑩ | 完成写真 | 完成写真：外観（鳥瞰・夜景含む）及び室内主要室等、監督職員の指示する箇所<br>　建築写真専門家とする（監督職員の承諾する撮影業者）<br>　提出はフォトブック（A3ｻｲｽ266×266）にて２部提出する（施主用、監督員用）<br>　デジタルデータは撮影全てのカットを2980ピクセル以上でJPG形式で提出する<br>　（JPGデータは圧縮せずにオリジナルサイズとする）<br>下記のものを監督職員に提出する。 |

| 区　分 | 分類・規格 | 撮影箇所 | 部数 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| ※　工事記録写真 | カラーサービス判 | 各工種の工程毎 | １部 | |
| ※　完成写真 | カラーサービス判 | ・　内部　箇所 | ２部 | |
| | | ・　外部　箇所 | ２部 | |
| ・ | フォトブック A3ｻｲｽﾞ | ・　内部　箇所 | 部 | |
| | | ・　外部　箇所 | 部 | |
| ・　パネル | カラー | ・　四ッ切　箇所 | 部 | |
| | | ・　半切　箇所 | | |
| | | ・　全紙　箇所 | | |
| ・ | | | | |

・　電子データ又はネガの提出[工事記録写真]　（⊙ 要　・　不要）
・　電子データ又はネガの提出[完成写真]　（⊙ 要　・　不要）

| | | | |
|---|---|---|---|
| ⑪ | 完成時の提出図書<br>（1．7．1～3） | 下記のものを監督職員に提出する。<br>※　原図A１版又はＡ２版（設計図の第２原図訂正不可）　１部<br>※　ＣＡＤデータ、PDFデータ　１式<br>※　原図の大型コピー（白焼）の２つ折製本　２部<br>※　縮小版２つ折製本（Ａ４版）　２部<br>・　複写　縮小版Ａ３バラ焼　部<br>完成図の種類及び内容<br>⊙　案内図・配置図・面積表　：　配置図には外構整備、屋外給排水系統図含む（ＢＭの表示）。<br>⊙　平面図　：　室名、耐震壁（防火壁）、避難施設等を表示する。<br>⊙　立面図　：　外壁仕上等を表示する。<br>⊙　断面図　：　階高、天井高等を表示する。<br>⊙　仕上表　：　屋外、屋内（各階）の仕上表を表示する。<br>⊙　構造図　：　杭、構造躯体等を表示する。<br>・　その他（　　）<br>・　原図ケース・製本図面の背表紙に「施設コード・部局名称」ラベルを貼付ける。 |
| ⑫ | 施工図及び施工計画書<br>（1．2．2） | 提出した施工図及び施工計画書の著作に係わる当該建物に限る使用権は、発注者に移譲するものとする。 |
| ⑬ | 設備工事との取り合い | 設備機器の位置、取り合い等が検討できる施工図を提出して、監督職員の承諾を受ける。 |

| 設備工事との取り合い | | 建 築 | 電 気 | 機 械 |
|---|---|---|---|---|
| ⊙　コンクリート壁、床、梁貫通部 | 補強 | ※ | ・ | ・ |
| | スリーブ・箱入れ | ・ | ※ | ※ |
| ・　鉄骨造の開口及び補強 | | ※ | ・ | ・ |
| ⊙　照明器具・幹線等の吊りボルト用インサート（釘処理共） | | ・ | ※ | ・ |
| ⊙　軽量鉄骨壁のボックス取付用下地 | | ・ | ※ | ・ |
| ・　埋込分電盤・端子盤・プルボックスの仮枠及び埋込部分の補強 | 仮枠 | ・ | ※ | ・ |
| | 補強 | ※ | ・ | ・ |
| ⊙　ＯＡフロア・フリーアクセスフロアの切込み及び補強 | | ※ | ・ | ・ |
| ⊙　埋込型機器取付用の天井壁の切込加工、下地の補強 | 切込 | ・ | ※ | ※ |
| | 補強 | ※ | ・ | ・ |
| ・　自動開閉装置を取付ける防火戸の切込み、補強及びドアクローザ、フロアヒンジ | | | ・ | ・ |
| ・　電気室、自家発電室などの基礎及びピット（蓋を含む） | | ※ | ・ | ・ |
| ・　テレビアンテナ | 基礎 | ※ | ・ | ・ |
| | アンカーボルト | ・ | ※ | ・ |
| ⊙　天井点検口 | | ※ | ・ | ・ |
| ⊙　機器類のコンクリート基礎 | 屋内・屋外設置 | ※ | ※ | ※ |
| | 屋上設備 | ※ | ・ | ・ |

| | | | |
|---|---|---|---|
| ⑭ | 設計ＧＬ | ※　図示による　・（　　） |
| ⑮ | 耐荷重及び耐外力 | 建築基準法に基づき定められた区分等<br>基準風速　Ｖｏ＝３２ｍ／ｓ<br>地表面粗度区分　・Ⅰ　・Ⅱ　・Ⅲ　・Ⅳ<br>積雪区分　平成１２年５月３１日 建設省告示第１４５５号　別表（３３） |
| ⑯ | 保全に関する資料<br>（1．7．3） | 下記のものをＡ４版ファイルに製本して監督職員に提出する。<br>⊙　主な主要資材、機器等のメーカー及び施工者一覧表<br>⊙　機器性能試験成績書及び取扱説明書<br>⊙　保証書<br>⊙　官公署届出書類（保守に必要とするもの）<br>⊙　建築物の保守に関する説明書、指導案内書<br>・<br>・ |
| ⑰ | 火災保険等 | 工事目的物及び工事材料等工事施工途中の事故に伴う損害を補てんするため火災保険等に加入する。<br>（保険の加入期間は、工事完成引き渡しまで（概ね工期＋２１日）とする。） |
| ⑱ | 建設リサイクル法 | ※　対象工事　・　非対象工事 |
| ⑲ | 鳥取県福祉のまちづくり条例 | ※　対象工事　・　非対象工事 |
| 20 | 景観形成条例 | ※　対象工事　・　非対象工事 |
| ㉑ | 省エネ法 | ※　対象工事　・　非対象工事 |

| 章 | | 項　目 | 特　記　事　項 |
|---|---|---|---|
| ② 仮設工事 | ① | 足場その他<br>（2．2．4） | 「手すり先行工法に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙１「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における２の（２）手すり据置き方式又は（３）手すり先行専用方式により行う。 |
| | ② | 監督職員事務所等<br>（2．3．1） | ※　設ける　㎡程度　⊙　設けない<br>現場に設置する備品等は、現場説明書の施工条件明示事項による。 |
| | ③ | 表示板 | ※　工事表示板　⊙　お願い表示板<br>900　1,200　1,200　1,600<br>建　築　工　事　中<br>工事名　○○○○○○新築工事<br>構造・規模　鉄骨造 ２階建<br>延べ面積○○○○㎡<br>工事期間　令和○年○月から○年○月まで<br>設計者　○○○○○○設計<br>監理者　○○○○○○設計<br>施工者　○○○○○建設<br>連絡先担当　○○ー○○○○<br>夜間　○○ー○○○○<br>現場責任者　○○ ○○<br>発注者○○○○○○<br>ＴＥＬ　○○ー○○○○<br>地色　白　マンセル記号 5Y 8.5/1<br>御通行中の皆様へ<br>令和○○年○月工事完成予定<br>簡単なパース、又は立面図を掲載する<br>（拡大カラーコピーを張り付けてもよい）<br>事業の目的<br>○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○<br>現在の進捗率○○％<br>事業協力のお願い<br>工事期間中は、ご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力よろしくお願いします。<br>施工者○○○○○○建設　連絡先　ＴＥＬ　○○ー○○○○<br>発注者○○○○○○　連絡先　ＴＥＬ　○○ー○○○○<br>記入要領<br>1．書体は角ゴシックとする。<br>2．お願い表示板は平易な表現及び内容とし、監督職員が指示するものとする。 |
| | ④ | 工事用水 | 構内既存の施設　※　利用できない　・　利用できる（ ※　有償　・　無償 ） |
| | ⑤ | 工事用電力 | 構内既存の施設　※　利用できない　・　利用できる（ ※　有償　・　無償 ） |
| | ⑥ | 工事用仮設物 | 構内既存の施設　⊙　利用できない　・　利用できる |
| | ⑦ | 工事現場のイメージアップ | 内容については監督員・関係各社と協議の上実施する事。 |
| ③ 土工事 | ① | 埋戻し及び盛土<br>（3．2．3）<br>（表3．2．1） | 材料及び工法<br>※　標準仕様書 表3.2.1による種別<br>・Ａ種　適用場所（　　）<br>⊙Ｂ種　適用場所（　埋戻土　）<br>・Ｃ種　適用場所（　　）　土質（　　）　受渡場所（　　）<br>・Ｄ種　適用場所（　　）<br>（品質：粗粒分（75μ以下）の含有率（重量百分率）の上限を50%未満とする。））<br>・（材料：　　工法：　　） |
| | ② | 建設発生土の処理<br>（3．2．5） | ※　構外指示の場所に処分<br>・　構内指示場所に敷き均し<br>・　構内指示場所に堆積 |
| | 3 | 山留めの撤去<br>（3．3．3） | 鋼矢板等の抜き後の処理　※直ちに砂で充填する<br>山留の存置　・　行う（存置範囲　※　現場説明書の施工条件明示事項による） |
| ④ 地業工事 | ① | 共通仕様<br>（4．3．4，5）<br>（4．4．4）<br>（4．5．5，6） | ・　杭基礎<br>支持地盤の位置及び種類（基礎ぐいの先端位置含む）<br>※　構造図による<br>試験杭　（　　）本　位置は構造図による<br>⊙　直接基礎<br>支持地盤の位置及び種類（ラップルコンクリートの底面位置含む）<br>※　構造図による<br>⊙　支持地盤の設計支持力度（ 短期 60 ＫＮ／㎡,長期 30 ）ｋＮ／㎡以上<br>地盤の平板載荷試験　※　行わない<br>・　行う（　　）箇所<br>位置、深さ、対象地盤及び最大載荷荷重は構造図による。<br>試験の方法、報告書の記載事項等は構造図による。 |
| | 2 | 既製コンクリート杭地業<br>（4．2．2）<br>（4．3．1，3～6，8） | 種類<br>・<br>・　プレストレス鉄筋コンクリート杭（ＰＲＣ杭）<br>・　外殻鋼管付きコンクリート杭（ＳＣ杭）<br>ＳＣ杭の鋼管材料　・ＳＫＫ４００　・ＳＫＫ４９０ |

寸法、継手、性能等

| | 符号 | 杭径(㎜) | 杭長 (m)及び種別 | 厚さ(㎜) | 継手数 | ｾｯﾄ数 | コンクリート強度(Ｎ／㎟) | 長期設計支持力(ｋＮ／本) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 試験杭 | | | 上杭<br>中杭<br>下杭 | | | | | | |
| 本杭 | | | 上杭<br>中杭<br>下杭 | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

特定埋込杭工法における杭材料はＪＩＳ又は認定条件に適合するものとする。
先端部材形状　・　開放形　・　半解放形　・　閉そく形　・　構造図による
ネガティブフリクション対策
※　不要　・　要（構造図による）
杭の継手　・　アーク溶接継手　・　標準仕様書4.3.6による
溶接材料　※標準仕様書7.2.5(1)(2)による　・　構造図による
・　無溶接継手　（ ※　評定等を受けた工法）
無溶接継手は評定等により定められた項目の検査を行う。
施工は評定等に記された施工管理基準による。
杭頭の処理　・　切断しない　・　切断する
処理方法（切断にともなう補強方法含む）
※構造図による
杭頭の中詰材料　※　コンクリート（基礎コンクリートと同仕様）　・　構造図による
施工方法
・
アースオーガーの支持地盤への掘削深さ　・　１．５m程度
杭の支持地盤への根入れ深さ　・　１．０m以上

厚和寮ホーム（仮称）新築工事

建築工事特記仕様書（１）

CHECKED BY.

株式会社 白兎設計事務所
鳥取県知事　登録番号　第０５－１４２
管理建築士（一級建築士登録番号　２０２７９１）　藪田　浩明

| PROJECT.NO | DATE | DRAWING BY. |
|---|---|---|
| 2026-01 | 2026. 8 | 一級建築士登録番号 |
| DRAWING.NO | SCALE | 第314245号 |
| 特 - 01 | - | 中島　直行 |

## ④ 地業工事

### 3 鋼杭地業
(4.2.2)
(4.3.8)
(4.4.3~6)

根固め液及び杭周固定液の管理試験
※ 標準仕様書4.3.4(6)(ｺ)による
・ 構造図による

・ 特定埋込み杭工法
・ Ｈ１３国交告１１１３号第６による支持力算定式でα＝２５０程度を採用できる工法
・ Ｈ１３国交告１１１３号第６による支持力算定式でα＝ 、β＝ 、γ＝
を採用できる工法
工法 ・ プレボーリング拡大根固め工法 ・ 中堀り拡大根固め工法
杭周固定液の使用 ・ する ・ しない
杭の精度
水平方向の位置ずれ ・ 杭径の１／４かつ１００mm以下 ・
杭の傾斜 ・ １／１００以内 ・ 評定条件または認定条件による ・

種類の記号 ・ ＳＫＫ４００ ・ ＳＫＫ４９０ ・
寸法、継手、性能等

| | 符号 | 杭径 (mm) | 杭長 (m) 及び種別の記号 | 板厚 (mm) | 継手数 | ｾｯﾄ数 | 長期設計支持力 (ｋＮ／本) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 試験杭 | | | 上杭<br>中杭<br>下杭 | | | | | |
| 本杭 | | | 上杭<br>中杭<br>下杭 | | | | | |
| | | | | | | | | |

先端部材形状 ・ 開放形 ・ 半開放形 ・ 閉そく形 ・
先端部の補強 ・ 標準仕様書図4.4.1、表4.4.2による
先端部の補強（補強バンド等）及びその他付属品の材質
・ ＳＳ４００と同等又はそれ以上 ・
施工方法
・ 特定埋込み杭工法
・ Ｈ１３国交告１１１３号第６による支持力算定式でα＝２５０程度を採用できる工法
・ Ｈ１３国交告１１１３号第６による支持力算定式でα＝ 、β＝ 、γ＝
を採用できる工法
工法 ・ 中堀り拡大根固め工法 ・
杭の精度
水平方向の位置ずれ ・ 杭径の１／４かつ１００mm以下 ・
杭の傾斜 ・ １／１００以内 ・ 評定条件または認定条件による ・
杭の現場継手 ・ 溶接継手
形状 ・ JIS A 5525による
溶接材料 ・ 標準仕様書7.2.5(a)(b)による ・ 構造図による
・ 無溶接継手（※評定等を受けた工法）
無溶接継手は評定等により定められた項目の検査を行う。
・ 無溶接継手（※評定等を受けた工法 ）
杭頭の処理 ・ 切断しない ・ 切断する
処理方法（切断にともなう補強方法含む） ※ 構造図による
杭頭の中詰材料 ※ コンクリート（基礎コンクリートと同仕様） ・

### 4 場所打ちコンクリート杭地業
(4.2.2)
(4.5.1.4.6)

施工管理技術者 ※ 適用する
寸法、性能等

| | 符号 | 軸径 (mm) | 拡底径 (mm) | 杭長 (m) | セット数 | 長期設計支持力 (ｋＮ／本) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 試験杭 | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| 本杭 | | | | | | | |
| | | | | | | | |

材料 表4.5.1
コンクリートの種類
・ Ａ種 ※ Ｂ種
・ 評定等の内容による（場所打ち鋼管コンクリート杭工法及び拡底杭工法）
コンクリートの設計基準強度
（ ）Ｎ／mm²以上 スランプ ※ 18cm ・
構造体強度補正値
・ 3N／mm² ・ 構造図による ・ 評定等の内容による
セメントの種類 ※ 高炉セメントＢ種 G
鉄筋の種類 ※ ５章鉄筋工事の鉄筋の種類による
鋼管巻きの材料 ・ ＳＫＫ４００ ・ ＳＫＫ４９０ ・
鋼管径・板厚・長さ ※ 構造図による
掘削工法 ・ アースドリル工法（ ※ 安定液使用 ・ 無水掘削 ）
・ リバース工法
・ オールケーシング工法（孔内の水張 ・ 行う ・ 行わない ）
併用する工法 ・ 場所打ち鋼管コンクリート杭工法
鋼管巻き材料 ・SKK400 ・SKK490 ・
・ 拡底杭工法 （ ※ 安定液使用 ・ ）
孔壁測定 ※ 行う
測定方法 ※ 超音波測定器
測定場所 ※ 試験杭（ ）箇所及び本杭（ ）箇所
・ 行わない
帯筋 ※ 構造関係共通事項６.２（ａ）⑥（ロ）による
・ 構造図による
鉄筋の最小かぶり厚さ ・１００mm ・
鉄筋かごの補強
※ 構造図による
・ 杭径1.5m以下の場合は鋼板6×50(mm)、1.5mを超える場合は鋼板9×50～75(mm)の補強リングを3m以下の間隔で、かつ1節につき３箇所以上入れ、リングと主筋との接触部を溶接する。
組み立てた鉄筋の節ごとの継手 ※ 重ね継手
重ね継手の長さ ※ 構造図による ・
杭の精度
水平方向の位置ずれ ・ 杭径の１／４かつ１００mm以下 ・
杭の傾斜 ・ １／１００以内 ・ 評定条件または認定条件による ・

### ⑤ 砂利地業
(4.6.2.3)

材料 ※ 再生クラッシャラン G ・ 切込み砂利及び切込み砕石
厚さ及び使用範囲 ⊙ 鳥取県認定グリーン商品を利用すること

| 厚さ | 使用範囲 |
|---|---|
| ・ ５０ | ・ 基礎下 ・ 地中梁下 ・ 土間コンクリート下 ・ 土に接するスラブ下 |
| ⊙ １００ | ⊙ 基礎下 ⊙地中梁下 ⊙土間コンクリート下 ⊙土に接するスラブ下 |

### ⑥ 捨てコンクリート地業
(4.6.4)

コンクリートの仕様 ※ ６コンクリート工事 ６無筋コンクリートによる
厚さ及び使用範囲

| 厚さ | 使用範囲 |
|---|---|
| ※ ５０ | ・ 基礎下 ・ 土に接するスラブ下 ⊙ 地中梁下 |

### ⑦ 床下防湿層
(4.6.2.5)

施工範囲 ※ 建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下（ピット下を除く） ・
施工方法 ※ ポリエチレンフィルム厚さ０．１５mm以上 ・
防湿層の位置 ※ 図示による

### 8 地盤改良工法

工法 ・ 浅層混合処理工法 適用範囲、仕様及び計測、試験は構造図による。
・ 深層混合処理工法 適用範囲、仕様及び計測、試験は構造図による。

### 9 置換コンクリート地業（ラップルコンクリート地業）

形状・支持地盤 ※ 構造図による
支持地盤の長期設計支持力 ・（ ）（ＫＮ／m²）
コンクリートの仕様 ※ ６コンクリート工事 ６無筋コンクリートによる
型枠使用の有無 ※ 有り ・ 無し

## ⑤ 鉄筋工事

### ① 鉄筋
(5.2.1)

表5.2.1

| 規格の名称 | 種類の記号 | 使用箇所 | 呼び径（mm） | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 異形鉄筋 | ※ ＳＤ２９５ | 構造図による | ※ Ｄ１６以下 | |
| （鉄筋コンクリート用棒鋼） | ※ ＳＤ３４５ | | ※ Ｄ１９以上 | |
| | | | | |

### 2 溶接金網
(5.2.2)

| 種類の記号 | 使用箇所 | 呼び径・寸法・形状（mm） |
|---|---|---|
| ・溶接金網 | | |
| ・鉄筋格子 | | |

### 3 圧接完了後の試験
(5.4.10)

※ 超音波探傷試験 試験方法は標準仕様書 5.4.10(ｲ)(a)による。
・ 引張試験 試験方法は標準仕様書 5.4.10(ｲ)(b)による。

### ④ 鉄筋の継手
(5.3.4)

継手の工法

| 部位 | 継手工法と適用径の範囲 |
|---|---|
| ・ 柱主筋 | ※ ガス圧接（Ｄ１９以上） ・ |
| ・ 梁主筋 | ※ ガス圧接（Ｄ１９以上） ・ |
| ⊙ 基礎スラブ、耐圧スラブ | ⊙ 重ね継手（Ｄ１６以下） ・ガス圧接（Ｄ１９以上） |
| ・ 土圧壁など | ・ 重ね継手（Ｄ１６以下） ・ガス圧接（Ｄ１９以上） |
| ・ 耐震壁 | ※ 重ね継手 ・ |
| ・ 杭主筋 | ※ 重ね継手 ・ |

鉄筋の継手位置 ⊙ 構造関係共通事項による ・ 構造図による
鉄筋の継手長さ
柱及び梁の主筋 ※４０ｄと標準仕様書 表5.3.2の重ね継手長さのうち、大きい値とする。
・標準仕様書 表5.3.2の重ね継手長さ ・
耐力壁の鉄筋 ※４０ｄと標準仕様書 表5.3.2の重ね継手長さのうち、大きい値とする。
・標準仕様書 表5.3.2の重ね継手長さ ・
上記以外の鉄筋 ※標準仕様書 表5.3.2の重ね継手長さ

### ⑤ 基礎梁主筋の継手

⊙ 構造関係共通事項 図３．２による（ ※ 全て ・ 構造図による ・ ）
・ 構造関係共通事項 図５．３による（ ※ 全て ・ 構造図による ・ ）
・ 構造関係共通事項 図５．４による（ ※ 全て ・ 構造図による ・ ）

### ⑥ 鉄筋の定着長さ
(5.3.4)

柱に取り付ける梁の引張り鉄筋
※ ４０ｄと標準仕様書 表5.3.4の定着長さのうち、大きい値とする。
・ 標準仕様書 表5.3.4の定着長さ ⊙ 構造図による
上記以外の鉄筋
※ 構造関係共通事項による ⊙ 構造図による

### ⑦ 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔（溶接金網含む）
(5.3.5)

最小かぶり厚さ（目地底よりかぶりを確保する）
⊙ 構造関係共通事項 表４．１による
・
柱及び梁の主筋に029以上の使用の有無
⊙ なし
・ 有り 適用箇所（ ） 主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保する。

耐久性上不利な部分（塩害等を受けるおそれのある部分等）
※ 無し ・ 有り
最小かぶり厚さは下表による。

| 施工箇所 | 構造関係共通事項の値に加える寸法（mm） |
|---|---|
| ・柱、梁、壁及び底などの外気に接する面 | ※１０ |
| ・塩害の恐れがある部分 | ・２０ ・３０ ・図示 |

鉄筋相互のあき（機械式継手及び溶接継手を除く）
⊙ 構造関係共通事項による

### ⑧ 各部配筋
(5.3.7)

※ 構造関係共通事項による ⊙ 構造図による

### ⑨ 帯筋

※ Ｈ形 構造関係共通事項 図６．２（ａ）①Ｈ形による
（ ※ 全て ・ 構造図による ・ ）
・ Ｗ－Ｉ形 構造関係共通事項 図６．２（ａ）②Ｗ－Ｉ形による
（ ※ 全て ・ 構造図による ・ ）
・ ＳＰ形 構造関係共通事項 図６．２（ａ）⑤ＳＰ形による
（ ※ 全て ・ 構造図による ・ ）

### 10 壁開口部の補強

一般壁 ・ Ａ形 構造関係共通事項 表８．３による
（ ※ 全て ・ 構造図による ・ ）
※ Ｂ形 構造関係共通事項 表８．４による
（ ※ 全て ・ 構造図による ・ ）
・ 構造図による
耐震壁 ※ 構造図による

### 11 梁貫通孔の補強形式

※ Ｈ形 構造関係共通事項 表１１．１による
（ ※ 全て ・ 構造図による ・ ）
・ Ｍ形 図示による
（ ※ 全て ・ 構造図による ・ ）
・ ＭＨ形 図示による
（ ※ 全て ・ 構造図による ・ ）
・ 構造図による

### 12 構造（耐震）スリット

耐震スリットの設置箇所 ※ 構造図による ・
方式 ※ 完全 ・ 部分
形状 ※ 構造図による
耐火、遮音、防水処理への配慮
適用箇所 ※ 意匠図による ・
仕様 ※ 意匠図による ・
耐震スリット部詳細 ※ 図示による ・

### 13 特殊な鉄筋継手
(5.5.2)
(5.6.3)

・ 機械式継手
使用箇所 ※ 構造図による
性能（Ｈ１２建告第１４６３号に適合するもの） ・ Ａ級 ・
機械式継手の種類及び工法 ・（ ）
カプラー等の接合部分の相互のあき、最小かぶり厚さ ※ 構造図による
品質の確認方法、不良となった継手の修正方法等 ※ 構造図による
・ 溶接継手
使用箇所 ※ 構造図による
性能（Ｈ１２建告第１４６３号に適合するもの） ・ Ａ級 ・
溶接継手の工法 ・（ ）
鉄筋相互のあき ※ 構造図による
品質の確認方法、不良となった継手の修正方法等 ※ 構造図による

## ⑥ コンクリート工事

### ① コンクリートの種類
(6.2.1)

コンクリートの類別
※ Ｉ類（ＪＩＳ Ａ５３０８「レディーミクストコンクリート」への適合を認証されたコンクリート）
・ Ⅱ類（ＪＩＳ Ａ５３０８に適合したコンクリート）

### ② コンクリートの気乾単位容積質量による種類及び強度等
(6.2.1~4)
(6.3.2)
(6.10.1.2)

※ 普通コンクリート

| 設計基準強度(N/mm2) | スランプ(cm) | 気乾単位容積質量(t/m3) | 適用箇所 |
|---|---|---|---|
| ⊙ 21 | ⊙ 15 | 2.3程度 | 基礎、基礎梁<br>土間コンクリート |
| ・ | ⊙ 18 | 2.3程度 | 上記以外の建物躯体 |

構造体強度補正値 ※標準仕様書表6.3.2による ・ 構造図による

※ 軽量コンクリート

| 設計基準強度(N/mm2) | スランプ(cm) | 気乾単位容積質量(t/m3) | 種類 | 適用箇所 |
|---|---|---|---|---|
| ・<br>・ | ※ 21<br>・ | ・ | ・1類 ・2類 | 構造図による |

構造体強度補正値 ※標準仕様書表6.3.2による ・ 構造図による

### ③ セメント
(6.3.1)

種類
※ 普通ポルトランドセメント、高炉セメントＡ種、シリカセメントＡ種又はフライアッシュセメントＡ種
普通ポルトランドセメントの品質は、ＪＩＳ Ｒ５２１０に示された規定の他、水和熱が７日目で３５２Ｊ／ｇ以下、かつ２８日目で４０２Ｊ／ｇ以下のものとする
・ 高炉セメントＢ種 G 適用箇所（ ）
・ フライアッシュセメントＢ種 G 適用箇所（ ）

### ④ 骨材
(6.3.1)

アルカリシリカ反応による区分
※ Ａ
・ Ｂ （ ※コンクリート中のアルカリ総量 Ｒｔ＝３．０ｋｇ／ｍ³以下）

### ⑤ 混和材
(6.3.1)

⊙ 混和剤（ＪＩＳ Ａ６２０４に適合するＡＥ剤、ＡＥ減水剤又は高性能ＡＥ減水剤とし、化学混和剤の塩化物イオン量による区分はＩ種とする。また、防錆剤を併用する場合は、ＪＩＳ Ａ６２０５による防錆剤とする。）
・ 混和材（ＪＩＳ Ａ６２０１に適合するフライアッシュのＩ種、Ⅱ種若しくはⅣ種、ＪＩＳ Ａ６２０６による高炉スラグ微粉末、ＪＩＳ Ａ６２０７によるシリカフューム又はＪＩＳ Ａ６２０２による膨張材とする。）

### ⑥ 無筋コンクリート
(6.3.1)
(6.14.1)

コンクリートの種類 ※ 普通コンクリート ・
適用箇所 ⊙ 標準仕様書６．１４．１(4)(ア) ～(カ)による ・ 構造図による
設計基準強度Ｆｃ（Ｎ／mm²） ※１８ ・
スランプ ※ １５又は１８ ・
セメントの種類
※普通ポルトランドセメント、高炉セメントＡ種、シリカセメントＡ種又はフライアッシュセメントＡ種
・ 高炉セメントＢ種 G
・ フライアッシュセメントＢ種 G

### ⑦ 打継ぎの位置、ひび割れ誘発目地、打継目地
(6.6.4)
(6.8.1)

打継ぎの位置 ※ 標準仕様書 ６．６．４(1)による ・ 構造図による
目地寸法 ※ 標準仕様書 ９．７．３(1)による ・ 図示による
ひび割れ誘発目地の位置・形状・寸法 ※ 図示による

### ⑧ コンクリートの仕上り
(6.2.5)

合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げ 表6.2.4

| 種類 | 適用箇所 |
|---|---|
| ・ Ａ種 | |
| ⊙ Ｂ種 | ⊙ 建築躯体 |
| ・ Ｃ種 | |

### ⑨ 打増し厚さ
(6.8.1)

打増し厚さ
⊙ 打放し仕上げの打増し厚さ（外部に面する部分に限る）
※２０mm ・
・ 打放し仕上げの打増し厚さ（内部に面する部分に限る）
・１０mm ・２０mm ・
・ 外装タイル後張り面の打増し処理
※２０mm ・
・ 床型枠用鋼製デッキプレートの梁側面部の打増し処理
プレートが支持される梁の側面について下記の打増しを行う
※１０mm ・２０mm ・

### ⑩ 型枠
(6.8.2)

せき板の材料及び厚さ
※ 合板(※ 12mm ・ ) G（但し、グリーン購入法基本方針における「合板型枠」の備考３の表示にある合板型枠を用いる場合に限る）
コンクリート及びグラウト打設時の充填性の確認のため、型枠の一部に透明型枠等を使用する場合は強度、変形等について、事前に監督職員と協議する。
※ メッシュ型枠（使用部位 ※構造図による）
・ 床型枠用鋼製デッキプレート（施工範囲 ※ 構造図による）
スリーブの材種・規格等
※ 構造図による
断熱材兼用型枠
・ 使用する ※ 25mm 以下かつ熱抵抗値1m²℃／kCal 以上 ・
・ 使用しない

### ⑪ コンクリートの試験
(6.9.1~5)

コンクリートの単位水量測定
⊙ 行わない
・ 行う
実施要領 ※ 構造関係共通事項による ・

## 7 鉄骨工事

### 1 鉄骨の製作工場
(7.1.3)

製作工場の加工能力
※ 建築基準法第７７条の５６第１項に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた（株）日本鉄骨評価センター及び（一社）全国鉄骨評価機構（旧（社）全国鐵構工業協会）の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める「（・J ・R ※W ・H ・S）グレード」として国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場
・ 監督職員の承諾する製作工場（標準仕様書７．１．１以外の適用範囲に限る）

### 2 施工管理技術者
(7.1.4)

※ 適用する ・ 適用しない

### 3 鋼材
(7.2.1)

鋼材の材質 表7.2.1

| 種類の記号 | 使用箇所 | 規格等 |
|---|---|---|
| | | ※ ＪＩＳ規格による |
| | | ※ ＪＩＳ規格による |
| | | ※ ＪＩＳ規格による |
| | | ※ ＪＩＳ規格による |

### 4 高力ボルト
(7.2.2)
(7.3.2)
(7.4.2)

区分
※ トルシア形高力ボルト ２種（Ｓ１０Ｔ）建築基準法に基づき認定を受けたもの
・ ＪＩＳ形高力ボルト ２種（Ｆ１０Ｔ）
高力ボルトの径 ※ 構造図による
すべり係数試験
※ 行わない ・ 行う（試験方法等 ・ すべり係数試験 ・ すべり耐力試験）
試験方法等 ※ 構造図による
ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 ・ 構造関係共通事項による ・

### 5 溶融亜鉛めっき高力ボルト
(7.3.2)
(7.12.4)

セットの種類
※ １種（Ｆ８Ｔ相当）建築基準法に基づき認定を受けたもの
溶融亜鉛めっき高力ボルトのめっき前の孔径
・大臣認定を受けた内容による
ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等
・構造関係共通事項による ・
摩擦面の処理
※ ブラスト処理（表面粗度５０μmＲｚ以上）
・ ブラスト以外の特別な処理 ・ 構造図による
すべり耐力等の確認方法 ※ 構造図による

### 6 普通ボルト
(7.2.3)
(7.3.2)
(7.3.8)

ボルト及びナットの材料等
・ 標準仕様書 表7.2.3（JIS付属書品）による
・ 標準仕様書 表7.2.3（JIS付属書品）又はJIS本体規格品（ISO規格）による
（JIS本体規格品による場合は、ボルトの種類を呼び径六角ボルトまたは全ねじボルト、強度区分を4.6又は4.8の鋼製とし、ナットの種類を六角ナットの鋼製とする。なお、呼び径六角ボルトの軸径の最大寸法は、ボルト径の値以下とする。）
座金 ※ 標準仕様書 表7.2.3（d）による ・
ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等
・ 構造関係共通事項（鉄骨標準図）１－１縁端距離及ボルト間隔 ・ 構造図による
母屋又は胴縁の取付けに使用するボルトの孔径
※ ねじの呼び径＋１．０mm ・ 構造図による

### 7 アンカーボルト
(7.2.4)
(7.3.2)
(7.10.3)

・ 構造用アンカーボルト
セットの種類（JIS B1220） ・ ABR400 ・ ABR490 ・ SNR400
形状、寸法 ※構造図による
・ 建方用アンカーボルト
材質 ・SS400 ・
アンカーボルト及びナットのねじの種類の規格、ねじの等級の規格及び仕上げの程度
・ 標準仕様書 表７．２．３による ・
形状、寸法 ※構造図による
ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等
・ 構造関係共通事項による ・

### 8 ターンバックル
(7.2.6)

種類
建築用ターンバックル胴 ※ 割枠式 ・
建築用ターンバックルボルト ※ 羽子板ボルト ・
ねじの呼び ※構造図による

### 9 デッキプレート
(7.2.7)
(7.7.8)

工法の種別
・ 合成スラブ（適用箇所 ※ 構造図による ・ ）
・ 床型枠用 （適用箇所 ※ 構造図による ・ ）
・
材質、形状及び寸法 ※ 構造図による
床型枠を使用する場合において、受注者は施工に先立ち安全性を確認するものとする。
鉄骨部材への溶接方法 ※ 構造図による
耐火認定 ・ 有り（耐火時間 ※ 図示による ・ ） ・ 無し

### 10 スタッドボルト
(7.2.8)

※ 頭付スタッド（ＪＩＳ Ｂ１１９８）

| 径（呼び名） | 長さ （呼び長さ） mm | 適用箇所 |
|---|---|---|
| １６φ | ・８０ ・１００ ・１２０ | |
| １９φ | ・８０ ・１００ ・１３０ ・１５０ | |
| ２２φ | ・８０ ・１００ ・１３０ ・１５０ | |

### 11 柱底均しモルタル
(7.2.9)
(7.10.3)

モルタルの種別 ※無収縮モルタル
無収縮モルタルの材料及び調合
※ 標準仕様書７．２．９(b) （1）から（4）による ・

### 12 製作精度
(7.3.3)

※ 標準仕様書７．３．３及びH12建告第1464号第二号イによる
通しダイヤフラムの許容誤差
・ ダイヤフラムをH12建告第1464号第二号イ(1)(2)に規定するただし書きの計算確認有り
補強方法
・ 「突合わせ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による
・
・ 全てのダイヤフラムはH12建告第1464号第二号イ(1)(2)に規定する仕様を満足すること

### 13 仮組
(7.3.10)

仮組を行う範囲 ・ 構造図による ・

### 14 高力ボルト接合

スプライスプレートの材質 ※ 鋼材の種別及び引張強さによる区分は母材と同等とする
フィラープレートの材質 ※ ＳＳ４００とする

### 15 溶接接合
(7.6.4.7)

開先の形状 ※ 構造関係共通事項（５）３．溶接継手の種類別開先標準による
・ 構造図による
スカラップの形状 ※ 構造関係共通事項（６）５．鉄骨溶接施工（３）による
・ 構造図による
エンドタブの切除する箇所 ※ 構造図による ・
エンドタブの切除する範囲 ※ 構造図による
・ エンドタブ、裏当て金等は梁フランジの端から５mmを残して直線上に切断する
なお、切断面が交差する場合は、交差部をアール状に加工する。
切断面の仕上げ
※ 標準仕様書7.6.7(1)(b)(b)②による
・ 構造図による

### 16 入熱、パス間温度の溶接条件

鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件
※ 構造関係共通事項による ・ 図示による
適用箇所
※ 柱、梁、ブレースのフランジ端部の完全溶込み溶接部 ・ 図示による

---

厚和寮ホーム（仮称）新築工事

建築工事特記仕様書（２）

CHECKED BY.

株式会社 白兎設計事務所
鳥取県知事 登録番号 第０５－１４２
管理建築士（一級建築士登録番号 ２０２７９１） 藪田 浩明

| PROJECT.NO | DATE | DRAWING BY. |
|---|---|---|
| 2026-01 | 2026. 8 | 一級建築士登録番号 第314245号 中島 直行 |
| DRAWING.NO | SCALE | |
| 特 - 02 | - | |

## 7 鉄骨工事

**17 溶接部の試験**（7.6.12）

完全溶込み溶接部の超音波探傷試験　表7.6.2~4

※　行う　・　行わない

工場溶接の場合

ＡＯＱＬ　※　４．０％　・　２．５％

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 節 | ※　全て | ・ | ・ | ・ | ・ |
| 検査水準 | ※　第６水準 | ・ | ・ | ・ | ・ |

工事現場溶接の場合

ＡＯＱＬ　※　４．０％　・　２．５％

割れの疑いのある表面欠陥においては、浸透探傷試験及び磁粉探傷試験を行う

突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査

独立行政法人建築研究所監修「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による

・　抜き取り検査１　※　抜き取り検査２

**18 耐火被覆**（7.9.2~8）

種別及び性能

| 種別 | 材料・工法 | 性能（耐火時間） | 適用箇所（部位・部分） |
|---|---|---|---|
| ・　耐火材吹付け | ・乾式吹付けロックウール | | |
| | ・半乾式吹付けロックウール | | |
| | ・湿式ロックウール | | |
| | ・ | | |
| | ・ | | |
| ・　耐火板張り | ・繊維混入けい酸カルシウム板 | | |
| | ・ | | |
| ・　耐火材巻付け | ・高耐熱ロックウール | | |
| | ・ | | |
| ・ラス張りモルタル塗り | ― | | |

材料及び工法は、建築基準法に基づき指定又は認定を受けたものとする

**19 建方精度**（7.10.2）

※　（社）日本建築学会「ＪＡＳＳ　６鉄骨工事」付則６［鉄骨精度検査基準］

付表５［工事現場］による

**20 アンカーボルトの保持及び埋込み工法**（7.2.4）（7.10.3）

構造用アンカーフレームの形状及び寸法

※図示による

建方用アンカーフレームの保持及び埋込み工法

種別　・Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種

柱底均しモルタルの厚さ及び工法の種別

※標準仕様書　表７．１０．２（※Ａ種[モルタル厚さ５０]　・Ｂ種[モルタル厚さ３０]）による

**21 錆止め塗装**（7.8.2~4）（18.3.2）

塗料の種別

亜鉛めっき鋼面の錆止め塗料

※　標準仕様書　表１８．３．２のＡ種

・　標準仕様書　表１８．３．２のＢ種

・　ＥＰ－Ｇの適用箇所は標準仕様書　表１８．３．２のＣ種

耐火被覆材の接着する面への塗装

・　行う

適用箇所　※　図示による　・

塗装の種別　・標準仕様書18.3.2表18.3.1（　）種

・標準仕様書18.3.2表18.3.2（　）種

※　行わない

**22 溶融亜鉛めっき工法**（7.10.1~6）

種別等　表14.2.2

| 亜鉛めっきの種別 | 材　料 | 適用箇所 |
|---|---|---|
| ・Ａ種(HDZ55) | 最小板厚6.0mm以上の形鋼、鋼板 | ※図示による |
| ・Ｂ種(HDZ45) | 最小板厚3.2mm以上、6.0mm未満の形鋼、鋼板 | |
| ・Ｃ種(HDZ35) | 普通ボルト・ナット類、アンカーボルト類 | |
| | 最小板厚1.6mm以上、3.2mm未満の形鋼、鋼板 | |

**23 梁貫通孔の補強**

補強方法　・補強プレート法　・補強トラス法

適用箇所　・構造図による

## 8 コンクリートブロック・ＡＬＣパネル・押出成形セメント板工事

**1 補強コンクリートブロック造**（8.2.2.3.5）

ブロックの種類　表8.2.2

| 断面形状及び圧縮強さによる区分 | 正味厚さ(mm) | モデュール呼び寸法(mm) 長さ | 高さ | 化粧の有無 | 適用箇所 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ※空洞ブロック-16 | | | | ・無　・有 | | |
| ・ | | | | ・無　・有 | | |

モルタルの調合（容積比）

※　標準仕様書8.2.1による　・　（セメント（　　）　・砂（　　））

各部の配筋　※　図示による　・

モルタル又はコンクリートで充填するブロックの範囲　※　図示による　・

**2 コンクリートブロック帳壁及び塀**（8.3.2.3）

ブロックの種類　表8.3.1

| 断面形状及び圧縮強さによる区分 | 正味厚さ(mm) | モデュール呼び寸法(mm) 長さ | 高さ | 化粧の有無 | (表8.3.1)以外の適用箇所 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ・空洞ブロック-16 | | | | ・無　・有 | | |
| ・型枠状ブロック-20 | | | | ・無　・有 | | |
| ・ | | | | ・無　・有 | | |

塀の厚さ　※　塀の高さが２ｍ以下の場合１２０ｍｍ、塀の高さが２ｍ超える場合１５０ｍｍ

壁鉄筋の継手、定着及び末端部の折り曲げ形状　※　図示　・

各部の配筋　※　図示

**3 ＡＬＣパネル**（8.4.2~5）

表8.4.2~4

| パネルの区分 | 単位荷重(N/㎡) | 厚さ(mm) | 長さ(mm) | 幅(mm) | 耐火性能 | 表面加工 | 構造の種別 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ・外壁パネル | | ・100<br>・ | | | 有（1）時間 | ・平<br>・意匠 | ・Ａ種　・Ｂ種 |
| ・間仕切壁パネル | | ・100<br>・ | | | ・有（1）時間<br>・無 | ・平<br>・意匠 | ・Ｃ種　・Ｄ種<br>・Ｅ種 |
| ・屋根パネル | | ・100<br>・ | | | 有（0.5）時間 | 平 | ・Ｆ種 |
| ・床パネル | | ・100<br>・ | | | ・有（1）時間<br>・無 | | |

パネルの相互の接合部に充填する耐火目地材

※　パネル製造所の仕様　・

外壁、屋根パネルの工法

建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1　・1.15　・1.3）倍の風圧力に対応した工法

パネル幅の最小限度を300mm未満とする場合　・

外壁、間仕切パネルの出隅及び入隅のパネル接合部並びにパネルと他部材との取り合い部の目地

幅　※１０～２０ｍｍ　・

外壁、間仕切パネルの伸縮調整目地への耐火目地材の充填　・　適用する　・　適用しない

**4 押出成形セメント板（ＥＣＰ）**（8.5.2~5）

| パネルの種類 | 表面形状 | 厚さ(mm) | 幅(mm) | 工法の種別 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| ・外壁パネル | ・Ｆ(ﾌﾗｯﾄﾊﾟﾈﾙ) | ・50　・60 | | ・Ａ種<br>・Ｂ種 | |
| | ・Ｄ(ﾃﾞｻﾞｲﾝﾊﾟﾈﾙ) | ・50　・60 | 600 | | |
| | ・Ｔ(ﾀｲﾙﾊﾟｰﾈﾙ)60 | | | | |
| ・間仕切壁パネル | ・Ｆ(ﾌﾗｯﾄﾊﾟﾈﾙ) | ・50　・60 | | ・Ｂ種<br>・Ｃ種 | |
| | ・Ｄ(ﾃﾞｻﾞｲﾝﾊﾟﾈﾙ) | ・50　・60 | 600 | | |
| | ・Ｔ(ﾀｲﾙﾊﾟｰﾈﾙ) | 60 | | | |

外壁パネルの工法

建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1　・1.15　・1.3）倍の風圧力に対応した工法

パネル幅の最小限度を300mm未満とする場合　・　図示による　・

パネルの相互の目地幅(mm)　※表2010、短辺15

出隅及び入隅のパネル接合部の目地幅(mm)　※15　・

耐火構造以外の目地及び隙間の処理　※パネル製造所の仕様　・

やむを得ず欠き込み等を行う場合は、下表の寸法を限度とする。ただし、欠損部分を考慮した強度の確認のうえ、施工計画書を提出する。

パネル開口の限度

| | | 開口の大きさ | 切断後のパネルの残り部分の幅 |
|---|---|---|---|
| ・開口 | 短辺 | ・ | ・ |
| | 長辺 | ・ | ・ |
| ・切り欠き | 短辺 | ・ | ・ |
| | 長辺 | ・ | ・ |

## ⑨ 防水工事

**1 アスファルト防水**（9.2.2~5）（表9.2.3~9）

アスファルトの種類　３種

防水層の下地のモルタル塗り　・　適用する（施工範囲　・　図示　・　　）

屋根保護防水　表9.2.7~6

| 種別 | 施工箇所 | 断熱材Ⓖ | 絶縁用シート | 立上り部の保護 |
|---|---|---|---|---|
| ・　Ａ－１ | | ※　ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝﾌｨﾙﾑ厚さ 0.15mm以上・ | ※　乾式保護材<br>・　ｺﾝｸﾘｰﾄ押えれんが押え<br>・ | |
| ・　Ａ－２ | | | | |
| ・　Ａ－３ | | | | |
| ・　Ｂ－１ | | | | |
| ・　Ｂ－２ | | | | |
| ・　Ｂ－３ | | | | |
| ・　ＡＩ－１ | | 材質 JIS A 9521（建築用断熱材）に基づく押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種bA（スキン層付き）厚さ　※　25mm　・　50mm・ | ※　ﾌﾗｯﾄﾔｰﾝｸﾛｽ 70ｇ／㎡程度 | |
| ・　ＡＩ－２ | | | | |
| ・　ＡＩ－３ | | | | |
| ・　ＢＩ－１ | | | | |
| ・　ＢＩ－２ | | | | |
| ・　ＢＩ－３ | | | | |

改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ

※標準仕様書表9.2.3から表9.2.6による　・

部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ

※標準仕様書表9.2.5から表9.2.6による

平場の保護コンクリートの厚さ

こて仕上げ　※水下　80mm以上　・

床タイル張り　※水下　60mm以上　・

断熱材は、原則としてグリーン購入法における特定調達品目を使用すること

屋根保護防水断熱工法の断熱材（オゾン層破壊物質を含まないもの。また、長期的に断熱性能を保持しつつ、可能な限り地球温暖化係数の小さい物質が使用されていること）Ⓖ

厚さ　※　２５mm　・　５０mm　・

防水立上がり部の保護

※　乾式保護材

窯業系パネル：無石綿の繊維質原料等を主原料として、板状に押出成形しオートクレーブ養生したもの。

金属複合板：金属板と樹脂を積層一体化したもの。

（品質・性能）

| 分類・規格 | | ・　窯業系パネルⅠ類(寒冷地仕様) | ・　窯業系パネルⅡ類(一般地仕様) | ・　金属複合板 |
|---|---|---|---|---|
| 寸法(mm) | 厚さ(mm) | | | |
| | 幅(mm) | | | |
| 寸法の許容差 | | 厚さ：+10%、-5%、幅：±1% | | |
| 出荷時の含水率 | | 出荷時において10%以下 | | ― |
| 曲げ強さ・曲げモーメント(N・cm)（スパン40cmにおける単位幅1cmあたりの曲げモーメント） | 標準時 | 550以上 | 450以上 | 300以上 |
| | 凍結融解完了時（試験サイクル数） | 400以上（300） | 320以上（200） | 250以上（300） |
| 吸水率（%） | | 20以下 | 20以下 | 1以下 |
| 吸水による長さ変化率(%) | | 0.07以下 | 0.07以下 | 0.01以下 |
| 難燃性 | | 不燃 | 不燃 | 表面材は不燃 |
| 耐凍結融解性能 | | 曲げ強さ、曲げモーメントの凍結融解完了時の試験サイクル後、著しい割れや剥離がなく、外観上異常がないこと | | |
| 耐衝撃性能 | | 質量500g（窯業系パネルⅠ類は1,000g）のおもりを高さ1.0mから試験体の弱点部に落としたとき、裏面に達する穴があかないこと。 | | 質量500gのおもりを高さ1.0mから試験体の弱点部に落としたとき、裏面に達する穴があかないこと。残留変形量1/100以下かつ加圧時の最大変形量4/100以下 |
| 剛性(E×I)（スパン40cm幅30cmの中央曲げ時に荷重720Nの時、たわみ4mm以下となる剛性） | | ― | ― | 80,000N・cm2以上 |

試験方法

１）寸法の測定方法

（厚さ）供試体の周辺から20mm以上内側の四隅を0.05mmまで測定できる測定器で測り、4点の平均値を求めてパネルの厚さとする。

（幅）供試体を平らな台に置き、供試体のほぼ中央１箇所の幅寸法をJIS B 7512「鋼製巻尺」に規定する目量が1mmの１級コンベックスルール又は、JIS B 7516「金属製直直尺」に規定する目量が1mmの１級直尺を用いて測定する。

２）曲げ強度試験は、JIS A 1408「建築用ボード類の曲げ及び衝撃試験方法」による。試験体は3号試験体とする。幅及び厚さは製品寸法とし、支持スパン長さは400mmとする。試験方法は試験体の表面からスパン中央全幅に集中荷重を載荷し、試験体が破壊した時の最大荷重を測定する。同時に破壊時の中央部のたわみ量について、変位計を用いて測定する。測定項目については、凍結融解試験前、同試験100、200、300サイクル完了後の合計４項目にわたって測定する。（窯業系パネルⅡ類は200サイクルまでとする。）なお、荷重を加える前の平均速度は１～３分間で予想最大荷重に達する程度とする。

３）吸水率試験は、JIS A 5430「繊維強化セメント板」に準じて行う。

４）難燃性試験は、JIS　A 1321「建築物の内装材料及び工法の難燃性試験方法」に準じて行う。

５）吸水による長さ変化率試験は、試験体(幅４０mm×長さ１６０mm×素材厚さ)を乾燥機に入れ、その温度を６０±３℃に保ち24時間経過した後取り出してJIS K 8123「塩化カルシウム（試薬）」に規定する塩化カルシウム又は JIS K 1464「工業用乾燥剤」に規定する品質に適合するシリカゲルで調湿したデシケータに入れ、常温まで冷却する。次に、試験片の標線間隔が140mmになるように標線を刻む。その後、1/150mm以上の精度をもつコンパレータを用いて標線間の長さを測定し、それを基準（L1）とする。次に試験片の長さ方向を水平にこば立てし、その上端が水平下約30mmとなるように保持して、常温の水中に浸せきする。

24時間経過した後、試験片を水中から取り出して湿布で表面に付着した水を拭き取り、再び標線間の長さ（L2）を測る。

吸水による長さ変化率（ΔL）は、次式によって求める。

（ΔL）＝（L2 － L1）/ Ｌ１×１００ΔＬ：吸水による長さ変化率（%）

L1：乾燥時の標線間の長さ（mm）　L2　：吸水時の標線間の長さ（mm）

６）耐凍結融解性能試験は、JIS A 5422「窯業系サイディング」の気中凍結水中融解法によって行う。100、200、300各サイクル完了時の曲げ強度測定及び外観の状態を観察する。（窯業系パネルⅡ類は200サイクルまでとする。）－２０±３℃の気中で約2時間の凍結、２０±３℃の水中で約1時間の融解を行う約3時間を1サイクルとする。

７）耐衝撃性能試験は、JIS A 1408「建築用ボード類の曲げ及び衝撃試験方法」の衝撃性試験に準じて行う。試験体の支持装置は、記号S２対辺単純支持方法による。

試験体の大きさは、4号（長さ400mm，幅300mm）とする。おもりは鋼製のなす形おもりとし、記号（Ⅲ-1000）、質量1000gとする。試験体を支持装置で支持して、堅固な床に水平に置き、おもりを試験体の中央の鉛直上１．０mから試験体の弱点部に自然落下させ、裏面に達する穴の「有・無」を確認する。

金属複合板の残留変形量は、最大くぼみ深さを測定する。

**2 改質アスファルトシート防水**（9.3.2.3）（表9.3.1~3）

屋根露出防水　表9.2.7~8

| 種別 | 施工箇所 | 断熱材Ⓖ | 仕上げ塗料 種類 | 仕上げ塗料 使用量 | 高日射反射率防水の適用Ⓖ |
|---|---|---|---|---|---|
| ・Ｄ－１ | | | ・ | ※製造所の仕様による・ | ・ |
| ・Ｄ－２ | | | | | ・ |
| ・Ｄ－３ | | | | | ・ |
| ・Ｄ－４ | | | | | ・ |
| ・ＤＩ－１ | | JIS A 9521（建築用断熱材）に基づく発泡ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ断熱材種類※硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ断熱材2種1号又は2号・厚さ　※　25mm　・　50mm・ | | | |
| ・ＤＩ－２<br>保護層　・　設ける（図示） | | | | | |

屋根露出防水絶縁断熱工法の場合の、ﾙｰﾌﾄﾞﾚﾝ周り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置

※　図示　・

脱気装置の種類　※　アスファルトルーフィング類の製造所の仕様　・

脱気装置の設置数量　※　アスファルトルーフィング類の製造所の仕様　・

屋内防水　表9.2.9

| 種別 | 施工箇所 | 種別 | 施工箇所 |
|---|---|---|---|
| ・　Ｅ－１ | | ・　Ｅ－２ | |

Ｅ－１の場合で工程３を行う部位（　※　貯水槽、浴槽等常時水に接する部位　・　　）

保護層　・設ける（　※　図示　・　　）

防水層の下地の立上り

※　コンクリート打放し仕上げ　標準仕様書表5.2.4［打放し仕上げの種別］のB種

・

押え金物の材質及び形状寸法

※アルミニウム製　L-30×15×2.0mm程度　・

防水層の下地のモルタル塗り

※　適用しない　・　適用する（施工範囲　※　図示　・　　）

屋上排水溝　※　図示　・

**3 合成高分子系ルーフィングシート防水**（9.4.2~4）（表9.4.1~3）

防水層の種類　表9.4.1~3

| 種別 | 施工箇所 | 絶縁用シートの材種 | 断熱材Ⓖ | 仕上げ塗料 種類 | 仕上げ塗料 使用量 | 高日射反射率防水の適用Ⓖ |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ・Ｓ－Ｆ１ | | | | ・ | ・　正方形の仕様による | ・ |
| ・Ｓ－Ｆ２ | | | | | | ・ |
| ・Ｓ－Ｍ１ | | | | ・ | ・　製造所の仕様による | ・ |
| ・Ｓ－Ｍ２ | | | | | | ・ |
| ・Ｓ－Ｍ３ | | | | | | ・ |
| ・ＳＩ－Ｆ１ | | ※　標準仕様書9.4.2(3)(1)(b)による種類　※　硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号又は2号厚さ ※　25mm　・ | | ・ | ・　製造所の仕様による | ・ |
| ・ＳＩ－Ｆ２ | | | | | | ・ |
| ・ＳＩ－Ｍ１ | | ※　標準仕様書9.4.2(3)(1)(a)による種類　※　硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号又は2号厚さ ※　25mm　・ | | ・ | ・　製造所の指定による | ・ |
| ・ＳＩ－Ｍ２ | | | | | | ・ |

ＳＩ－Ｆ１、ＳＩ－Ｆ２、ＳＩ－Ｍ１及びＳＩ－Ｍ２における防湿用フィルム

※　設けない　・　設ける

ＳＩ－Ｍ２の絶縁用シートの材種

※　発泡ポリエチレンシート　・

Ｓ－Ｍ２及びＳＩ－Ｍ２の立上り部の工法

※　接着工法（立上り面のシートの厚さ　※1.5mm　・　　）　・機械的固定工法

## ⑨ 防水工事

屋内防水

防水層の種別

| 種別 | 施工箇所 | 保護層 平場のモルタル塗り 塗厚(mm) | 工法 | 立上り部の保護モルタルの塗厚 |
|---|---|---|---|---|
| ・S-C1 | ・ | ・ | ・　床塗り<br>・　下地モルタル塗り<br>・ | ※　7mm以下<br>・ |

屋内防水で平場を保護コンクリート仕上げとする場合の厚さ　・

ルーフィングシートの種類及び厚さ

※標準仕様書表9.4.1から表9.4.3による　・

絶縁用シートの材質　※　発泡ポリエチレンシート　・

固定金具の材質及び寸法形状

※　防錆処理した鋼板、ステンレス鋼板又はそれらの鋼板の片面若しくは両面に樹脂を積層加工したもので、厚さが０，４mm以上のもの

・

接着工法の場合の脱気装置の種類　※　ルーフィングシートの製造所の仕様

接着工法の場合の脱気装置の設置数量　※　ルーフィングシートの製造所の仕様

プレキャストコンクリート部材下地の目地処理（接着工法の場合）

・　行う（・　図示　・　　）　・行わない

プレキャストコンクリート部材の入隅部の増張り（種別Ｓ－Ｆ１、ＳＩ－Ｆ１の場合）

・　行う（・　図示　・　　）　・行わない

機械的固定工法の場合の一般部のルーフィングシートの張付け

建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1　・1.15　・1.3）倍の風圧力に対応した工法

**4 塗膜防水**（9.5.3）（表9.5.1.2）

防水層の種類

| 種別 | 施工箇所 | 仕上げ塗料 種類 | 仕上げ塗料 使用量 | 保護層 | 高日射反射率防水の適用Ⓖ |
|---|---|---|---|---|---|
| ・　Ｘ－１Ⓖ | | ・<br>・製造所の指定による | ・<br>・製造所の指定による | | |
| ・　Ｘ－２Ⓖ | | ・<br>・製造所の指定による | ・<br>・製造所の指定による | | |
| ・　Ｙ－１ | ※　地下外壁防水 | | | | |
| ・　Ｙ－２ | ※　屋内防水 | | | | |

Ｘ－１（絶縁工法）の脱気装置の種類　※　主材料の製造所の仕様　・

Ｘ－１（絶縁工法）の脱気装置の設置数量　※　主材料の製造所の仕様　・　個

Ｙ－１、Ｙ－２の工程数及び各工程の使用量

※標準仕様書表9.5.2による　・主材料の製造所の仕様　・

**5 ケイ酸質系塗膜防水**（9.6.1~3）（表9.6.1.2）

表9.6.1~2

| 種別 | 施工箇所 |
|---|---|
| ※　Ｃ－ＵＩ | |
| ・　Ｃ－ＵＰ | |

壁及び天井部の防水層の下地

※　コンクリート打放し仕上げ（標準仕様書表6.2.4　B種）

コンクリートの打継ぎ箇所の下地処理

※　打継ぎ部分に対し、幅30mmにＶ形にはつり、水洗い清掃した後、防水材の製造所の指定する材料を充填

・

型枠締付け材にコーンが使用されている部位及び防水材の塗布面以外の下地処理

※　図示　・

**6 脱気装置**（9.2.3）（9.3.3）（9.5.3）

| 防水種別 | 脱気装置の種類・設置数量 |
|---|---|
| D-1 D-2 D-3 D-4 DI-1 DI-2 AS-T3 AS-T4 AS-J1 ASI-T1 ASI-J1 | ※ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ類製造所の仕様による・ |
| X-1 | ※防水層の主材料の製造所の仕様による・ |

**7 シーリング**（9.7.2.3.5）（表9.7.1）

下表以外は、標準仕様書表9.7.1による

ただし、外壁タイル接着剤張りの場合のシーリングは11章に、カーテンウォールの場合のシーリングは17章による　表9.7.1

| 施工箇所 | シーリング材の種類（記号） |
|---|---|
| 外壁、建具枠周囲 | WS-2 |
| 内部水回り等 | SR-1 |

シーリング材の目地寸法　※標準仕様書9.7.3(1)(ｱ)～(ｳ)による　・

接着性試験　⊙　簡易接着性試験　・　引張接着性試験

## 10 石工事

**1 施工**（10.1.3.5）

石材の割付け　※　図示　・

粗面仕上げの場合のみ込み部分の仕上げ　・図示　・

屋内の床を本磨きとする場合のワックスかけ　・行う（適用場所　※すべて　・　　）

・行わない

**2 石材等**（10.2.1.3）（表10.2.1.2）

天然石

| 施工箇所 | 岩石の種類 | 等級 | 形状及び寸法(mm) | 厚さ(mm) | 仕上げの種類 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ・　床石 | | | ※　正方形に近い矩形（1枚の面積　0.8㎡以下） | | | |
| | | | | | | |

テラゾブロック

| 施工箇所 | 種石の種類 | 種石の大きさ(mm) | 形状 | 仕上げ面 | 寸法(mm) | 仕上げの種類 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | ※大理石<br>・花こう岩 | ※1.5~12<br>・ | ・平もの<br>・役もの | ・片面<br>・両面 | | | |
| | | | | | | | |

テラゾタイル

| 施工箇所 | 種石の種類 | 種石の大きさ(mm) | 寸法による区分 | 表面仕上げ | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| | ※大理石<br>・花こう岩 | ※1.5~12<br>・ | ・300型<br>・400型 | | |
| | | | | | |

取付け用モルタル、既調合の目地モルタル、石裏面処理材、裏打ち処理材、金物の固定に使用する充填材料

※　専門工事業者の指定する製品　・

厚和寮ホーム（仮称）新築工事

建築工事特記仕様書（３）

CHECKED BY.

株式会社 白兎設計事務所

鳥取県知事　登録番号　第０５－１４２

管理建築士（一級建築士登録番号　２０２７９１）　藪田　浩明

| PROJECT.NO | DATE | DRAWING BY. |
|---|---|---|
| 2026-01 | 2026. 8 | 一級建築士登録番号 第314245号 中島　直行 |
| DRAWING.NO | SCALE | |
| 特 - 03 | - | |

3 外壁湿式工法
(10. 2. 2. 3)
(10. 3. 2. 3)

受金物　材質　※SUS304
形状及び寸法　・L-75×75×6(mm)の加工　L=100mm
・L-75×75×6(mm)の加工　L=150mm
・
アンカーの材質及び径　※SS400　M12　・
あと施工アンカーの材質及び寸法（　　）
ドレンパイプの材質　・樹脂ネット製パイプ　クロスメッシュ巻き　25～35φ
・
石裏面処理　・適用する　・適用しない
裏打ち処理　・適用する　・適用しない
下地ごしらえ　※流し筋工法　・あと施工アンカー工法　・あと施工アンカー、横筋横流し工法
目地　一般目地　目地幅(mm)　※6以上
シーリング材　・適用する　・適用しない
伸縮調整目地　位置　※標準仕様書表11.1.1による　・図示
シーリング材の目地寸法　※標準仕様書9.7.3(1)(ｳ)による
・図示

4 内壁空積工法
(10. 2. 2)
(10. 4. 2. 3)

受金物　材質　※SUS304
形状及び寸法　・L-75×75×6(mm)の加工　L=100mm
・L-75×75×6(mm)の加工　L=150mm
・
アンカーの材質及び径　※SS400　M12　・
あと施工アンカーの材質及び寸法（　　）
石裏面処理　・適用する　・適用しない
裏打ち処理　・適用する　・適用しない
下地ごしらえ　※あと施工アンカー工法　・横筋流し工法　・あと施工アンカー工法
目地　一般目地　目地幅(mm)　※6以上
シーリング材　・適用する　・適用しない
伸縮調整目地　位置　※6mごと　・図示
シーリング材の目地寸法　※標準仕様書9.7.3(1)(ｳ)による
・図示

5 乾式工法
(10. 2. 2)
(10. 5. 2. 3)
(表10. 2. 4)

金物の種類、形状、寸法等　※　標準仕様書表10.2.4による　・
取付け方法　・スライド方式　・ロッキング方式
アンカーの材質及び径　※　ステンレス(SUS304)　M10　・
あと施工アンカーの材質及び寸法（　　）
だぼ用の穴の位置　※　標準仕様書10.5.2(2)(a)による　・図示
石裏面処理　・適用する　・適用しない
裏打ち処理　・適用する　・適用しない
外壁の工法
建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法
※　適用する（建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1　・1.15　・1.3）倍の風圧力に対応した工法）
・　適用しない
目地　目地幅(mm)　※　8以上　・
シーリング材　※　標準仕様書9.7による　・図示

6 床及び階段の石張り
(10. 6. 2. 3)

床石張りの裏面処理　※　適用する　・適用しない
階段張りの裏面処理　※　適用する　・適用しない
目地　一般目地　目地幅(mm)　※　屋外の場合は4以上、屋内の場合は3～6　・図示
シーリング材　・適用する　・適用しない
伸縮調整目地　位置　※　床面積30㎡程度ごと、細長い通路の場合6m程度ごと
及び他部材との取合い部
・図示
シーリング材の目地寸法　※　標準仕様書9.7.3(1)(ｳ)による
・図示

7 アーチ、上げ裏等の石張り
(10. 2. 2)
(10. 7. 1. 2)

取付け工法　・内壁空積工法　・乾式工法
取付け金物　※　標準仕様書10.2.2(3)による　・
引金物、だぼ、かすがい及び受金物　※　標準仕様書10.2.2(1)による　・
ファスナー　※　標準仕様書表10.2.4のスライド方式に準じる　・
吊金物及び化粧吊ボルト
・　設ける　吊金物　※　ステンレス(SUS304)径6mm長さ80mm（加工物）　・
吊りボルト　※　ステンレス(SUS304)M10化粧ナット付き　・
・　設けない
あと施工アンカーの材質及び寸法（　　）
石裏面処理　・適用する　・適用しない
裏打ち処理　・適用する　・適用しない
目地　一般目地　目地幅(mm)　※　6以上　・
伸縮調整目地　位置　※　他の部位との取合い部　・　図示
シーリング材の目地寸法　※　標準仕様書9.7.3(1)(ｳ)による　・

8 笠木、甲板等の石張り
(10. 2. 2)
(10. 7. 1. 3)

取付け工法　・外壁湿式工法　・乾式工法
取付け金物　※　標準仕様書10.2.2(c)による　・
引金物、だぼ、かすがい及び受金物　※　標準仕様書10.2.2(7)による　・
ファスナー　※標準仕様書表10.2.4のスライド方式に準じる　・
あと施工アンカーの材質及び寸法（　　）
石裏面処理　・適用する　・適用しない
乾式工法の場合の取付け代　※　標準仕様書10.5.3(2)による　・
石裏の補強用モルタル　・適用する　・適用しない

## ⑪ タイル工事

1 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地
(11. 1. 3)
(表11. 1. 1)

位置　※標準仕様書表11.1.1による　・図示

2 セメントモルタルによるタイル張り
(11. 2. 2. 7)

タイルの形状、寸法等　※メーカー、品番は全て参考とする

| 施工箇所 | 主な用途による区分 | 形状寸法(mm) | 吸水率による区分 Ⅰ類 | Ⅱ類 | Ⅲ類 | うわぐすり 無ゆう | 有ゆう | 役物 あり | なし | 色 標準 | 特注 | 再生材の適用 Ⓖ | 耐凍害性 あり | なし | 耐滑り性 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 内部 | 床 | 300×300 9.5t | ⊙ | ・ | ・ | ・ | ⊙ | ・ | ⊙ | ⊙ | ・ | ・ | ⊙ | ・ | ⊙ | アレス(LIXIL) |
| 外部 | 床 | 600×600 9.5t | ⊙ | ・ | ・ | ・ | ⊙ | ・ | ⊙ | ⊙ | ・ | ・ | ⊙ | ・ | ⊙ | ヴィコレ(LIXIL) |

耐滑り性：JIS A 1509-12（セラミックタイル試験方法－第12部：耐滑り性試験方法）で規定する
C.S.R値は0.4～1.0とする。
標準的な曲がりの役物は一体成形とする
試験張り　・行う　⊙行わない
見本焼き　・行う　⊙行わない
下地モルタル塗りのコンクリート素地面の処理　・MCR工法　・目荒し工法（高圧水洗処理）
壁タイル張りの工法
外装タイル　・密着張り　・改良積上げ張り　・改良圧着張り
内装タイル以外のユニットタイル　・マスク張り　・モザイクタイル張り
既成調合モルタル
モルタル下地としたタイル工事に使用する貼付け用モルタルとして、セメント、細骨材、混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。

品質性能等
保水率：７０％以上
単位容積重量：1.8kg/L以上
接着強さ：標準時　0.6N/mm2以上、温冷繰り返し後　0.4N/mm2以上
長さ変化率：0.2%以下
曲げ強さ：4.0N/mm2以上

試験方法
イ）試料の調製
製造業者の定める、正味質量と標準練り上がり量より換算し、所定量の試料とする。
練り混ぜは、JIS R 5201「セメントの物理試験方法」の9.1に規定する練り混ぜ機を使用し、練りばちに用意した水を入れ、撹拌しながら30秒間に材料を投入し、3分間練り混ぜて試料とする。
ロ）保水率
JIS R 3202「フロート板ガラス及び磨き板ガラス」に規定するみがき板ｶﾞﾗｽ(縦150mm、横150mm、厚さ5mm)の上にJIS P 3801「ろ紙（化学分析用）」に規定する5種ﾛｽ紙(直径11cm)をのせ、その中心部に真ちゅう製リング型わく（内径50mm、高さ10mm、厚さ3mm）を設置し、（1）で調製した試料を平滑に詰込む。
その後、直ちにリング型わく上部にガラス板を当てて上下を逆さまにし、ろ紙部分が上部になるようにして静置する。60分後にろ紙へにじみ出した水分の広がりが最大と認められた方向とこれに直角な方向の長さをノギスを用いて、1mmの単位まで測定する。
試験は３回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求める。
保水率＝50／平均値×100　　(注)　50:リング型わくの内径　mm
ハ）単位容積質量
JIS A 1171「ポリマーセメントモルタルの試験方法」に準ずる。
ニ）接着強さ（標準時）
1　適用タイルが「モザイクタイル」の場合
(試験体の作成）JIS A 5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」の附属書Ｂ（規定）及び推奨仕様Ｂ－１に規定する普通平板N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちに イ）で調製した試料を厚さ5mmになるように塗付ける。直ちにJIS A 5209「セラミックタイル」に規定する外装壁モザイクタイルで乾式成形の Ⅰ類（施ゆう）「50角ユニットタイル（外のり寸法約300mm×300mm）」を圧着する。その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿空養生を行い、これを試験体とする。
(試験方法）JIS A 6909「建築用仕上塗材」の7.9付着強さ試験に準じて行う。試験体をダイヤモンドカッターを用いて、タイル周辺に沿って下地板に達するまで切り込みを入れ、エポキシ樹脂接着剤で鋼製アタッチメントを接着し、引張試験機を用いて接着強さ試験を行う。なお、接着強さの測定箇所は、試験体の中からまんべんなく５箇所を選び抜き取る。（全てが0.6N/mm2以上）
2　適用タイルが「小口タイル・二丁掛けタイル」の場合
(試験体の作成）JIS A 5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」の附属書Ｂ（規定）及び推奨仕様Ｂ－１に規定する普通平板N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちに イ）で調製した試料を厚さ7mmになるように塗付ける。直ちにJIS A 5209「セラミックタイル」に規定する外装壁モザイクタイルで乾式成形の Ⅰ類（施ゆう）「小口タイル（108mm×60mm×12mm）」を4枚2列、計8枚を圧着する。その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿空養生を行い、これを試験体とする。
(試験方法）「モザイクタイル」の場合と同様に行う。
ホ）接着強さ（温冷繰返し後）
(試験体の作製）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛けタイル」とも、各々 ニ）標準時の接着強さの試験方法の「試験体」と同様とする。
(温冷繰返し試験）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛けタイル」とも、各々JIS A 6909「建築用仕上塗材」の7.10温冷繰返し試験に準じて行う。
試験の手順は、試験体を20±2℃の水中に18時間浸せきした後、直ちに-20±2℃の恒温器中で3時間冷却し、次いで50±2℃の別の恒温器中で3時間加温し、この24時間を１サイクルとする操作を10回繰返した後、試験室に2時間静置し、ひび割れ及び膨れの有無を目視によって調べる。
(温冷繰返し後の接着強さ試験方法）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛けタイル」とも、各々温冷繰返し試験完了後の試験体を標準状態で2日間静置養生した後、標準時の接着強さ試験方法と同様に行う。（全てが0.4N/mm2以上）
ヘ）長さ変化率
JIS A 6203「セメント混和用ポリマーディスパージョン及び再乳化形粉末樹脂」9.9長さ変化率に準ずる。
ト）曲げ強さ
JIS A 6916「建築用下地調整塗材」7.11曲げ強さ試験に準ずる。

既製調合目地材
品質性能等
保水率：３０％以上
長さ変化率：0.2%以下（収縮）
吸水量：50g以下
単位容積質量：1.8kg/L以上

試験方法
イ）試験の条件
試験室は、温度20±2℃、湿度65±5% RHの標準状態とする。また、試験に使用する材料、器具などを、予め24時間以上標準状態に置いた後使用する。
ロ）試料の調製
正味質量と標準練り上がり量より、1.0～1.2Lの試料を練り上げるのに要する材料に相当する量を計算して用意し、さらに標準加水量より用意した材料に相当する量の練り混ぜ水を計算して用意する。練り混ぜは、JIS R 5201「セメントの物理試験方法」10.1に規定する練り混ぜ機を使用し練りばちに用意した水を入れ、撹拌しながら30秒間に材料を投入し3分間練り混ぜて試料とする。
ハ）保水性（ろ紙法）
JIS R 3202「フロート板ガラス及び磨き板ガラス」に規定する磨き板ガラス（縦200mm、横200mm、厚さ5mm）の上にJIS P 3801「ろ紙（化学分析用）」に規定する5種ﾛ5 紙（直径18.5cm）をのせ、その中央部に真鍮製リング型わく（内径50mm、高さ10mm、厚さ3mm）を設置し、ロ）で練り混ぜた試料を金ベらで平滑に詰め込む。その後、直ちにリング型わく上部にガラス板を当て上下を逆さにし、ろ紙部分が上部になるようにして静置する。10分後にろ紙へにじみ出した水分の広がりが最大と認められた方向とこれに直角な方向の長さをノギスを用いて1mmまで測定する。試験は3回実施しその平均値を用いて次式により保水率を求める。
保水率（%）＝50／平均値×100　注）50:リング型わくの内径(mm)
ニ）単位容積質量
ロ）で練り混ぜた試料を、JIS A 1171「ポリマーセメントモルタルの試験方法」の6.3に規定する方法で求める。
ホ）長さ変化率
ロ）で調製した試料を用いてJIS A 1171の7.6長さ変化率試験に従って行う。
ヘ）吸水量
ロ）で調製した試料を用いてJIS A 1404「建築用セメント防水剤の試験方法」10.に規定する方法で24時間の吸水量を求める。試験体数は3個とし、その平均値とする。

3 有機系接着剤によるタイル張り
(11. 3. 2～4、7)

タイルの形状、寸法等　※メーカー、品番は全て参考とする

| 施工箇所 | 主な用途による区分 | 形状寸法(mm) | 吸水率による区分 Ⅰ類 | Ⅱ類 | Ⅲ類 | うわぐすり 無ゆう | 有ゆう | 役物 有 | 無 | 色 標準 | 特注 | 再生材の適用 Ⓖ | 耐凍害性 有 | 無 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 内部 | 巾木 | 300×60 9.5t | ・ | ・ | ⊙ | ・ | ⊙ | ・ | ⊙ | ⊙ | ・ | ・ | ⊙ | ・ | アレス(LIXIL) |
| | | | ・ | ・ | ・ | ・ | ・ | ・ | ・ | ・ | ・ | ・ | ・ | ・ | |

4 陶磁器質タイル型枠先付け

標準的な曲がりの役物は一体成形とする
試験張り　・行う　⊙行わない
見本焼き　⊙行う　・行わない
有機系接着剤のホルムアルデヒド放散量　※　規制対象外　・
目地のシーリング材
打継ぎ目地　※ポリウレタン系シーリング材
ひび割れ誘発目地　※ポリウレタン系シーリング材
伸縮調製目地　※変性シリコーン系シーリング材
その他の目地　※変性シリコーン系シーリング材
下地調整塗材塗りを行うコンクリート素地面の処理
・目荒し工法（高圧水洗処理）　・　ＭＣＲ工法

タイルの形状、寸法等

| 施工箇所 | 主な用途による区分 | 形状寸法(mm) | 吸水率による区分 Ⅰ類 | Ⅱ類 | Ⅲ類 | うわぐすり 無ゆう | 有ゆう | 役物 あり | なし | 色 標準 | 特注 | 再生材の適用 Ⓖ | 耐凍害性 あり | なし | 耐滑り性 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | ・ | ・ | ・ | ・ | ・ | ・ | ・ | ・ | ・ | ・ | ・ | ・ | ・ | |
| | | | ・ | ・ | ・ | ・ | ・ | ・ | ・ | ・ | ・ | ・ | ・ | ・ | ・ | |

標準的な曲がりの役物は一体成形とする
試験張り　・行う　・行わない
見本焼き　・行う　・行わない

タイル型枠先付けの種類

| 種類 | 適用タイル | タイル型枠先付け面のせき板の種類 |
|---|---|---|
| ・タイルシート法 | ・小口タイル | ※標準仕様書6.8.3(b)(2) |
| ・目地桝法 | ・二丁掛けタイル | ・金属製タイル先付け用パネル |
| ・桟木法 | ・大形タイル | ・ |

## ⑫ 木工事

① 表面仕上げ
(12. 1. 4)
(表12. 1. 1)

表12. 1. 1

| 表面仕上げの種別 | | 施工箇所 |
|---|---|---|
| 機械加工 | ⊙A種 | 化粧柱、キッチンカウンター、建具枠 |
| | ⊙B種 | 巾木、廻縁 |
| | ・C種 | |
| 手加工 | ・H－A種 | |
| | ・H－B種 | |
| | ・H－C種 | |

② 製材 Ⓖ
(12. 2. 1)
(12. 4. 1)
(12. 5. 1)
(12. 6. 1)
(12. 7. 1)

木材のうち、桧、杉及び松は、「鳥取県産材産地証明制度」の認証を受けたものを使用すること。
・「製材の日本農林規格」による下地用針葉樹製材

| 施工箇所 | 樹種 | 寸法(mm) | 等級 | 形状 | 含水率 | 保存処理 | 間伐材等の利用 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | ※２種 | | ※A種　・B種 | | ・ |

⊙「製材の日本農林規格」による造作用針葉樹製材

| 施工箇所 | 樹種 | 寸法(mm) | 等級 | 形状 | 含水率 | 保存処理 | 間伐材等の利用 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 見え掛り面 | 桧 | 105×30<br>36×45 | ※上小節<br>・ | | ※A種　・B種 | | ・ |
| 見え掛り面以外 | | | ※小節以上<br>・ | | ※A種　・B種 | | ・ |

・「製材の日本農林規格」による広葉樹製材

| 施工箇所 | 樹種 | 寸法(mm) | 等級 | 形状 | 含水率 | 保存処理 | 間伐材等の利用 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | ※１等<br>・ | | ※10%以下　・A種<br>・B種 | | ・ |

・「製材の日本農林規格」以外の製材

| 施工箇所 | 樹種 | 寸法(mm) | 材面の品質 | 防虫処理 | 難燃処理 | 含水率 | 間伐材等の利用 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | （　　）<br>造作材の場合<br>(※A種・B種) | ・適用する<br>・適用しない | ・適用する<br>・適用しない | ※A種<br>・B種<br>・ | ・ |

③ 造作用集成材Ⓖ
(12. 2. 1)

ホルムアルデヒド放散量　※規制対象外　・
・「集成材の日本農林規格」による造作用集成材

| 施工箇所 | 樹種 | 寸法(mm) | 見付け材面数 | 見付け材面の品質 | 間伐材等の適用 |
|---|---|---|---|---|---|
| 枠・額縁 | 桧 | 図示 | | ※１等　・２等 | ・ |

・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり造作用集成材

| 施工箇所 | 樹種 | 寸法(mm) | 化粧薄板の厚さ(mm) | 見付け材面数 | 見付け材面の品質 | 間伐材等の適用 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 化粧薄板：<br>芯材　： | | | | ※１等<br>・２等 | ・ |

・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり構造用集成柱

| 施工箇所 | 樹種 | 寸法(mm) | 化粧薄板の厚さ(mm) | 見付け材面の品質 | 間伐材等の適用 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 化粧薄板：<br>芯材　： | | | | ・ |

・「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材

| 施工箇所 | 樹種 | 寸法(mm) | 見付け材面の品質 | 含水率 | 間伐材等の適用 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | ※１５%以下　・ | ・ |

・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり造作用集成材

| 施工箇所 | 樹種 | 寸法(mm) | 化粧薄板の厚さ(mm) | 見付け材面の品質 | 含水率 | 間伐材等の適用 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 化粧薄板：<br>芯材　： | | | | ※１５%以下　・ | ・ |

・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり構造用集成柱

| 施工箇所 | 樹種 | 寸法(mm) | 化粧薄板の厚さ(mm) | 見付け材面の品質 | 含水率 | 間伐材等の適用 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 化粧薄板：<br>芯材　： | | | | ※１５%以下　・ | ・ |

4 造作用単板積層材 Ⓖ
(12. 2. 1)

ホルムアルデヒド放散量　※規制対象外　・
・「単板積層材の日本農林規格」による造作用単板積層材

| 施工箇所 | 厚さ(mm) | 表面の化粧加工 | 防虫処理 | 間伐材等の適用 |
|---|---|---|---|---|
| | | ・有り（加工　・天然木加工　・塗装加工）<br>・無し（等級：　　） | ・適用する<br>・適用しない | ・ |

・「単板積層材の日本農林規格」以外の造作用単板積層材

| 施工箇所 | 厚さ(mm) | 表面の品質 | 防虫処理 | 含水率 | 間伐材等の適用 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | ・有り<br>（加工　・天然木加工　・塗装加工）<br>・無し（　　） | ・適用する<br>・適用しない | ※ 14以下<br>・ | ・ |

4 直交集成板
(12. 2. 1)

・直交集成材（ＣＬＴ）

| 施工箇所 | 品名 | 曲げ強度（強度等級） | 種別 | 強度性能（使用環境） | 樹種 | 寸法(mm) | 間伐材等の利用 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

⑥ 床張り用合板等
(12. 2. 1)

ホルムアルデヒド放散量　※規制対象外　・
・普通合板 Ⓖ

| 施工箇所 | 厚さ(mm) | 単板の樹種名 | 接着の程度 | 板面の品質 | 防虫処理 | 難燃処理 | 防炎処理 | 間伐材等の適用 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | ※5.5<br>・ | | ※１類<br>・２類 | 広葉樹<br>※2等以上　・1等<br>針葉樹<br>※C-D以上　・ | ・適用する<br>・適用しない | ・適用する<br>・適用しない | ・適用する<br>・適用しない | ・ |

⊙構造用合板 Ⓖ

| 施工箇所 | 厚さ(mm) | 等級 | 単板の樹種名 | 接着の程度 | 板面の品質 | 有効断面係数比 | 防虫処理 | 強度等級 | 間伐材等の適用 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 床 | ※12<br>・ | ※2級以上<br>・1級 | 広葉樹 | ※１類<br>・特類 | ※C-D以上<br>・ | | ・適用する<br>⊙適用しない | ・適用する<br>（　　）<br>⊙適用しない | ・ |

・「合板の日本農林規格」による化粧ばり構造用合板 Ⓖ

| 施工箇所 | 厚さ(mm) | 単板の樹種名 | 接着の程度 | 防虫処理 | 間伐材等の適用 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | ※１類　※特類 | ・適用する<br>・適用しない | ・ |

・「合板の日本農林規格」による天然木化粧合板 Ⓖ

| 施工箇所 | 化粧板に使用する単板の樹種名 | 厚さ(mm) | 接着の程度 | 防虫処理 | 間伐材等の適用 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | ※１類　・２類 | ・適用する<br>・適用しない | ・ |

・「合板の日本農林規格」による特殊加工化粧合板 Ⓖ

| 施工箇所 | 厚さ(mm) | 接着の程度 | 表面性能 | 化粧加工の方法 | 防虫処理 | 間伐材等の適用 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | ※１類　・２類 | | | ・適用する<br>・適用しない | ・ |

・パーティクルボード Ⓖ

| 施工箇所 | 厚さ(mm) | 表裏面の状態による区分 | 曲げ強さによる区分 | 耐水性による区分 | 難燃性による区分 |
|---|---|---|---|---|---|
| | ※15 | | ※13タイプ<br>・ | ※P又はM<br>・ | |

・構造用パネル

| 施工箇所 | 厚さ(mm) | 等級 |
|---|---|---|
| | | ・１級　・２級　・３級　・４級 |

・ミディアムデンシティーファイバーボード（ＭＤＦ） Ⓖ

| 施工箇所 | 厚さ(mm) | 表裏面の状態による区分 | 曲げ強さによる区分 | 接着剤による区分 | 難燃性による区分 | 間伐材等の適用 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | |

⑦ 接着剤
(12. 2. 2. 3)

接着剤は、可塑剤（フタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-２-エチルヘキシル等を含有しない難揮発性の可塑剤を除く）が添付されていないものとする。
ホルムアルデヒド放散量　※規制対象外　・

⑧ 防腐・防蟻処理
(12. 3. 1. 2)

・防腐、防蟻処理を省略できる樹種による製材
適用部位：（ 土台・外部化粧柱・内部化粧柱　）

⊙薬剤の加圧注入による防腐・防蟻処理

| 適用部材 | 保存処理性能区分 |
|---|---|
| 土台・外部化粧柱 | ・Ｋ２　⊙Ｋ３　・Ｋ４ |

・薬剤の塗布等による防腐・防蟻処理

| 適用部材 | 処理の方法 |
|---|---|
| 内部化粧柱 | ※標準仕様書12.3.1(f)(b)①～④による |

・薬剤の接着剤への混入による防腐・防蟻処理
適用部位：（　　）

厚和寮ホーム（仮称）新築工事

建築工事特記仕様書（４）

CHECKED BY.

株式会社 白兎設計事務所
鳥取県知事　登録番号　第０５－１４２
管理建築士（一級建築士登録番号　２０２７９１）　藪田　浩明

| PROJECT.NO | DATE | DRAWING BY. |
|---|---|---|
| 2026-01 | 2026. 8 | 一級建築士登録番号 |
| DRAWING.NO | SCALE | 第314245号 |
| 特 - 04 | - | 中島　直行 |

## ⑬ 屋根及びとい工事

### 1 長尺金属板葺
(13. 2. 2、3)

| 施工箇所 | 板及びｺｲﾙの種類 | 塗膜の耐久性、めっき付着量等の種類及び記号 | 厚さ(mm) | 屋根葺形式 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| | ※JIS G 3322の屋根用ｺｲﾙ | | | ・心木なし瓦棒葺<br>・立平葺　・縞掛葺<br>・横葺　・ | |

下葺材料　・アスファルトルーフィング940
　　・改質アスファルトルーフィング下葺材
　　（・一般タイプ　・複層基材タイプ　・粘着層付タイプ）
工法
　建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法
　※適用する（建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1　・1.15　・1.3）倍の風圧力及び
　　積雪荷重に対応した工法）
　・適用しない
雪止め　・設置する（図示）

### ② 折板葺
(13.2.2)
(13.3.2、3)
(表13.2.1)

| 施工箇所 | 形式 | 山高、山ﾋﾟｯﾁによる区分 山高 | 山ﾋﾟｯﾁ | 耐力による区分 | 材料による区分 | 厚さ(mm) | 軒先面戸板 | 耐火性能 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 屋根 | ・重ね形<br>⊙まぜ締め形<br>・かん合形<br>・ | 166 | 500 | （ ）種 | ※鋼板製<br>・ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金板製 | 0.8 | ⊙有り<br>・無し | ・30分<br>⊙無し |

材料
　板及びコイルの種類（　　）
　塗膜の耐久性、めっき付着量等の種類及び記号（　　）
　タイトフレームにJIS G 3302以外の鋼材を直接外気の影響を受けない屋内で使用する場合の表面処理
　※　標準仕様書表14.2.2のF種
断熱材　⊙有り（種別：ポリエチレンフォーム（裏貼り）　厚さ(mm)：t=4.0　防火性能：　時間）
　・無し
工法
　建築基準法に基づき定まる風圧力の（⊙1　・1.15　・1.3）倍の風圧力に対応した工法
　折板のけらば納め　※　けらば包みによる方法　・

### 3 粘土瓦葺
(13.4.2、3)

| 施工箇所 | 種類 製法による区分 | 形状による区分 | 寸法による区分 | 大きさ | 産地 | 役物瓦の種類 | 雪止め瓦 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | ・適用する<br>・適用しない |
| | | | | | | | ・適用する<br>・適用しない |

JIS A 5208に基づく凍結試験等　・　行う　・　行わない
瓦桟木　　材質　※　杉又はひのき　・
　　寸法　※　幅21×高さ15(mm)以上　・
棟補強用心材　材質　※　杉又はひのき　・
　　寸法　※　幅40×高さ30(mm)以上　・
棟補強等に使用する金物等　材質　※ステンレス製又は溶融亜鉛めっき処理を行った鋼製
　　・
　　形状、寸法及び留付け方法　※　図示　・
下葺材料　　※　改質アスファルトルーフィング下葺材
　　（・一般タイプ　・複層基材タイプ　・粘着層付タイプ）
工法
　建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1　・1.15　・1.3）倍の風圧力に対応した工法
瓦桟木の留付け工法　※図示　・
棟の工法　※図示による　・標準仕様書13.4.3(d)(1)～(3)による

### ④ といい
(13.5.2、3)
(表13.5.5)

といの材種　・配管用鋼管　⊙硬質ポリ塩化ビニル管　⊙SUS製
といの受け金物及び足金物の材種、形状及び取付け間隔
　　※　標準仕様書表13.5.2により、溶融亜鉛めっき行ったもの
　　・
多雪地域　　⊙　運用する　・　運用しない
防露材のホルムアルデヒド放散量
　　※　規制対象外　・
鋼管製といの防露巻き　⊙適用する（工法：　※　標準仕様書表13.5.4による　・　　）
　　・適用しない
ルーフドレン

| 種別 | 施工箇所 |
|---|---|
| ・ろく屋根用（・縦型　・横型） | |
| ・バルコニー用 | |
| ・バルコニー中継用 | |

## ⑭ 金属工事

### 1 ステンレス表面仕上げ
(14. 2. 1)

| 種類 | 施工箇所（手すり、タラップ、建具以外） |
|---|---|
| ※ＨＬ程度 | |
| ・鏡面仕上げ | |
| ・No.2B程度 | |

### 2 アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理
(14. 2. 2)
(表14. 2. 1)

表14. 2. 1

| 種別 | 色合等 | 施工箇所（成形板、笠木、建具以外） |
|---|---|---|
| | ・ 標準色（　　）　・特注色（　　） | |
| | ・ 標準色（　　）　・特注色（　　） | |

陽極酸化皮膜の着色方法　※二次電解着色　・三次電解着色

### 3 鉄鋼の亜鉛めっき
(14. 2. 3)
(表14. 2. 2)

表14. 2. 2

| 表面処理方法 | 種別 | 施工箇所（手摺、タラップ以外） |
|---|---|---|
| 溶融亜鉛めっき | ・Ａ種 | |
| | ・Ｂ種 | |
| | ・Ｃ種 | |
| 電気亜鉛めっき | ・Ｄ種 | |
| | ・Ｅ種 | |
| | ・Ｆ種 | |

### ④ 軽量鉄骨天井下地
(14. 4. 2～4)
(表14. 4. 1)

野縁等の種類
　屋外（※　25形　・　19形）　屋内（※　19形　・　25形）
・　屋外の軒天井、ピロティ天井等
工法
　建築基準法に基づき定まる風圧力の（⊙1　・1.15　・1.3）倍の風圧力に対応した工法
　野縁受、吊りボルト及びインサートの間隔　・図示　・
　周辺部の端からの間隔　・図示　・
　野縁の間隔　・図示　・

・　吊りボルトの間隔が900mmを超える場合
　補強方法　※　図示　・
・　天井のふところが1.5m以上3.0m以下の場合
　補強方法　※　標準仕様書14.4.4(8)による　・図示
・　天井　のふところが3.0mを超える場合
　補強方法　※　図示
・　天井下地材における耐震性を考慮した補強
　補強箇所　※　高さが６ｍを超える天井、それ以外は図示　・
　補強方法　※　「特定天井及び特定天井の構造耐力上安全な構造方法を定める件」（平成25年 国土交通省告示第771号）第3第2項第二号に適合させる。
　　・　図示

### ⑤ 軽量鉄骨壁下地
(14. 5. 3)
(表14. 5. 1)

スタッド、ランナーの種類
　※標準仕様書表14.5.1によるスタッドの高さによる区分に応じた種類　・　図示
スタッドの高さが５．０ｍを超える場合　※　図示
出入口及びこれに準ずる開口部の補強　※　標準仕様書14.5.4(5)による　・

### 6 金属成形板張り
(14. 6. 2、3)
(表14. 2. 1)

表14. 2. 1

| 種別 | 製法 | 形状 | 寸法(mm) | 板厚(mm) | 表面処理（標準仕様書14.2.1による） 種別 | 色合等 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ・ｱﾙﾐﾆｳﾑ | ・押出し<br>・ロール | ｽﾊﾟﾝﾄﾞﾚﾙ形 | | | | ・標準色（　　）　・<br>・特注色（　　）　・ |
| | ・プレス<br>・ | パネル形 | | | | |
| | ・ | | | | | |

取付け用下地　※　標準仕様書14.4による　・　図示
伸縮調整継手　・　設ける（施工箇所　・　図示　・　　）　・設けない

### ⑦ アルミニウム製笠木
(14. 7. 2、3)
(表14. 2. 1)
(表14. 7. 1)

種類　・250形　・300形　・350形　⊙図示　　表14. 7. 1
表面処理　種別（　　）種
　　色合等　・　無着色　⊙標準色（　黒　）　・　特注色（　　）
笠木の固定金具の工法等
　建築基準法に基づき定まる風圧力の（⊙1　・1.15　・1.3）倍の風圧力に対応した工法

### 8 手すり及びタラップ
(14. 8. 2、3)

手すり　・　ステンレス製　SUS304（表面処理　※　HL程度　・　No.2B程度　・　　）
　　・　鋼製　（表面処理　※　溶融亜鉛めっき種　・　　）
　　・　図示
タラップ　・　ステンレス製SUS304（表面処理　研磨なし　・　　）
　　・　鋼製　（表面処理　※　溶融亜鉛めっき種　・　　）

## ⑮ 左官工事

### ① モルタル塗り
(15. 3. 2、5)

モルタル　※現場調合材料　・既調合材料（材料　　）
既製目地材　・設ける　施工箇所（　　）　形状（※図示　・　　）
　　・設けない
床の目地　・設ける（目地割り　※２㎡程度（最大目地間隔３ｍ程度　・　　）
　　（種類　※押し目地　・　　）
　　・設けない
外壁タイル張り下地モルタル塗り及び下地調整材塗りの接着力試験　・　適用する　・　適用しない
建具廻りの等の充填モルタルに使用する防水剤
（品質・性能）
（試験方法）JIS A 1404「建築用セメント防水剤試験方法」による。

| 項目 | 品質・性能 |
|---|---|
| 防水剤の種別 | 建築用のモルタルに用いるセメント防水剤 |
| 混合割合 | セメント重量の5%以下 |
| 凝結及び安定性 | （凝結時間）始発：1時間以上　終結：10時間以内<br>（安定性）収縮性、膨張性のひび割れ及びそりの有無について確認する。 |
| 曲げ及び圧縮強度比 | 防水剤を混入したもの、しないものの曲げ強度比及び圧縮強度比 70%以上 |
| 吸水比 | 防水剤を混入したもの、しないものの吸水比 95%以下 |
| 透水比 | 防水剤を混入したもの、しないものの透水比 80%以下<br>ただし、透水試験における水圧は、$3.0\times10^{7}$Paとし1時間行う。 |

### 2 ラス系下地
(15. 2. 4)

ラス系下地の種類及び材料
・　通期工法二層下地（材料　※　２種防水紙付きリブラス800　・　　）
　　換気口部の措置　※　木造標準仕様書11.4.3(2)(ｳ)による
・　通気工法二層下地（材料　※　２種波形ラス700　・　　）
・　直張り工法ラスモルタル下地（材料　・　　）
・　直張りラスシートモルタル下地（材料　・　　）
建築基準法に基づく耐力壁、防火構造、準耐火構造等の指定（　　）

### ③ 床コンクリートの直均し仕上
(6. 2. 5)
(15. 4. 2)

仕上げの平たんさは、図示及び標準仕様書15.4.2(7)(ｲ)による以外は下記による。

| 標準仕様書表6.2.5による平たんさの種別 | 施工箇所 |
|---|---|
| ａ種 | 合成樹脂塗床、ビニル系床材張り、床コンクリート直均し仕上げ、フリーアクセスフロア（置敷式）（　　） |
| ｂ種 | カーペット張り、防水下地、セルフレベリング材塗り（　　） |
| ｃ種 | タイル張り、モルタル塗り、フリーアクセスフロア（支柱調整式）（　　） |

### ④ セルフレベリング材料塗り
(15. 5. 2)
(表15. 5. 1)

種類及び品質　・　せっこう系　⊙　セメント系
標準塗厚（mm）　※　図示　・

### 5 仕上げ塗材仕上げ
(15. 6. 2)

建築内部に使用する塗料のホルムアルデヒド放散量　※　規制対象外　・
・薄付け仕上げ塗材　　表15. 5. 7～2

| 呼び名 | 仕上げの形状 | 工法 | 吸放湿性 | 防火材料 |
|---|---|---|---|---|
| | | | ・適用する | ・ |
| | | | ・適用する | ・ |

・薄付け仕上げ塗材

| 呼び名 | 仕上げの形状 | 工法 | 吸放湿性 | 上塗り材 | 防火材料 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | ・適用する | ・適用する | ・ |
| | | | ・適用する | ・適用する | ・ |

・複層仕上げ塗材

| 呼び名 | 仕上げの形状 | 工法 | 上塗り材の種類 | 耐候性 | 防火材料 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 水系溶媒　※<br>・<br>樹脂　※　アクリル系<br>・<br>外観　※　つやあり | ※　耐候形<br>３種<br>・ | ・ |

・軽量骨材仕上げ塗材

| 呼び名 | 防火材料 |
|---|---|
| | ・ |
| | ・ |

### 6 ＡＬＣパネルの場合の下地処理
(15. 6. 4)

内部目地部の形状　※Ｖ形目地付き　・

### 7 マスチック塗料塗り
(15. 7. 2)

種別　・　Ａ種　・　Ｂ種

### 8 せっこうプラスター塗り塗り
(15. 8. 3)

下塗り及び中塗り
　※既調合プラスター（下塗り用）又は現場調合プラスター（下塗り用）
　・
上塗り
　・既調合プラスター（上塗り用）
　・しっくい塗り

### 9 ロックウール吹付け
(15. 12. 2、3)

ロックウールのホルムアルデヒド放散量　※　規制対象外　・
接着剤のホルムアルデヒド放散量　　※　規制対象外　・
仕上げ吹付け厚さ(mm)・　図示　・　25

### １０ しっくい塗り
(15. 10. 2、3)

材料　※　現場調合材料　・　既調合材料（種類等　　）
　※　現場調合材料　・　既調合材料（種類等　　）
下地
　・　木ずり下地（調合及び各層の塗厚　標準仕様書表15.10.1による　・　　）
　・　こまい土壁下地（調合及び各層の塗厚　標準仕様書表15.10.2による　・　　）
　・　せっこうラスボード（調合及び各層の塗厚　・　　）
　・　せっこうボード（調合及び各層の塗厚　・　　）

### １０ こまい塗り
(15. 11. 2～5)
(15. 11. 7、8)

のりの種類
　土壁用ののり　※　つのまた　・
　砂壁用ののり　※　ふのり　・
色土の種類
　土物仕上げに用いる土色　・
　大津仕上げに用いる土色　・
色砂の種類
　天然砂と岩石の砕砂　・　人工的に着色・製造したもの
下塗りの調合　※　標準仕様書表15.11.2による
塗厚
　※　標準仕様書表15.11.8による　・
　・　建築基準法に基づく耐力壁の指定がある場合（　　）
　・
こまい壁塗りの工程種別　※A種　・
土物仕上げの工法の種類　・　土物仕上げ工法
　　・　水ごね土物１工法　・　水ごね土物２工法
　　・　のりさし土物工法　・　のりごね土物工法
　　・　砂壁仕上げ工法
　　・　切り替え仕上げ工法
大津仕上げの工法の種類　・　普通大津仕上げ工法　・　大津みがき仕上げ工法

## ⑯ 建具工事

### 1 防火戸
(16. 1. 3)

・　適用する　適用箇所（※　建具表による　・　　）

### 2 建具見本の製作
(16. 1. 4)

※　製作しない　・　製作する（・　納まり等が分かる程度のもの　・　　）

### 3 防犯建物部品
(16. 1. 6)

・　適用する　適用箇所（※　建具表による　・　　）

### ④ アルミニウム製建具
(16. 2. 2、4、5)
(表14. 2. 1)
(表16. 2. 1)

性能等級
・　耐風圧の等級（　S-4　）、気密性の等級（　A-3　）、水密性の等級（　W-4　）
※　標準仕様書表16.2.1による種別
　外部に面する建具の種別（コンクリート下地及び鉄骨下地）
　　・Ａ種（建具符号：　・　全て　・　建具表による　・　　）
　　・Ｂ種（建具符号：　・　全て　・　建具表による　・　　）
　　⊙Ｃ種（建具符号：　・　全て　・　建具表による　⊙AW-2,6,7　）
　外部に面する建具の種別（木下地）
　　・Ｄ種（建具符号：　・　全て　・　建具表による　・　　）
　　・Ｅ種（建具符号：　・　全て　・　建具表による　・　　）
防音ドア、防音サッシ　　遮音性の等級（　・　　）
　　（建具符号：　・　建具表による　・　　）
断熱ドア、断熱サッシ　Ⓖ　断熱性の等級（　・　　）
　　（建具符号：　・　建具表による　・　　）
耐震ドア　　面内変形追随性の等級（　・　　）
　　（建具符号：　・　建具表による　・　　）

### ⑤ 網戸等
(16. 2. 3)

ステンレス鋼板の材料　※　SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1　・
枠の見込み寸法　※　建具表による　・
表面処理
　外部に面する建具　種別　・　BB-1種　・　BB-2種　・
　　着色　※　標準色（　　）　・　特注色（　　）
　屋内の建具　　種別　・　BC-1種　・　BC-2種　・
　　着色　※　標準色（　　）　・　特注色（　　）
　結露水の処理方法　※　図示　・
　水切り板、ぜん板　※　図示　・
※製造所　建築材料・設備機材等品質性能評価事業　建築材料等評価名簿に記載されている製造所

| 種類 | 材質 | 線径 | 網目 |
|---|---|---|---|
| ⊙ 防虫網 | ※　合成樹脂製<br>・　ガラス繊維入り合成樹脂製<br>・　ステンレス（ＳＵＳ３１６）製 | ※0.25mm以上<br>・ | ※16～18メッシュ<br>・ |
| ・ 防鳥網 | ステンレス製（ＳＵＳ３０４）線材 | 1.5mm | 網目寸法15mm |

### 6 樹脂製建具
(16. 2. 5)
(16. 3. 2～5)
(表16. 3. 1)

性能値等
・　耐風圧の等級（　　）、気密性の等級（　　）、水密性の等級（　　）
※　標準仕様書表16.3.1による種別
　外部に面する建具の種別（コンクリート下地及び鉄骨下地）
　　・Ａ種（建具符号：　・　全て　・　建具表による　・　　）
　　・Ｂ種（建具符号：　・　全て　・　建具表による　・　　）
　　・Ｃ種（建具符号：　・　全て　・　建具表による　・　　）
防音ドア、防音サッシ　　遮音性の等級　・　Ｔ－１　・　Ｔ－２　・
　　（建具符号：　・　建具表による　・　　）
断熱ドア、断熱サッシ　Ⓖ　断熱性の等級　・　Ｈ－４　・　Ｈ－５　・　Ｈ－６　・
　　（建具符号：　・　建具表による　・　　）
枠の見込み寸法　※　建具表による　・
表面色　※　標準色　・　特注色
水切り板、ぜん板　※　図示　・
ガラス　※　複層ガラス　・

### 7 鋼製建具
(16. 2. 2)
(16. 4. 2～4)
(表16. 4. 2)

性能等級（建具符号：　・　建具表による　・　　）
　簡易気密型ドアセット　・　適用する
　外部に面する建具の耐風圧性の等級　・　Ｓ－４　・　Ｓ－５　・　Ｓ－６
　防音ドア、防音サッシ　　遮音性の等級（・　　）
　断熱ドア、断熱サッシ　Ⓖ　断熱性の等級（・　　）
　耐震ドア　　面内変形追随性の等級（・　　）
ステンレス鋼板の材料　※　SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1　・
鋼板類の厚さ　※　標準仕様書表16.4.2による　・

### ⑧ 鋼製軽量建具
(16. 2. 2)
(16. 5. 2～4)

性能等級（建具符号：⊙　建具表による　・　　）
　簡易気密型ドアセット　・　適用する
　防音ドア、防音サッシ　　遮音性の等級（・　　）
　断熱ドア、断熱サッシ　Ⓖ　断熱性の等級（・　　）
　耐震ドア　　面内変形追随性の等級（・　　）
鋼板の材料　※　亜鉛めっき鋼板　・　ビニル被覆鋼板　・　カラー鋼板　・　ステンレス鋼板
ステンレス鋼板の材料　※　SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1　・
鋼板類の厚さ　※　標準仕様書表16.5.1による　・
召合せ、縦小口包み板の材質　※　鋼板　・

### 9 ステンレス製建具
(16. 2. 2)
(16. 4. 2)
(16. 6. 2～5)

性能等級（建具符号：　・　建具表による　・　　）
　簡易気密型ドアセット　・　適用する
　外部に面する建具の耐風圧性の等級　・　Ｓ－４　・　Ｓ－５　・　Ｓ－６
　防音ドア、防音サッシ　　遮音性の等級（・　　）
　断熱ドア、断熱サッシ　Ⓖ　断熱性の等級（・　　）
　耐震ドア　　面内変形追随性の等級（・　　）
ステンレス鋼板の材料　※　SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1　・
表面仕上げ　※　ＨＬ仕上げ　・　鏡面仕上げ　・
ステンレス鋼板の曲げ加工　※　普通曲げ　・　角出し曲げ（・　a角　・　b角　・　c角）

### ⑩ 木製建具
(16. 7. 2～4)

建具材の加工、組立時の含水率　※Ｂ種　・
建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量
※　規制対象外　・
・フラッシュ戸
　表面材の合板の種類

| 合板の種類 | 規格等 | 備考 |
|---|---|---|
| ・普通合板Ⓖ | 表面の樹種<br>生地、透明塗料塗り<br>（※ラワン程度　・　　）<br>不透明塗料塗り<br>（※しな程度　・　　）<br>板面の品質（　　）<br>接着の程度（・1類　・2類） | |
| ・天然木　化粧合板 | 樹種名（　　）<br>接着の程度（・1類　・2類） | |
| ・特殊加工　化粧合板 | 化粧加工の方法<br>（・オーバーレイ　・プリント　・塗装）<br>表面性能（　　）タイプ<br>接着の程度（・1類　・2類） | |

表面板の厚さ　※標準仕様書表16.7.6による
・かまち戸
　かまち樹種（　　）　鏡板樹種（　　）
　見込み寸法　※36mm　・建具表による　・
・ふすま
　張りの種別（・Ⅰ型　・Ⅱ型）
　上張り（押入等の裏側以外）　・鳥の子　・新鳥の子又はビニル紙程度
　縁仕上げ　・塗り縁　・生地縁（無地）　・生地縁（ウレタンクリヤー塗装）
　見込み寸法　※19.5mm　・建具表による　・
・戸ぶすま
　見込み寸法　※　30mm　・建具表による　・
・紙張り障子
　見込み寸法　※　30mm　・建具表による　・
枠、くつずりの材料　・建具表による　・
※取付け調整は、１名以上の技能士が自ら作業するとともに、他の技能者に対して、施工品質の向上を図るための作業指導を行うこと。



株式会社 白兎設計事務所
鳥取県知事　登録番号　第０５－１４２
管理建築士（一級建築士登録番号　２０２７９１）　藪田　浩明


| PROJECT.NO | DATE | DRAWING BY. |
|---|---|---|
| 2026-01 | 2026. 8 | 一級建築士登録番号 第314245号 中島　直行 |
| DRAWING.NO | SCALE | |
| 特 - 05 | - | |

## ⑯ 建具工事

### ⑪ 建具用金物
（16．8．2.3）
（表16．8．1）

金物の種類・見え掛り部の材質等
※　標準仕様書表16.8.1及び適用は建具表による　・
金属製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ　※　標準仕様書表16.8.2による
樹脂製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ　※　標準仕様書表16.8.3による　・
木製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ　※　標準仕様書表16.8.4による　・
木製建具に使用する戸車及びレール丁番　※　標準仕様書表16.8.5による　・
握り玉、レバーハンドル、押板類、クレセントの取付位置　・　建具表による　・

錠前類
シリンダ箱錠及びシリンダ本締り錠
（品質）
デッドボルトの出寸法は17mm以上とする。鍵付きのものはマスターキー、グランドマスターキー、コンストラクションキーなどのキーシステムが構築できるものとする。
（性能）
使用頻度による性能
1)（シリンダ箱錠のみ）ラッチボルトの開閉繰り返し試験(40万回)を行った後、ハンドルでの開閉操作力及びラッチング力が試験前の2倍未満であり、動作に支障がない。
2)キーによるデッドボルトの施解錠繰り返し試験(10万回)を行った後、試験前の回転トルクの2倍未満であり、施解錠操作に支障がない。（シリンダ本締り錠のみ）シリンダ単体の施解錠繰り返しの評価は、シリンダだけの回転トルクが10N･cm以下とする。
3)キーによる施錠機構の施解錠繰り返し試験(10万回)を行った後、試験前の回転トルクの2倍未満であり、施解錠操作に支障がない。
4)キーの抜き差し繰り返し試験(10万回)を行った後、キーの抜き差しに要する荷重は10N以下である。
また、未使用の合鍵でシリンダが回転でき、かつ、1箇所1段差浅い刻みをもつ異なるキーでは、シリンダが回転しないこと。（キーに加えるトルクは、150N･cmとする）
外力に対する性能
1)デッドボルトの押込み強度試験(10KN)を行った後、荷重を除いたときのデッドボルトの出寸法は8mm以上であること。
2)デッドボルトの側圧強度試験(10KN)を行った際、加圧板がデッドボルトを通過しない。
3)デッドボルトの押込み強度(衝撃荷重)試験(58.8J)の衝撃荷重を加えたとき、解錠状態（デッドボルトの突出量が8mm未満）にならないこと。
4)デッドボルトの側圧強度(衝撃荷重)試験(58.5J)の衝撃荷重を加えたとき、解錠状態(加圧板がデッドボルトを通過した状態)にならないこと。
5)(シリンダ本締り錠はグレード3以上の形状錠の場合）ストライクプレートの厚さ1.5mm以上のステンレス鋼製とする。
使用扉の質量に対する性能（シリンダ箱錠のみ）
1)ラッチボルトの側圧強度試験(4KN)を行い、荷重を除いたとき、ハンドル操作及びラッチングに支障がない。
2)レバーハンドルのねじり強度試験(3.5KN･cm)を行った後、トルクを除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。
3)握り玉のねじり強度試験(30N･cm)をおこなった後、トルクを除いたとき、握り玉が正常に作動していること。また、施錠時握り玉が固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ,施解錠操作に支障がない。
4)ハンドルの引張強度試験(2KN)を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。
5)ハンドルの垂直荷重強度試験(2KN)を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。
また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。
鍵
1)かぎ（鍵）数は、1.5万以上とする。ただし、異なるキーウェイ形状であっても、共通のキーセクションが存在する場合は、有効かぎ（鍵）違い数とみなさないものとする。
2)同一タンブラーの使用数は、60%以下とする。また、6本タンブラーにおいては、キーの同一刻みは、最大2連続までとしていること。
試験方法は、JIS A 1541-1（建築金物-錠-第1部：試験方法）による。
レバーハンドル
（性能）
ねじり強度
レバーハンドルのねじり強度試験(3.5KN･cm)を行った後、トルクを除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がないこと。

引張り強度
ハンドルの引張強度試験(2KN)を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がないこと。

垂直荷重強度
ハンドルの垂直荷重強度試験(2KN)を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。
また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がないこと。
試験方法は、JIS A 1541-1（建築金物-錠-第1部：試験方法）による。

⊙クローザー類
（品質・性能）

| 性能試験項目 ＼ 区分 | | ①ドアクローザ | | ②ヒンジクローザ | | ③フロアヒンジ | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 初期値（開閉力の試験をとる角度は） | Grade2 番手 | 閉じﾓｰﾒﾝﾄ(N･m) | 効率(%) | 閉じﾓｰﾒﾝﾄ(N･m) | 効率(%) | 閉じﾓｰﾒﾝﾄ(N･m) | 効率(%) |
| | 1 | 5以上 | 30以上 | 5以上 | 30以上 | 5以上 | 30以上 |
| | 2 | 10以上 | 30以上 | 10以上 | 30以上 | 10以上 | 30以上 |
| | 3 | 15以上 | 35以上 | 15以上 | 35以上 | 15以上 | 35以上 |
| | 4 | 25以上 | 40以上 | 25以上 | 40以上 | 25以上 | 40以上 |
| | 5 | 35以上 | 45以上 | 35以上 | 45以上 | 35以上 | 45以上 |
| | 6 | 45以上 | 45以上 | 45以上 | 45以上 | 45以上 | 45以上 |
| 閉じ速度(秒) | | 常温(5～35℃)無風状態において、開扉(70°)から全閉(0°)までの時間を5～8秒に調整できること。 | | | | | |
| 温度依存性(℃) | | 緩衝油の流動点は、JIS K 2269(原油及び石油製品の流動点並びに石油製品曇り点試験方法)により測定し、-15℃以下であること。 | | | | | |
| ストップ力（ストップ力は一つまで） | ストップ入力 | 60N･m以下<br>但しｺﾝｼｰﾙﾄﾞ型は200N･m以下 | | 100N･m以下 | | 100N･m以下 | |
| | ストップ解除力 | 8N･m以上 | | 3N･m以上 | | 10N･m以上 | |
| バックチェック性能(秒)(バックチェック機能を有する機種のみ適用) | | ドア開扉方向に荷重60N/㎡を開扉50°から負荷する。ﾊﾞｯｸﾁｪｯｸ開始角度(70～85°)から更に20°まで開く間の時間は0.8秒以上としていること。 | | — | | — | |
| ﾃﾞｨﾚｰﾄﾞｱｸｼｮﾝ性能(秒)ﾃﾞｨﾚｰﾄﾞｱｸｼｮﾝ解除角度(60～75°)(ﾃﾞｨﾚｰﾄﾞｱｸｼｮﾝ機能を有する機種のみ適用) | | 開扉90°の位置からﾃﾞｨﾚｰﾄﾞｱｸｼｮﾝ解除角度までの時間が10秒以上確保でき、また、その時間の調整が可能であること。 | | — | | — | |
| 戸の開閉位置(中心吊り込み両自由のみに適用) | | — | | — | | — | |

### ⑫ 鍵
（16．8．4）

マスターキー　⊙製作する（　1　組）　・製作しない　・既存に組込む
鍵の製作本数　※各室３本１組（室名札付き）
鍵箱　⊙設ける　（　60　個用　1 組）　・設けない

### ⑬ 自動ドア開閉装置
（16．9．2.3）
（表16．9．1）
（表16．9．2）

引き戸用駆動装置
性能値
・
※標準仕様書表16.9.1による
種類　⊙SSLD-1　・SSLD-2　・DSLD-1　・DSLD-2
多機能トイレ出入口 引き戸用駆動装置
性能値
・
※標準仕様書表16.9.2による
引き戸用検出装置の種類は、多機能トイレスイッチとする
引き戸用検出装置
性能値
・
※標準仕様書表16.9.3による
種類　⊙光線（反射）センサー　・熱線センサー　・音波センサー　・光電センサー
・電波センサー　・タッチスイッチ　・押しボタンスイッチ
戸の開閉方式　※建具表による　・
防錆　⊙適用する　・適用しない
凍結防止措置　⊙適用する　・適用しない

### ⑭ 自閉式上吊り引戸装置
（16．10．3）

性能値等　※標準仕様書表16.10.1による
（試験方法）
（１）耐久性（開閉繰り返し）試験
開閉については外力によらず、試験体の自閉装置及び制御装置のみにより戸の開端位置から閉端位置までの作動を確認できる試験を行う。
同試験に用いる試験体は片引戸とし、開口内法有効高さ2,000mm、幅は最大寸法とする。
適用戸総質量の区分毎に試験を行う。自閉装置、制御装置は10万回以上の時点で1回のみ調整を行えるものとし、また、その他の制御装置についてはメーカーの耐久性能試験成績書において2万回以上の耐久性能を確認することで、試験に代えることができるものとする。
（２）耐衝撃性試験
落下高さ17cmにて、ドアの中央部にドアが外れる方向に衝撃を与える。
耐衝撃性試験に用いる試験体は片引戸、開口内法有効寸法は高さ2,000mm、幅900mmとする。
適用戸総質量の区分毎に試験を行う。
（３）気密性能試験
JIS A 1516「建具の気密性試験方法」による。

### 15 重量シャッター
（16．11．2、3）

シャッターの種類　・管理用シャッター　耐風圧強度（　）N/㎡
・外壁用防火シャッター　耐風圧強度（　）N/㎡
・屋内用防火シャッター
・防煙シャッター
開閉方式の種類　※　上部電動式（手動併用）　・上部手動式
二重チェーン、急降下制御装置、急降下停止装置を設けた電動シャッターの設置箇所
※図示　・
障害物感知装置を設けた電動シャッターの設置個所
※図示　・
屋内用防火シャッター若しくは防煙シャッターの危害防止機構の設置個所
※図示　・

管理用シャッターのシャッターケース　・設ける　・設けない
スラット及びシャッターケース用鋼板
鋼板の種類　・JIS G 3302（溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）
・JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）
めっきの付着量　※Z12又はF12を満足するもの　・

| 性能試験項目 ＼ 区分 | | ①ドアクローザ | ②ヒンジクローザ | ③フロアヒンジ |
|---|---|---|---|---|
| 耐久性 | 繰返し開閉後の閉じﾓｰﾒﾝﾄ(N･m) | 耐久試験後も上記初期値を満足していること。 | 耐久試験後も上記初期値を満足していること。 | 耐久試験後も上記初期値を満足していること。 |
| | 繰返し開閉後の効率(%) | 耐久試験後も上記初期値を満足していること。 | 耐久試験後も上記初期値を満足していること。 | 耐久試験後も上記初期値を満足していること。 |
| | 繰返し開閉後の閉じ速度(秒) | 耐久試験後も上記初期値を満足していること。 | | |
| | 繰返し開閉後のﾊﾞｯｸﾁｪｯｸ性能(秒) | 耐久試験後も上記初期値を満足していること。 | — | — |
| | 繰返し開閉後のﾃﾞｨﾚｰﾄﾞｱｸｼｮﾝ性能(秒) | 耐久試験後も上記初期値を満足していること。 | — | — |
| | 繰返し開閉後の戸開錠位置(mm) | — | — | 耐久試験後±16mm以内 |
| 耐久性の試験回数（繰返し開閉回数） | | 20万回 | 10万回 | 30万回 |

注1　ﾊﾞﾗﾝｽ取付けは、右記の閉じﾓｰﾒﾝﾄの70%程度までとする。
注2　ｺﾝｼｰﾙﾄﾞ型は右記の閉じﾓｰﾒﾝﾄの50%程度までとする。
Grade1を選定する場合は、図示による。
（試験方法）
1)性能試験は、JIS A 1510-3（建築用ドア金物の試験方法-第3部：フロアヒンジ、ドアクローザ及びヒンジクローザ）に規定する試験方法による。
2)試験ﾄﾞｱの質量は、1番手は25kg、2番手は40kg、3番手は60kg、4番手は80kg、5番手は100kg、6番手は120kgとする。

### 16 軽量シャッター
（16．12．2～4）

開閉形式の種類　※手動式　・上部電動式（手動併用）
耐風圧強度　（　　）
スラットの材質の種類
・JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼板）
めっきの付着量　※Z06又はF06を満足するもの　・
・JIS G 3322（塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板及び鋼板）
めっきの付着量　※AZ90を満足するもの　・
スラットの形状　※インターロッキング形　・オーバーラッピング形
シャッターケース　※設ける　・設けない
ガイドレール（中柱共）の材質　※ステンレス鋼板（SUS304）厚さ1.0mm　・
座板の材質（屋外の場合）　※ステンレス製既製品　・

### 17 オーバーヘッドドア
（16．13．2、3）

| セクション材料による区分 | 耐風圧性能区分（Ｐａ） | 開閉方式による区分 | 収納方式による区分 | ガイドレールの材料 |
|---|---|---|---|---|
| ※スチールタイプ<br>・アルミニウムタイプ<br>・ファイバーグラスタイプ | ・175(1750)<br>・125(1250)<br>・100(1000)<br>・75(750)<br>・50(500) | ※バランス式<br>・チェーン式<br>・電動式 | ・スタンダード形<br>・ローヘッド形<br>・ハイリフト形<br>・バーチカル形 | ※溶融亜鉛めっき鋼板<br>・ステンレス鋼板 |

障害物感知装置を設けた電動式シャッターの設置個所　※図示　・

### ⑱ ガラス
（16．9．7）
（16．14．2～4）
（表16．14．1）

下記のガラス以外の品種、厚さの呼びによる種類等
※　建具表による　・
合わせガラスの材料板ガラスの種類、厚さの組合せ、合わせガラスの合計厚さ及び特性による種類
※　下記以外は建具表による　・

| 材料板ガラスの種類、組合せ | 落球衝撃はく離特性及びショットバック衝撃特性による種類 |
|---|---|
| ・フロート板、フロート板合わせガラス<br>・ | ⊙Ⅰ類　・Ⅱ－１類<br>・Ⅱ－２類　・Ⅲ類 |

強化ガラスの形状による種類、材料板ガラスの種類による名称及び特性による種類
※　下記以外は建具表による　・

| 材料板ガラスの種類による名称 | 材料板ガラス | 破片の状態及びショットバック衝撃特性による種類 |
|---|---|---|
| ⊙フロート強化ガラス | ⊙フロート板ガラス<br>・ | ・Ⅰ類　⊙Ⅲ類 |
| ・ | ・ | |

熱線吸収板ガラスの材料板ガラスによる種類、厚さによる種類及び性能による種類
※　下記以外は建具表による　・

| 材料板ガラスによる種類 | 性能による種類 | 色調 |
|---|---|---|
| ・熱線吸収フロート板ガラス<br>・熱線吸収網入り磨き板ガラス | ・１種　・２種 | ・グリーン　・ |

複層ガラスの材料板ガラスの種類、厚さの組合せ及び複層ガラスの厚さ
※　下記以外は建具表による　・

| 断熱性による区分 | 乾燥気体の種類 |
|---|---|
| ・Ｔ１　⊙Ｔ２　・Ｔ３　・Ｔ４　・Ｔ５　・Ｔ６ | ⊙空気　・アルゴン　・ |

| 日射取得性、日射遮蔽性による区分 | 乾燥気体の種類 |
|---|---|
| ・Ｇ　⊙Ｓ | ⊙空気　・アルゴン　・ |

熱線反射ガラスの材料板ガラスの種類及び厚さによる種類
※　下記以外は建具表による　・

| 材料板ガラスによる種類 | 日射熱遮蔽性による区分 | 耐久性による区分 |
|---|---|---|
| 色調（・ブルー　・グレー　・　　） | ・１種 | Ａ類 |
| | ・２種 | ・Ａ類　・Ｂ類 |
| | ・３種 | Ｂ類 |

反射被膜面　・　内面　・　外面
映像調整　・　行わない　・　行う

ガラスの留め材及び溝の大きさ

| 建具の種類 | ガラスの留め材 | ガラス溝の大きさ（mm） |
|---|---|---|
| アルミニウム製 | ※シーリング材<br>・ガスケット<br>・グレイジングチャンネル形<br>・ | ※建具の製造所の仕様による<br>・ |
| 鋼製及び鋼製軽量 | ※シーリング材<br>・ | ※建具の製造所の仕様による<br>・ |
| ステンレス製 | ※シーリング材<br>・ | ※建具の製造所の仕様による<br>・ |
| 樹脂製 | ※シーリング材<br>・ガスケット<br>・グレイジングチャンネル形<br>・ | ※建具の製造所の仕様による<br>・ |

防火戸のガラス留め材は、建築基準法に基づく防火性能の認定を受けた条件による。

### 19 ガラスブロック積み
（16．14．5）

| 表面形状 | 呼び寸法(mm) | 厚さ(mm) | 色調 クリア | 色調 乳白 | 目地幅(mm) 平積み | 目地幅(mm) 曲面積み | 伸縮調整目地位置(mm) | 防火性能 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ・正方形 | ・125×125 | 80 | ・ | ・ | ※8～15<br>・15～25<br>・ | 外側<br>※15以下<br>・<br>内側<br>※6以上<br>・ | ※6mm以下ごとに幅10～15<br>・図示<br>・ | ※無し<br>・有り |
| | ・160×160 | ・95<br>・125 | ・ | ・ | | | | |
| | ・200×200 | ・95<br>・125 | ・ | ・ | | | | |
| | ・320×320 | 95 | ・ | ・ | | | | |
| ・長方形 | ・250×125 | 80 | ・ | ・ | | | | |
| | ・320×160 | 95 | ・ | ・ | | | | |

壁用金属枠及び補強材の材質・形状　※図示　・　　）　・設けない
力骨　材質　※ステンレス鋼（SUS304）　・
寸法　※径5.5mm　・
形状　※はしご形状複筋及び単筋　・
化粧目地モルタルの色（　　）
金属製化粧カバー　材質　・ステンレス製　・アルミニウム製
寸法　※図示　・
形状　※図示　・
工法　建築基準法に基づき定まる風圧力の（・１　・1.15　・1.3）倍の風圧力に対応した工法
目地部の横方骨の納まり
※ガラスブロック製造所の仕様による　・図示　・

### ⑳ ガラス用フィルム

| 種類 | 記号 内張り用 | 記号 外張り用 | その他性能等 |
|---|---|---|---|
| ・日射調整フィルム G | ・ＳＣ－１ | ・ＳＣ－２ | 日射遮へい性能による区分<br>・Ａ　・Ｂ　・Ｃ　・Ｄ　・Ｅ |
| ・低放射フィルム | ・ＬＥ | | 熱貫流率による区分<br>・Ａ　・Ｂ　・Ｃ　・Ｄ |
| ⊙衝撃破壊対応ガラス飛散防止フィルム | ⊙ＧＩ－１ | ・ＧＩ－２ | |
| ・層間変位破壊対応ガラス飛散防止フィルム | ・ＧＤ－１ | ・ＧＤ－２ | |
| ・ガラス貫通防止フィルム | ・ＳＦ | | ガラスの貫通防止性能による区分<br>・Ａ　・Ｂ |

品質　JIS A 5759による

## 17 カーテンウォール工事

### 1 取付方法、性能等
（17．1．3）
（17．2．2）
（17．3．2）

取付方法　・　層間方式　・　柱、梁方式　・　方立方式　・　スパンドレル方式　・
性能

| 耐震性 水平方向(kH) | 耐震性 垂直方向(kV) | 水密性 | 気密性 | 遮音性 | 断熱性 | 耐火性 | 耐温度差性(℃) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ・1.0<br>・ | ・0.5<br>・ | | | | | ・30分<br>・1時間 | ・80<br>・70<br>・60 |

耐風圧性
建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1　・1.15　・1.3）倍の風圧力に対応した工法
主要部材の耐風圧性能（ガラスを除く）

| 支点間距離(h) | 耐風圧性能 | 状態 |
|---|---|---|
| 4m以下 | ・たわみ量が±(1/150)×h かつ絶対量20mm以下であること<br>・<br>・ | 部材の脱落、ガラスの破損及び主要部材に有害な歪みが起こらないこと。 |
| 4mを超える | ・ | |

層間変位追従性

| 建築物の構造種別 | 層間変位量（h=支点間距離） | 変位後の状態 |
|---|---|---|
| 鉄骨造 | ・±(1/200)×h以上<br>・ | 部材の脱落、ガラスの破損及び主要部材に有害な歪みが起こらないこと。<br>シーリングは補修程度の損傷であること。 |
| 鉄筋コンクリート造<br>鉄骨鉄筋コンクリート造 | ・±(1/300)×h以上 | |

シーリング材
下表以外は標準仕様書表 9.7.1 による

| 被着体の組合せ | | シーリング材の種別 記号 | シーリング材の種別 主成分による区分 |
|---|---|---|---|
| 金属 | ガラス | | |
| | 石、タイル | | |
| ガラス | ガラス | | |
| カーテンウォール板間目地 | | | |

構造用ガスケット
・　適用する　（施工箇所　・　図示　・　　）
材質　・　クロロプレン系　・　EPDM系　・　シリコーン系
形状　・　H型　・　Y型　・　C型
寸法(mm)　ガラス板厚（　）、支持枠の厚さ（　）、ウェブの寸法（　）
・　適用しない
断熱材 G
種類（　　）
厚さ(mm)（　　）
施工箇所　・　図示　・

耐火材料

| 施工部位 | 種別 | 規格帯 |
|---|---|---|
| ・ファスナー部 | | |
| ・取付けブラケット | | |
| ・パネル目地部 | | |
| ・層間ふさぎ | | |
| ・ | | |

### 2 メタルカーテンウォール
（17．2．2、3、5）

カーテンウォールの材料

| 金属系材料の種類 | 規格等 | 表面処理 | 映像調整 |
|---|---|---|---|
| ※アルミニウム製 | ※標準仕様書16.2.3による<br>・ | 種別（　　）種<br>色合等　・標準色（　　）<br>・特注色（　　） | ・行う<br>・行わない |
| ・ | | | |

製品及び取付位置の寸法許容差　※標準仕様書表17.2.1～3による
ガラス溝の寸法、形状　※　カーテンウォールの製造所の仕様による　・

### 3 ＰＣカーテンウォール
（17．2．2～5）
（表17．3．1、2）

カーテンウォールの材料
コンクリート　※　標準仕様書17.3.2(1)(ｱ)～(ｳ)による　・
鉄筋　※　SD295A（　・　D13　・　D10）
補強鉄線の径(mm)　※　3.2　・　4.0　・　5.0　・　6.0
配筋　※　図示
先付けの材料　・　建具枠　・　ゴンドラ用ガイドレール
表面仕上げ材　・　磁器質タイル
・　石材（　・　花こう岩　・　大理石　・　）
・
ガスケットを用いる場合のアンカー溝の寸法及び寸法許容差(mm)
・　深さ（h）=-1～+2、溝幅及び底幅（W1及びW2）=±1　・
製品及び取付位置の寸法許容差　※　標準仕様書表17.3.1～2による　・

## ⑱ 塗装工事

① 材料
（18．1．3）

屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外　・
・防火材料　※屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする。
・次の箇所を除き防火材料とする。（箇所：　　）

② 素地ごしらえ
（18．2．2～7）

| 下地面等 | | 種別 |
|---|---|---|
| 木部 | 不透明塗料塗りの場合 | ※A種　・B種 |
| | 透明塗りの場合 | ※B種　・A種 |
| 鉄鋼面 | | ※C種　・A種　・B種 |
| 亜鉛めっき鋼面 | | ・A種　・B種 |
| モルタル面及びプラスター面 | | ※B種　・A種 |
| ｺﾝｸﾘｰﾄ面、ＡＬＣﾊﾟﾈﾙ面及び押出成形ｾﾒﾝﾄ板面（DP塗装除く） | | ※B種　・A種 |
| せっこうボード面及びその他 | 目地：継目処理工法 | ※A種　・B種 |
| ボード面 | 目地：継目処理工法以外 | ※B種　・A種 |

③ 錆止め塗料塗り
（18．3．2、3）

| 下地面等 | | 工程の種別 | 塗料の種別 |
|---|---|---|---|
| 鉄鋼面 | 見え掛り部分 | ※A種　・B種 | ・A種 |
| | 見え隠れ部分 | ※B種　・A種 | EP-Gの場合　※B種　・A種 |
| 亜鉛めっき鋼面 | 鋼製建具 | ※A種　・B種 | ・A種　※B種<br>EP-Gの場合はC種 |
| | 鋼製建具以外 | ※B種　・A種 | B種<br>EP-Gの場合はC種 |

④ 塗料
（18．4．1～18．14．2）

| 塗装 | | 種別 | 塗料の種類 | 高日射反射率塗料の適用 G |
|---|---|---|---|---|
| ・合成樹脂調合ペイント塗り(SOP) | 木部屋外 | ※A種　・B種 | ※1種　・2種 | － |
| | 木部屋内 | ※B種　・A種 | ※1種　・2種 | － |
| | 鉄鋼面 | ※B種　・A種 | ※1種　・2種 | ・ |
| | 亜鉛めっき鋼面 | － | ※1種　・2種 | ・ |
| ・クリヤラッカー塗り(CL) | | ※B種　・A種 | － | － |
| ・アクリル樹脂系非水分散型塗料塗り(NAD) | | ※B種　・A種 | － | － |
| ・耐候性塗料塗り(DP) | 鉄鋼面 | － | 上塗り等級（　）級 | ・ |
| | 亜鉛めっき鋼面 | － | 上塗り等級（　）級 | ・ |
| | コンクリート面及び押出成形セメント板面 | ・A種 | 上塗り等級１級 | － |
| | | ・B種 | 上塗り等級２級 | |
| | | ・C種 | 上塗り等級３級 | － |
| ・つや有合成樹脂エマルションペイント塗り(EP-G) | コンクリート面、モルタル面、プラスター面、せっこうボード面その他ボード面等 | ※B種　・A種 | － | － |
| | 屋内の鉄鋼面 | ※B種　・A種 | | － |
| ・合成樹脂エマルションペイント塗り(EP) | | ※B種　・A種 | － | － |
| ・合成樹脂エマルション模様塗料塗り(EP-T) | | ※B種　・A種 | － | － |
| ○ウレタン樹脂ワニス塗り(UC) | | ※B種　・A種 | － | － |
| ・オイルステイン塗り(OS)（塗料　・水性　・油性） | | － | － | － |
| ○木材保護塗料塗り(WP) | | ※B種　・A種 | － | － |

高日射反射率塗装 G を適用する場合の適用箇所は、屋上・屋根面の金属面とする。

## ⑲ 内装工事

① 接着剤
（19．2．2）

接着剤は、可塑剤（フタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-２-エチルヘキシル等を含有しない難揮発性の可塑剤を除く）が添付されていないものとする。
ホルムアルデヒド放散量
※　規制対象外　・
施工箇所の下地がセメント系下地及び木質系下地以外の場合の接着剤の種別
・　図示　・

② ビニル床シート G
（19．2．2、3）

| 種類の記号 | 色柄 | 特殊機能 | 厚さ(mm) | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| ※ＦＳ | ○無地<br>・マーブル柄<br>○柄物 | ・帯電防止<br>・耐動荷重性<br>○図示による | ※2.0<br>・ | |

目地処理する場合の工法　※　熱溶接工法　・
特殊機能
帯電防止　・帯電防止性能評価値（JIS A 1455）1.2以上～3.2未満
又は体積電気抵抗値（JIS A 1454）$1\times10^{7}$～$1\times10^{10}\Omega$程度
・

3 ビニル床タイル G
（19．2．2）

| 種類の記号 | 色柄 | 寸法 | 特殊機能 | 厚さ(mm) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| ※ＫＴ<br>・ＴＴ　・ＦＴ | ・無地<br>・柄物 | ・300×300<br>・450×450 | ・帯電防止 | ※2.0<br>・2.5<br>・3.0 | |
| ・ＦＯＡ　・ＦＯＢ | | | | | |

特殊機能
帯電防止　・帯電防止性能評価値（JIS A 1455）1.2以上～3.2未満
又は体積電気抵抗値（JIS A 1454）$1\times10^{7}$～$1\times10^{10}\Omega$程度
・

④ ビニル幅木
（19．2．2）

材質の種類　※軟質　・硬質
高さ(mm)　※60　・75　・100　・40
厚さ(mm)　※1.5以上　・

5 ゴム床タイル
（19．2．2）

材質の種類　※単層品　・複層品
色柄　（　　）
厚さ(mm)　・3.0　・4.5　・6.0　・9.0
寸法(mm)（　　）

⑥ カーペット敷き G
（19．3．3、4）
（表19．3．1）

・織じゅうたん　（表 19.3.1）

| 種別 | パイル形状 | 織り方 | 色柄等 | 帯電性 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| ・A種<br>・B種<br>・C種 | ・カットパイル<br>・ループパイル<br>・カット、ループ併用 | ・ウィルトンカーペット<br>・ダブルフェースカーペット<br>・アキスミンスターカーペット | ・無地<br>・柄物<br>(標準品) | ・適用する<br>**・適用しない** | |

・タフテッドカーペット

| パイル形状 | ﾊﾟｲﾙ長さ（mm） | 工法 | 帯電性 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| ・ｶｯﾄﾊﾟｲﾙ | ・5～7　・ | ※全面接着工法<br>・ｸﾞﾘｯﾊﾟｰ 工法 | ・適用する<br>・適用しない | |
| ・ﾙｰﾌﾟﾊﾟｲﾙ | ・4～6　・ | | | |
| ・ｶｯﾄ、ﾙｰﾌﾟ併用 | ・ | | | |

・ニードルパンチカーペット
厚さ（mm）（　　）
帯電性　・適用する　・適用しない
備考（　　）

○タイルカーペット

| パイル形状 | 種別 | 施工箇所 | 寸法 | 総厚さ（mm） | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| ※ ループパイル | ※ 第一種<br>・ 第二種 | | ※ 500×500<br>・ | ※ 6.5<br>・ | |
| ○ カットパイル | ・ 第一種<br>・ 第二種 | 床 | ※ 500×500<br>・ | ※ 6.5<br>○ 9.5 | |
| ・ カット・ループ併用 | ・ 第一種<br>・ 第二種 | | ※ 500×500<br>・ | ※ 6.5<br>・ | |

タイルカーペットの敷き方　平　場　※市松敷き　・模様流し　・
階段部分　※模様流し　・市松敷き　・
下敷き材　※反毛フェルト（JIS L 3204）の第2種2号　呼び厚さ 8mm　・
見切り、押え金物の材質、種類及び形状　※図示　・

7 合成樹脂塗床
（19．4．2、3）
（表19．4．4、5）

| 種別 | 施工箇所 | 工法 | 仕上げの種類 |
|---|---|---|---|
| ・厚膜型塗床材<br>弾性ｳﾚﾀﾝ樹脂系塗床 | | | ※平滑仕上げ<br>・防滑仕上げ　・つや消し仕上げ |
| ・厚膜型塗床材<br>ｴﾎﾟｷｼ樹脂系塗床 | | ・薄膜流しのべ 工法<br>・厚膜流しのべ工法<br>・樹脂モルタル工法 | ・平滑仕上げ<br>・防滑仕上げ |
| ・薄膜型塗床材 | | | ※平滑仕上げ |

塗料のホルムルデヒド放散量　※規制対象外　・

8 防じん用塗床

材料　水性アクリル系樹脂塗材とし、製造所の指定する製品とする。
工法　製造所の指定する工法とする。
なお、上塗りは２回塗りとし、総塗布量は0.25kg/㎡とする。
仕上げの種類　※　平滑仕上げ　・　防滑仕上げ　※標準色　・
JIS K 5970に基づく塗料のホルムアルデヒド放散量　※規定対象外　・

9 フローリング張り G
（19．5．2～6）
（表19．5．1～5）

単層フローリング

| 種類 | 工法 | 樹種 | 厚さ（mm） | 間伐材等の適用 |
|---|---|---|---|---|
| ・フローリング1号<br>ボード１等 | ・釘留め工法（根太張り）<br>・釘留め工法（直張り）<br>・接着工法 | ※ なら　・<br>※ なら　・<br>※ なら　・ | 15<br>・12　・<br>・8　・ | ・<br>・<br>・ |
| ・フローリング<br>ブロック１等 | ・接着工法 | ※ なら　・ | 15 | ・ |

フローリングボードの大きさ　※標準仕様書表19.5.1,3,5

複合フローリング

| 種類 | 工法 | 樹種 | 種別 | 厚さ（mm） | 間伐材等の適用 |
|---|---|---|---|---|---|
| ・天然木化粧複合フローリング | ・釘留め工法（根太張り）<br>・釘留め工法（直張り） | ※ なら<br>・ | ・A種<br>・B種<br>※C種 | ・15　・<br>・12　・<br>・12　・ | ・ |
| | ・接着工法 | ※ なら<br>・ | ・A種<br>・B種<br>※C種 | ・12　・<br>・12　・<br>・12　・ | ・ |

フローリングボードの大きさ　※標準仕様書表19.5.2,4,6
フローリング及び接着剤のホルムアルデヒドの放散量　※ 規制対象外　・
接着工法の場合の裏面緩衝材　※合成樹脂発泡シート
現場塗装仕上げ　・行う（施工箇所　　）
※ウレタン樹脂ワニス塗り
・オイルステインの上、ワックス塗り
・生地のままワックス塗り
・行わない
県産材の活用　・適用する（樹種　　）　・適用しない

10 畳敷き
（19．6．2）
（表19．6．1）

種別　・A種　・B種　・C種　・D種（畳床：・KT-Ⅰ　・KT-Ⅱ　・KT-Ⅲ　・KT-K　・KT-N）
下地の種類　・標準仕様書表12.6.1による床組
・ポリスチレンフォーム床下地（ノンフロン　）　G
・
畳表及び畳床はホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。

⑪ せっこうボードその他のボード及び合板張り
（19．7．2、3）
（表19．7．1）

| 種　類 | | JIS記号 | 厚さ(mm)、規格等 |
|---|---|---|---|
| ・硬質木毛セメント板 G | | HW | ・15　・20　・25　・ |
| ・中質木毛セメント板 G | | MW | ・15　・20　・25　・ |
| ・普通木毛セメント板 G | | NW | ・15　・20　・25　・ |
| ・硬質木片セメント板 G | | HF | ・12　・15　・18　・21　・ |
| ・普通木片セメント板 G | | NF | ・30　・ |
| ○ けい酸カルシウム板 | | 0.8FK<br>1.0FK | タイプ２（無石綿）　○6　・8 |
| ・ ロックウール化粧吸音板 | | DR | ・フラットタイプ（・9　・12　・　）　・不燃<br>・凹凸タイプ（・12　・15　・19　・　）　・不燃 |
| ・ ロックウール吸音ボード1号 | | RW-B | ・25　・ |
| ・ グラスウール吸音ボード32K | | GW-B | ・25(ガラスクロス包)　・ |
| ○ せっこうボード | | GB-R | ◎12.5（不燃）　○15（不燃） |
| ・ 不燃積層せっこうボード | | GB-NC | 9.5（不燃）　化粧無（下地張り用）<br>化粧有（トラバーチン模様） |
| ・ シージングせっこうボード | | GB-S | 12.5（・不燃　・準不燃） |
| ・ 強化せっこうボード | | GB-F | ・12.5（不燃）　・15（不燃） |
| ・ せっこうラスボード | | GB-L | 9.5 |
| ・ 化粧せっこうボード（木目） | | GB-D | 12.5（不燃）幅 440mm 程度<br>模様（・柾目　・板目）専用下地材有り |
| ○ 化粧せっこうﾎﾞｰﾄﾞ（トラバーチン模様） | | GB-D | 9.5（準不燃） |
| ○ 普通合板 G | | | 表板の樹種<br>生地、透明塗料塗り<br>（※ラワン程度　・　　）<br>不透明塗料塗り<br>（※しな程度　・　　）<br>板面の品質（　1類　）<br>厚さ(mm)（　12　）<br>接着の程度　○1類　・2類<br>・防虫処理 |
| ・ 天然木化粧合板 G | | | 樹種名（　　）<br>接着の程度　・1類　・2類<br>厚さ(mm)（　　）<br>・防虫処理　・難燃処理　・防炎処理 |
| ・ 特殊加工化粧合板 G | | | 化粧加工の方法（・オーバーレイ ・プリント ・塗装）<br>表面性能（　　）タイプ<br>接着の程度　・1類　・2類<br>厚さ(mm)（　　）<br>・防虫処理 |
| ・ メラミン樹脂化粧板 | | | JIS K 6903 による　（※ 1.2　・　　） |
| ・ ポリエステル樹脂化粧板 | | | |
| ・ ミディアムデンシティファイバーボード G | | MDF | ・3　・7　・9　・12　・ |
| ・ 単板張りパーティクルボード G | | | ・ 無研磨板ＶＮ　・ 研磨板ＶＳ<br>・10　・12　・15　・18　・ |
| ・ 化粧パーティクルボード G | | | ・ 単板オーバーレイ ＤＶ<br>・ プラスチックオーバーレイ ＤＯ<br>・ 塗装 ＤＣ<br>・ 10（難燃）・ 12（難燃）・ |
| ・ ハードボード（素地） G | | HB | ・未研磨板（・スタンダード　・テンパード ＲＮ）<br>・研磨板　（・スタンダード　・テンパード ＲＳ） |
| ・ ハードボード（化粧） G | | | ・内装用 ＤＩ　・外装用 ＤＥ<br>・2.5　・3.5　・5　・7　・ |
| ・ インシュレーションボード G | | IB | A級（・天井仕上　・内装仕上　・　　）<br>・9　・12　・15　・18　・ |

せっこうボード等の下地　※図示　・
軽量鉄骨下地ボード遮音壁に用いる遮音シール材
※シーリング材　・ジョイントコンパウンド
合板類の張付け　※B種　・A種
せっこうボードの目地工法　※仕上表による　・

⑫ 壁紙張り
（19．8．2、3）

ホルムアルデヒド放散量　※規制対象外　・

| 施工箇所 | 壁紙の種類 紙 | 繊維 | ﾌﾞﾗｽﾁｯｸ | 無機質 | その他 | 防火性能 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 一般部　天井・壁 | ・ | ・ | ・ | ・ | ○ | ○ 不燃○ 準不燃 | 高耐久・消臭 |
| | ・ | ・ | ・ | ・ | ・ | ・ 不燃・ 準不燃 | |
| | ・ | ・ | ・ | ・ | ・ | ・ 不燃・ 準不燃 | |
| | ・ | ・ | ・ | ・ | ・ | ・ 不燃・ 準不燃 | |

モルタル・プラスター面の素地ごしらえ　※B種　・A種
コンクリート面の素地ごしらえ　※B種　・A種
せっこうボード面の素地ごしらえ　※B種　・A種

⑬ 断熱材 G
（19．9．2、3）

フェノールフォームを使用した断熱材、保温材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外　・

・断熱材打込み工法　○全て図示による

| 種類 | | 厚さ(mm) | 施工箇所 |
|---|---|---|---|
| ・ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材 | | ・25　・ | ・ |
| ・ 押出法ポリスチレンフォーム断熱材（スキン層なし） | ・2種bA<br>・ | ・25　・ | ・外壁<br>・ |
| | ・2種bA<br>・ | ・25　・ | ・スラブ<br>・ |
| ・ 硬質ウレタンフォーム断熱材 | | ・25　・ | ・ |
| ・ フェノールフォーム断熱材 | | ・25　・ | ・ |

施工箇所詳細は、仕上表及び図示による
・断熱材現場発泡工法
断熱材の種類　※A種1　・A種1H
厚さ（mm）　・25　・30　・
施工箇所　・図示　・

⑳ ユニット及びその他の工事

① フリーアクセスフロア
（20．2．2）

| 施工箇所 | ○ スタッフルーム | |
|---|---|---|
| 構法 | ○置敷式 | ・支柱調整式 |
| 耐荷重性能 | ※３０００Ｎ　・５０００Ｎ | ・３０００Ｎ　・５０００Ｎ |
| 耐震性能 | ○１．０Ｇ　・０．６Ｇ | ・１．０Ｇ　・０．６Ｇ |
| パネル寸法 | 600×600×40ｔ | |
| 高さ（mm） | 床高さ40mm | |
| 床表面仕上げ材の材質 | ※タイルカーペット<br>・帯電防止ビニル床タイル | ※タイルカーペット<br>・帯電防止ビニル床タイル |
| ボーダー部及びスロープ | ※メーカー仕様　・図示 | ※メーカー仕様　・図示 |

寸法精度
※標準仕様書20.2(b)(5)(a)～(c)による
厚さ±0.5mm
平坦度　パネル周辺部 1.0mm 以下
図心と各頂点を結ぶ線上部2.0mm 以下
表面仕上材の品質、性能は、標準仕様書 19章による。
構成材の材質　・アルミニウム製　・鋼製(仕上げ：　)
スロープ及びボーダー　※製造所の仕様による　・図示
配線用取り出しパネル
フリーアクセスフロア全体面積に対する設置割合　・20～30パーセント
配線取り出し開口　※製造所の仕様による
・パネル1枚につき、40mm×80mm程度の開口１箇所以上
・
空調用吹き出し（吸い込み）パネル　・無し　・有り（形式、施工箇所：図示）

（性能）
（1）耐荷重性能　変形5.0mm以下　残留変形3.0mm以下
（2）耐衝撃性能　残留変形3.0mm以下及び損傷がないこと
（3）ローリングロード性能（3,000Nの場合の試験の適用は任意）
所定荷重1,000Nによる繰り返し試験後、残留変形3.0mm以下
（4）耐震性能
イ）固定台試験による耐震性能

| 項目 | 性能 |
|---|---|
| ① ベースプレート又はアンカーが耐力に達したとき又はコンクリート接着面が剥離したとき | 水平荷重の1/2が下記の＜適用地震時水平力＞以上 |
| ② 上記①以外の部分が耐力に達したとき | 水平荷重の1/1.5が下記の＜適用地震時水平力＞以上 |
| ③ 適用地震時水平力を加力した時の支柱頂部の変位 | 構造床面からの高さの1/50以下 |

＜適用地震時水平力＞
3,000N 0.6Gタイプ 支柱一本が負担する床加重{(㎡当り自重+3,000N)/㎡当りの支柱本数}×0.6
3,000N 1.0Gタイプ 支柱一本が負担する床加重{(㎡当り自重+3,000N)/㎡当りの支柱本数}×1.0
5,000N 0.6Gタイプ 支柱一本が負担する床加重{(㎡当り自重+5,000N)/㎡当りの支柱本数}×0.6
5,000N 1.0Gタイプ 支柱一本が負担する床加重{(㎡当り自重+5,000N)/㎡当りの支柱本数}×1.0

ロ）振動台試験による耐震性能（設計床高さ≦300mmの場合のみ）
振動台試験において、パネルの脱落や使用上支障をきたす損傷、せり上がり、隙間及び水平移動がない。
（5）耐燃焼性能
建築基準法第２条第９号の規定に基づく不燃材料又は燃焼終了後の残炎時間が0秒
（6）帯電防止性能評価値（U）
0.6以上
（7）感電防止性能
漏えい抵抗(R)≧$1\times10^{6}\Omega$
（8）歩行感
通常の歩行において空洞音やがたつきがなく、歩行感に違和感がない
（9）メンテナンス性
交換が必要な部品については交換できるよう設計されている。

○現場発泡断熱材
（品質性能等）

| 項目 | 品質・性能 |
|---|---|
| 難燃性 | 下記のいずれかによっていること<br>1）JIS A 1321「建築物の内装材及び工法の難燃性試験方法」による難燃2級表面加熱試験又は難燃3級表面加熱試験に適合していること。<br>2）法定準不燃材料、難燃材料の評価方法に使用している発熱性試験（コーンカロリー試験）に適合していること。 |
| 発熱性 | 準不燃材料試験の加熱時間は10分、難燃材料試験の加熱時間は5分において次の１）～３）に適合していること。<br>1）総発熱量が8ＭＪ／㎡以下であること。<br>2）防火上有害な裏面まで貫通する亀裂及び穴がないこと。<br>3）最高発熱速度が、10秒以上継続して200ＫＷ／㎡を超えないこと。 |

（試験方法）
イ．原液試験（原液粘度試験）
JIS K 7117-1「プラスチック－液状、乳濁状又は分散状の樹脂－ブルックフィールド形回転粘度計による見掛け粘度の測定方法」による。
ロ．発砲品試験
1）試料の作成は、JIS A 9526「建築物断熱用吹付け硬質ウレタンフォーム」の6.2.1による。
2）試料の状態調節は、JIS A 9526の6.2.2による。また、試験片の作成はJIS A 9526の6.2.3による。
3）試験片の状態調節及び試験場所は、JIS A 9526の6.2.4による。
4）圧縮強さ試験は、JIS A 9526の6.2.5による。
5）熱伝導率試験は、JIS A 9526の6.2.6による。
6）接着強さ試験は、JIS A 9526の6.2.7による。
7）透湿率試験は、JIS A 9526の6.2.8による。
ハ．難燃性の試験は、下記のJIS A 1321に規定する表面試験及び発熱性試験による。
1）難燃性の試験については、JIS A 1312に規定する試験方法に準じる。
2）発熱性試験は、建築基準法に基づく指定性能評価機関が準不燃材料、難燃材料の評価方法に使用している試験方法に準じる。

（試験方法）
（1）耐震性能
1）設計床高さ≦300mmの場合
試験体ユニット1000mm×2500mm程度
所定の重りの質量　3000N：200kg　5000N：350kg
加振　0.6G：所定加速度600cm／S2　1.0G：所定加速度1000cm／S2
2）300mm＜設計床高さ≦600mmの場合
① 固定台による耐震性能試験
イ、支柱調整式－支柱分離型・支柱固定タイプの全てのタイプ共、下記の試験方法－1又は、試験方法－2による。
ロ、原則として、試験方法－1はパネル単体設置（Aタイプ）に適用し、試験方法－2はパネル連結設置（Bタイプ）に適用するものとする。
②試験方法－1
イ、試験は、ｺﾝｸﾘｰﾄ(JIS A 5371ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ無筋ｺﾝｸﾘｰﾄ製品　種類：N300)に接着した支柱の頂部に対し、水平方向に適用地震時水平力及び水平最大耐力まで加力し、各測定点における水平力、支柱頂部の変形量を測定する。
ロ、加力方向は、支柱要素に対して最も不利な方向とする。試験体数は、3個とする。
③試験方法－2
イ、試験は、ｺﾝｸﾘｰﾄ(JIS A 5371ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ無筋ｺﾝｸﾘｰﾄ製品　種類：N300)に接着した数ユニットの支柱の頂部に対し、水平方向に数ユニット分相当の、適用地震時 水平力及び水平最大耐力まで加力し、各測定点における水平力、支柱頂部の変形量を測定する。加力方向は、支柱要素に対して最も不利な方向とする。
ロ、最終的に水平力を支持する支柱の本数で除した値を、支柱１本当たりの水平力とする。又、800mm×800mmに荷重板3,200 N（5,000 N／㎡ 相当）を１箇所設ける。試験体数は、１セットとする。
④零点補正及び測定記録試験体と試験機の隙間等を除去するため、始めに適用地震時水平力の1／2程度の水平力を加力した後、速やかに除荷して“０”にした状態を零点とする。
又、水平力による各測定点の荷重及び変形曲線を測定し記録する。
3）共通事項
試験に使用する表面仕上げ材
種類：タイルカーペット
繊維素材：ナイロン100 %
パイル携帯：ループパイル
パイル長：3.0mm～4.0mm
バッキング素材：塩化ビニル樹脂
全厚：6.0mm～7.0mm
単位質量：4.0kg/㎡～64.0kg/㎡
人体耐電圧：２KV以下

2　可動間仕切
（20. 2. 3）

| 構造形式による書類 | 構成基材の種類 | | 表面仕上げ材 | | | | 遮音性 (dB/500Hz) | 防火性能 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | スタッド | パネル | 材質 | 厚さ (mm) | パネル表面仕上げ | | | |
| ※スタッド式(内蔵)<br>・スタッド式(露出)<br>・パネル式<br>・スタッドパネル式 | | | ※鋼板<br>・ | ※0.6<br>・0.8 | ・メラミン樹脂焼付け又はアクリル樹脂焼付け塗装<br>・壁紙張り | ・0<br>・15程度<br>・30程度<br>・36以上 | | ・不燃 |

パネル内に取付ける建具　・あり（※図示　・　　）・なし
ドアクローザー、丁番、錠前、上げ落しは、標準仕様書16章8節の建具用金物に対応する材質とする。
表面仕上材を壁紙張りとする場合の品質、性能は標準仕様書19章による
パネル材料のホルムアルデヒド放散量　※規制対象外

3　移動間仕切
（20. 2. 4）

| 走行方向 | 操作方法 | 圧縮装置の操作方法 | 総厚さ (mm) | 表面仕上げ材 | | 遮音性 (dB/500Hz) |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 材質 | パネル表面仕上げ | |
| ・平行方向 移動式<br>・二方向 移動式 | ・手動式<br>・電動式<br>・部分電動式 | ・プッシュ式<br>・ハンドル式 | | ・鋼板<br>・ | ・メラミン樹脂焼付け又はアクリル樹脂焼付け塗装<br>・壁紙張り<br>・ | ・36未満<br>・36以上 |

パネル表面仕上げの壁紙張りの品質、性能　標準仕様書19章による
遮音性能は、JIS A 6512に準拠し、中心周波数500Hzの音についての透過損失とする
ハンガーレールの取付け下地の補強
※取付け全重量の５倍以上の荷重に対して、使用上支障のない耐力及び変形量となるように補強する。
・図示
パネルをランナーに取り付ける部品
※パネル重量の５倍の荷重を、パネル１枚に使用するランナー数で除した値に対して、耐力及び変形量使用上支障のないものとする。
・図示
（品質・性能及び試験方法）
（1）パネル（表面材、心材、フレーム材、幅木、笠木及び補強材）及びハンガーレールは、JIS A 6512「可動間仕切」の表9又はこれらと同等以上の品質性能を有し、かつ、接触腐食をおこさないもの又は防食処理を施したものとする。
（2）吊りボルト
JIS B 1051「炭素鋼及び合金鋼製締結用部品の機械的性質－第一部：ボルト、ネジ及び植込みボルト」による。
（3）パネルの外観
JIS A 6512「可動間仕切」の5.a) ～ c) による。
（4）ホルムアルデヒド等
JIS A 6512「可動間仕切」７材料による。
（5）パネルの操作性
パネル操作の初動力は98N以下とする。
（6）耐衝撃性
質量50kgにおける衝撃試験において構造部材の折れ、曲りの異常がなく表面の、割れ、はがれがないものとする。また、接点・接床部が外れないこと及び多少のずれがあっても圧接装置の調整で元に戻せるものとする。
（7）遮音性能
遮音性試験はJIS A　6512に規定する透過損失単位による各区分ごとに、500Hzの音について透過損失の規定値に適合するものとする。
（8）パネル圧接装置の耐久性
パネル圧接装置の固定･解除は、7,500回の繰返し耐久試験実施後、質量50kg衝撃試験で異常のないものとする。
（9）レールの耐久性
レールは普通パネルで吊り車の通過回数が30,000回以上で異常のないものとする。
（10）吊り車の耐久性
吊り車は、走行距離60 Kmで操作性に異常がなく、レールに大きな変形がないものとする。
（11）吊りボルトの引張強度
一本にかかる荷重の15倍以上の引張り強度があるものとする。
（12）ランナーの引張強度
引張試験を実施し、普通パネル重量の５倍の荷重を、パネル１枚に使用するランナーの数で除した値以上の強度があるものとする。

㊿ ニューアルミさやの仕様

4　トイレブース
（20. 2. 5）

| 表面材の材料 | 脚部形状 | ドアエッジ材質 |
|---|---|---|
| ※メラミン樹脂系化粧板<br>・ポリエステル樹脂系化粧板 | ※幅木タイプ<br>・ | ※アルミニウム製<br>・ステンレス製<br>・表面材と同材 |

品質・性能
（1）パネル

| 項目 | 品質・性能 |
|---|---|
| 表面材 | メラミン樹脂系、ポリエステル樹脂系化粧板又はメラミン樹脂系単一材とする。 |
| 裏打材 | JIS A 6512「可動間仕切」の表9に対応する材質のうち、鋼材については、防食処理及び防錆処理を施した材料とする。ただし、メラミン樹脂系単一材の場合は適用しない。 |
| 心材 | JIS A 6512「可動間仕切」の表9に対応する材質とする。ただし、メラミン樹脂系単一材の場合は適用しない。 |
| 枠材<br>エッジ材 | JIS A 6512「可動間仕切」の表9に対応する材質のうち、鋼材については、亜鉛めっき処理を施した材料とする。 |
| 小口 | 防水処理を施す。 |

（2）構造金物

| 項目 | 品質・性能 |
|---|---|
| 笠木<br>脚部<br>（脚長、幅木）<br>壁見切り金物<br>頭つなぎ等 | JIS A 6512「可動間仕切」の表9に対応する材質のうち、耐熱性のあるものとする。<br>頭つなぎ等で使用するビス類の材質はステンレス製とする。 |

（3）付属金物

| 項目 | 品質・性能 |
|---|---|
| ヒンジ<br>ラッチセット | 耐熱性のあるものとする。 |
| 戸当り | 腐蝕の恐れのある材料には防錆処理を施してあるものとする。<br>戸当り部のゴムは、使用に十分耐える材質であるものとする。 |

（4）外観は、JIS A 6512「可動間仕切」の5.b) による。
（5）パネル表面材の耐薬品性・耐汚染性・耐ひっかき性・開閉耐久性

| 項目 | 品質・性能 | | |
|---|---|---|---|
| | 耐薬品性及び耐汚染性 | 耐引っかき性 | 開閉耐久性 |
| メラミン樹脂系化粧板及びメラミン樹脂系単一材 | JIS K 6902「熱硬化性樹脂高圧化粧板試験方法」15.2 B法の表6に示された耐汚染性のうち材料番号3.6.7.8.9.10.17.の試験結果の判定は、“変化なし”であるものとする。<br>また、材料番号1.2.4.5.11.12.13.14.15.18.は、“変化なし又は軽微な変化”であるものとする。又は、これらと同等以上の性能を有するものであるものとする。 | — | JIS A 4702「ドアセット」9.4開閉繰り返し試験によるスイングドア（開閉回数10万回）を満足すること及び試験終了時点で構造金物、固定金具等に緩みのないこと。 |
| 低圧メラミン樹脂系化粧板 | ポリエステル樹脂系加工化粧合板、ポリエステル樹脂系化粧ＭＤＦ、ポリエステル樹脂系化粧パーティクルボードのいずれかの品質に適合していること。 | | |
| ポリエステル樹脂系加工化粧合板 | JAS「合板の農林規格」第８条特殊加工化粧合板に示された耐汚染性B試験において、試験片の表面に色が残らないこと。 | JAS「合板の農林規格」第８条特殊加工化粧合板に示された耐引っかき性B試験において、きずの深さの平均値が10μm以内であること。 | |
| ポリエステル樹脂系化粧ＭＤＦ | JIS A 5905「繊維板」の表18の規定に適合していること。 | | |
| ポリエステル樹脂系化粧ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ | JIS A 5908「パーティクルボード」の表11の規定に適合していること。 | | |

（試験方法）
（1）ヒンジは、JIS A 1510-2「建築用ドア金物の試験方法－第2部：ドア用金物」に規定する試験による。
（2）戸当りの衝撃試験は、JIS A 1510-2に規定する試験による。
パネル材料のホルムアルデヒド放散量　※規制対象外　・

5　階段滑止め
（20. 2. 6）

⊙全て図示による

| 種類 | 幅 (mm) | 取付け寸法 | 端部フラットエンド | |
|---|---|---|---|---|
| ※ステンレス製（SUS304）<br>ビニルタイヤ入り<br>・ | ※約35<br>・ | ※接着工法<br>・埋込み工法 | ※あり<br>・なし | ※ビニル製<br>・ステンレス製<br>－ |

6　黒板及びホワイトボード　G
（20. 2. 8）

| 種類 | 寸法 (mm) | 色彩 | 形式 | |
|---|---|---|---|---|
| ・鋼製黒板<br>・ほうろう黒板 | ※焼付け<br>・ | ※緑<br>・黒 | ・平面<br>・曲面 | ・スクリーン付き引分け<br>・ |
| ・ホワイトボード | ほうろう | 白 | | ※スクリーン付き引分け<br>・ |

7　鏡
（20. 2. 9）

取付箇所　　・図示による　・
寸法（mm）　・図示による　・
厚さ（mm）　※５　・

Ⓑ 表示
（20. 2. 10）

案内用図記号はJIS Z 8210による。
誘導標識、非常用進入口等の表示　※消防法に適合する市販品　・
室名札、ピクトグラム、案内板等の形状、寸法、材質、色、書体、印刷等の種別、取付け形式等
※図示　・

9　煙突ライニング
（20. 2. 11）

・煙突用成形ライニング材
適用安全使用温度　・４００℃　・６５０℃
（品質・性能）

| 種類 | ・ｿﾞﾙﾄﾗｲﾄ系けい酸ｶﾙｼｳﾑﾗｲﾆﾝｸﾞ材 | ・心材付繊維積層ライニング材 |
|---|---|---|
| 適用安全使用温度 | ・400℃　・650℃ | ・400℃　・650℃ |
| 加熱線収縮率 | 2.0%以下 | 2.0%以下 |
| 曲げ強度 | 0.8N／mm2以上 | 2.0N／mm2以上 |
| 圧縮強度 | 1.0N／mm2以上 | 2.0N／mm2以上 |
| ｽﾎﾟｰﾘﾝｸﾞ性 | 試験体に亀裂の発生、剥離あるいは脱落等がないものとする。 | |
| 透水性 | 試験体裏面に水滴が生じないものとする。 | |
| 耐酸性 | 試験体に形状変化が見られず、崩壊する危険性がないものとする。 | |
| 石綿 | 使用不可。 | |
| ﾗｲﾆﾝｸﾞ材とｺﾝｸﾘｰﾄの境界温度 | 100℃以下とする。 | |

（試験方法）
（1）スポーリング性試験
適用安全使用温度（300 ℃）から適用安全使用温度まで100℃間隔で30分間加熱冷却を繰り返し、各温度設定時の加熱後及び冷却時の試験体亀裂、剥離、脱落の状況を観察する。（試験体は完成品とし、サイズは内径600mm×長さ1000mm程度とする。）
（2）透水性試験
JIS A 5430「繊維強化セメント板」10.6透水性試験による。
（3）耐酸性試験
1.0%濃度の硝酸及び硫酸水溶液に下記の方法で浸せきした後、試験体の外観を調べる。
試験は、試験体を温度20℃、湿度60%の試験室に24時間以上静置した後、酸水溶液に1週間（168時間）浸せきする。（ただし、酸水溶液は48時間毎に交換する。）その後、48時間以上温度20℃、湿度60 %の試験室に静置した後に外観観察を行う。（試験体のサイズは、100mm×50mmとする。）
（4）熱伝導率測定
JIS R 2616「耐火断熱れんがの熱伝導率の試験方法」による。
試験設定温度は100 ℃、150 ℃、300 ℃、450 ℃、600 ℃とする。

10　ブラインド
（20. 2. 12）

| 形式 | 操作方法 | 種類 | スラットの材質 | スラット幅 (mm) | ボックスレールの材質 | 幅・高さ取付け箇所 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ・横型 | ・手動 | ※ギア式<br>・コード式<br>・操作棒式 | ※アルミニウム合金製　G | ※25<br>・ | ※鋼製<br>・ | ・図示<br>・ |
| | ・電動 | － | | | | |
| ・縦型 | ・手動 | ※本操作コード式<br>・1本操作コード式 | ※アルミスラット<br>・クロススラット | ・80<br>・100 | アルミニウム合金製 | ・図示<br>・ |
| | ・電動 | － | | | | |

アルミスラット　焼付け塗装仕上げ
クロススラット　消防法で定める防炎性能の表示がある特殊樹脂加工
ポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合は G とする。

11　ロールスクリーン　G
（20. 2. 13）

| 材種 | 操作方式 | 遮光性能 | 寸法（mm） | 取付箇所 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| ・ガラス繊維製<br>・合成・天然繊維製<br>・木製<br>・ | ・電動式<br>・スプリング式<br>・チェーン式 | ・１級<br>・２級<br>・３級 | ・図示<br>・ | ・図示<br>・ | |

巻取りパイプ、ウェイトバー、操作コード又は操作チェーンその他の材料
※製造所の仕様　・

⑫　カーテン及びカーテンレール
（20. 2. 14）

カーテン

| 形式 | 開閉操作 | ひだの種類 | きれ地の種別、品質、特殊加工等 | 取付箇所 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| ・シングル<br>⊙ダブル | ・片引き<br>⊙引分け | ⊙手引き<br>・ひも引き<br>・電動 | ⊙フランスひだ<br>・箱ひだ、つまひだ<br>・プレーンひだ、片ひだ | | ⊙図示<br>・ | |
| | | | | | (暗幕) |

ポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合は　G　とする。
暗幕カーテンの両端、上部及び召合せの重なり　※300mm以上　・
カーテンレール

| | | |
|---|---|---|
| 材種 | ※アルミニウム及びアルミニウム合金の押出し成型材<br>・ステンレス製 | |
| 形式 | ・シングル<br>・片引き | ⊙ダブル<br>⊙引分け |
| 強さによる区分 | ※　10-90 | ・ |
| 仕上げ | ※アルマイト | ・ |
| 形状 | ※角形 | ・ |

⑬　ブラインドボックス及びカーテンボックス

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 構造 | ・アルミニウム製　押出し型材（市販品） | | | |
| 材質 | ⊙集成材（仕上げ：　OC塗装　） | | | |
| ・表面処理 | ・BC-1　・BC-2（・標準色（　　）・特注色（　　）） | | | |
| ・鋼製（仕上げ：　　） | | | | |

⑭　点検口

⊙天井点検口　⊙枠材の色は白とする

| 材種 | 寸法（mm） | 形式 | | 外枠 | 内枠 |
|---|---|---|---|---|---|
| ⊙アルミニウム製 | ⊙460×460<br>・600×600<br>・ | ⊙一般形<br>・気密形 | ・屋内外用<br>⊙屋内用 | ・額縁タイプ<br>⊙目地タイプ | ・額縁タイプ<br>⊙目地タイプ |

（品質・性能）
内外枠の材質　アルミニウム製
JIS H 4100 A6063S又は同等の性能を有するもの
表面処理　陽極酸化皮膜JIS H 8601(AA6)又は同等の性能を有するもの
（外部に用いる場合は、JIS H 8602の8種又は同等以上の性能を有するもの）
内枠及び外枠のコーナーピース
鋼板に亜鉛めっき等の防錆処理を行ったもの又は同等の性能を有するもの
外枠の取付け金物
鋼板に亜鉛めっき等の防錆処理を行ったもの又は同等の性能を有するもの
内枠の仕上げ材留付金物
アルミニウム及びアルミニウム合金押出形材、亜鉛めっき鋼板又は同等の性能を有するもの
耐久性能（繰り返し開閉試験）
（1）50回、100回、300回の内蓋の垂れ下がりが、0.5mm以内。
（2）開閉試験後、使用上支障をきたす異常がないこと。
枠の寸法許容差　±0.5mm以内
外枠と内枠のクリアランス　片側2.0mm以内
（試験方法）
内蓋（内枠）の繰り返し開閉試験
（1）試験体は、枠見込み40mm程度のものとする。
吊り金物は、外枠を天井下地取付け用チャンネルに直接留付ける方式（天井ボードなどの仕上材を挟んで固定しない方式）とする。標準仕様書14章4節により製作した試験体固定用天井下地開口補強に試験体の天井点検口450mm×450mmを吊り金具4箇所にて各メーカー仕様に従い取付ける。なお、野縁の種類は、19形とし仕上げ材は、せっこうボード厚さ9.5mm（JIS A 6901「せっこうボード製品」のGB－Rの難燃2級又は発熱性2級以上）二重張りとする。
（2）試験は、内蓋を閉じた状態から自由開放状態にする動作を繰り返し行う。
（3）測定は、上記繰り返し試験において、各50回、100回、300回毎に内蓋の垂れ下がり状態を測定する。

・床点検口

| 材種 | 寸法（mm） | 形式 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| ・アルミニウム製<br>・ステンレス製<br>・鋼製 | ・460×460<br>・600×600<br>・ | ・一般形<br>・密閉形 | ・屋内外用<br>・屋内用 | ・鍵付き |

密閉形とは、ボルト、ナット等メカニカル構造にパッキンを装着したものとする。

（品質・性能）
以下のもの又は同等のものとする

| 部材名 | 材質 | 屋内外用 | 屋内用 |
|---|---|---|---|
| 受枠材 蓋枠材 | アルミニウム及びアルミニウム合金押出形材 | JIS H 4100のA6063S -T（表面処理）JIS H 8602の8種又はJIS H 8601のAA15 | |
| | ステンレス鋼製 | JIS G 4305のSUS304, SUS430J1L,SUS443J1（表面処理）HL又は2B仕上げ程度 | JIS G 4305のSUS430（表面処理）HL又は2B仕上げ程度 |
| | 鋼製 | — | 鋼製又はJIS G 3313の類にメラミン樹脂焼付塗装若しくは、鉛酸カルシウムさび止めペイント(JIS K 5629)の防錆処理を行ったもの |
| 二重蓋の中蓋 | 鋳鉄 | JIS G 5501のFC150,FC200 | |
| 目地材 | 黄銅 | JIS H 3100　C2600、C2720、C2801<br>JIS H 3250　C3602、C3604 | |
| | ステンレス | JIS G 4305のSUS304、SUS430J1L又はSUS443J1<br>JIS G 4308のSUS304 | |
| 底板材 コーナーピース 底板補強材 | ステンレス鋼板 | JIS G 4305のSUS304、SUS430J1L,SUS443J1<br>JIS G 4308のSUS304 | JIS G 4305　SUS430 |
| | アルミニウム板 | JIS H 4000(A1100P H24)<br>表面処理：陽極酸化塗装複合被膜 JIS H 8601(AA15)<br>JIS H 8602(B) | — |
| | 鋼材 | — | 鋼製又はJIS G 3313の類にメラミン樹脂焼付塗装若しくは、鉛酸カルシウムさび止めペイント(JIS K 5629)の防錆処理を行ったもの |
| パッキン材 | | 塩化ビニル系ゴム、軟質塩化ビニル、クロロプレン、スポンジラバー、エチレンプロピレン等 粋の材質、形状に適した弾力性、密着性、気密性を有するもの | |
| アンカー材 | | 鋼製に電気亜鉛めっき又は防錆塗料を行ったもの | |
| 取手 | | 黄銅鋳鉄製、黄銅製、アルミニウム押出形材・合金鋳鉄製、ステンレス鋳鋼品、ステンレス製等 ステンレス鋼材、アルミニウム押出形材などで被覆した、合成樹脂製のものは、衝撃による変形・割れが生じないものとする | |
| 鍵 | | 黄銅製、ステンレス製、亜鉛合金製とする<br>施錠・開錠は、鍵又は開閉用ハンドル式とする | |
| 蓋の耐荷重性能 | | 蓋中央部が荷重値Pn=1,000Nにおいて残留たわみが点検口の有効径の0.08%以内であること。<br>受け枠、蓋その他の使用上支障がないこと。<br>破壊荷重は、荷重値のPnの2倍以上であること | |

受け枠寸法の許容差　±0.5mm以下
蓋寸法の許容差　　±0.5mm以下
受け枠と蓋枠のクリアランス　片側2.0mm以内
（試験方法）
耐荷重試験
試験体は、張物用とし、600mm角程度、枠見込みは、40mm以下とする。
試験は、蓋枠の四周を支持させ、蓋の中央部にφ50mmの加圧板を設置し、加圧する。
本試験前に200Nを加圧した後、本試験を行う。
本試験は、1,000Nで加圧、荷重除去を3回繰り返し行った後、その後試験体が破壊する（終局荷重）まで加圧する。
測定は、蓋中央部にかける加圧を200N増す毎にたわみと受け枠の変形その他の異常について1,000Nまで3回繰り返す。

15　耐震スリット

| 耐火性能 | 防水性能 | 備考 |
|---|---|---|
| ・耐火型<br>・非耐火型 | ・有<br>・無 | |

目地

| 目地 | 内壁 | 外壁 |
|---|---|---|
| 目地材 | ・シーリング材（見え掛り部のみ）<br>・ | ・シーリング材（見え掛り部のみ）<br>・シーリング材（内外共） |
| 目地寸法（mm） | ・幅20×深さ10<br>・ | ・幅20×深さ10<br>・ |

目地材の材質は標準仕様書9.7.1による。

16　止水板

形式　・埋込式　・据置式　・壁張式
材質　・塩化ビニル製（種類　　）　・非加硫ブチルゴム製　・
寸法（mm）・
施工箇所　・図示　・

17　エキスパンションジョイント金物

| 材質 | クリアランス（mm） | 耐火性能 | 備考 |
|---|---|---|---|
| ・アルミニウム製<br>・ステンレス製 | ・50<br>・100<br>・150 | ・有（　　）<br>・無 | |

外部は防水型とする。

18　旗竿受金物

材　種　・ ステンレス製（SUS 304）

19　車止め支柱

| 形式 | | 材種 | 柱径、肉厚(mm) | 高さ(mm) |
|---|---|---|---|---|
| ・上下式鋼内蔵式 | ・標準品<br>・スプリング式 | ・ステンレス製<br>・ | ・ | ・ |
| ・ | | | | |

20　フェンス

フェンスの種類　・ビニル被覆エキスパンドフェンス　・図示
・樹脂塗装メッシュフェンス
・鋼管フェンス
・アルミフェンス
高さ　・図示　・

厚和寮ホーム（仮称）新築工事

建 築 工 事 特 記 仕 様 書 （ 8 ）

CHECKED BY.

株式会社 白兎設計事務所
鳥取県知事　登録番号　第０５－１４２
管理建築士（一級建築士登録番号　２０２７９１）　藪田　浩明

| PROJECT.NO | DATE | DRAWING BY. |
|---|---|---|
| 2026-01 | 2026. 8 | 一級建築士登録番号 第314245号 中島　直行 |
| DRAWING.NO | SCALE | |
| 特 - 08 | - | |

21 プレキャストコンクリート
(20. 3. 3、4)

コンクリートの設計基準強度
※水セメント比55%以下、単位セメント量の最小値300kg/㎥を満足する調合強度
・図示
配筋
※配筋を定めた計算書を監督職員に提出する。
・図示
取付け方法
※図示

22 間知石及びコンクリート間知ブロック積み
(20. 4. 2、3)

| 材種 | | 種類 | 質量区分 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| ・間知石 | ・花こう岩<br>・凝灰岩 | ― | ― | |
| ・コンクリート間知ブロック | ― | | ・A　・B | |

積み方　※谷積み　・布積み
目塗り　・図示　・伸縮目地
伸縮調整目地　材種　・図示　・
厚さ　・図示　・

23 鋼製書架、物品棚及び移動式書架

| 種類 | 規格等 | ＪＩＳによる種類 |
|---|---|---|
| ・鋼製書架 | ＪＩＳ Ｓ １０３９の規格による | ・1種　・2種　・3種 |
| ・鋼製物品棚 | | ・4種　・5種　・6種 |
| ・移動式書架 | 形状等は図示による | |

24 屋内掲示板
枠の材質　※ アルミニウム製
表面の材質　※ 塩ビ発泡シート張り

25 洗面カウンター
・図示による
材　種　・メラミン樹脂化粧板張り（心材：集成材）　・人工大理石
奥行き(mm)　・約 450　・約 600

26 防煙垂れ壁
・固定式

| 材質 | 厚さ(mm) | 高さ(mm) | 備考 |
|---|---|---|---|
| ※ 網入り磨板ガラス<br>・ 線入り磨板ガラス | ※ 6.8<br>・ | ※ 500 | アルミ製枠付き |

・可動式

| 種類 | 材質 | 高さ(mm) | 備考 |
|---|---|---|---|
| ・垂直降下式<br>（巻取り型） | ※ 不燃布<br>（不燃認定品） | ※ 500<br>・ 800<br>・ | ガイドレール<br>※ 固定式（壁埋込型）<br>・ 可動式（天井収納型） |
| ・回転降下式 | 鋼板製又はアルミ製 | ※ 500<br>・ 800 | 表面仕上げ<br>※ 天井材張り |

降下機構　煙感知器連動及び手動開放装置（埋込型）

㉗ 収納家具
材質、形状、寸法　※図示　・
合板類、MDF 及びパーティクルボードのホルムアルデヒドの放散量
※規制対象外　・

28 屋外掲示板
本体材質　※ステンレス製　・
照明器具　・有り　・無し
掲示板面材質　・
施錠装置　※有り　・無し
形状寸法　※図示による　・

29 くつふきマット

| 材種 | 受枠 | 備考 |
|---|---|---|
| ・塩化ビニル又はゴム製<br>・硬質アルミニウム合金製<br>・ステンレス鋼（SUS304）製 | ・ステンレス鋼（SUS304）製<br>・硬質アルミニウム合金製<br>・ | |

㉚ 手すり

| 材質 | 表面仕上げ | 直径 (mm) | 取付箇所 |
|---|---|---|---|
| ⊙集成材 | ・クリアラッカー　⊙ 図示 | ・35　・45　⊙図示 | 廊下 |
| ・ビニル製ハンドレール | | | |
| | | | |

㉛ 天井見切り縁等
壁及び下がり壁と天井の取合いの見切縁（天井見切縁、下がり壁見切縁）の材種
※アルミニウム既製品　⊙ビニル既製品

32 ピクチャーレール
・見切縁兼用タイプ
移動フック　ケ／m　安全装置　※15kg以上

㉝ 視覚障がい者誘導用ブロック（視覚障がい者用ブロック）
(11. 2. 2)
(19. 2. 2)

| 施工箇所 | | 種類 | 寸法 (mm) | 厚さ (mm) |
|---|---|---|---|---|
| 屋内 | | ・SUS製点字鋲 | | |
| | | ・セラミックタイル製 G | ・300×300　・ | ・ |
| | | ・レジンコンクリート製 | ・300×300　・ | ・ |
| | | ・コンクリート製 | | |
| 屋外 | 床 | ⊙セラミックタイル製 G | ⊙300×300　・ | ・ |
| | | ・レジンコンクリート製 | ・300×300　・ | ・ |
| | | ・コンクリート製 | ・300×300　・ | |

突起の形状、配列及び寸法はJIS T 9251よる。

㉞ 流し台ユニット

| 種類 | 寸法 (mm) W | D | H | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| ⊙流し台 | ・1200<br>・1500<br>・1800<br>⊙2950 | ・550<br>・600<br>⊙650 | ⊙800<br>・850 | 市販品（木製扉・木製キャビネット）<br>仕上げ：※化粧パーティクルボード<br>トラップ付き<br>天板ステンレス製 |
| ・コンロ台 | ・600 | ・550<br>・600<br>・650 | ・620<br>・670 | 市販品（木製扉・木製キャビネット）<br>仕上げ：※化粧パーティクルボード<br>・<br>バックガード付き<br>天板ステンレス製 |

| 種類 | 寸法 (mm) W | D | H | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| ・つり戸棚 | ・1200<br>・900<br>・図示 | ・450 | ・500<br>・700 | 市販品（木製扉・木製キャビネット）<br>仕上げ：※化粧パーティクルボード |
| ・水切り | ・1200<br>・900<br>・600 | ― | ― | 市販品<br>ステンレス製<br>・１段式　・ |

（品質・性能）
外観は、JIS A 4420（キッチン設備の構成材）の4.1による。
構成材は、JIS A 4420の8により、試験を行ったとき、表１の規定による。
形状　※図示　・

21 排水工事

1 屋外雨水排水
(21. 2. 1、2)
(表21. 2. 1、2)

排水管用材料

| 材種 | 種類・記号 | 形状 | 呼び径 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| ・ 遠心力鉄筋コンクリート管 | ※ 外圧管（１種） | ・B形管 | ※図示 | |
| ・ 硬質ポリ塩化ビニル管 | ・ ＶＰ | | ※図示 | |
| | ・ ＶＵ | | ※図示 | |
| | ・ ＲＳ－ＶＵ G | | ※図示 | |

基床の厚さ及び種類　・図示　・
硬質ポリ塩化ビニル管の継手に用いる材料　※接着剤　・
側塊の形状及び寸法　・図示　・
排水桝の種類　・図示　・
砂地業に用いる材料　※シルト、有機物等の混入しない締固めに適した山砂、川砂又は砕砂
・
砂利地業に用いる材料　※再生クラッシャラン G
・切込砂利又は切込砕石
現場打ちの場合のコンクリート材料
設計基準強度　※18N/mm2　・
スランプ　※15cm又は18cm　・
現場打ちの場合の鉄筋
種類の記号　※SD295A　・
現場打ちの場合の足掛け金物
材料　※ステンレス製　・鋼製　・合成樹脂被覆加工を行った足掛け金物
凍上抑制層に用いる材料　・
砂の粒度試験　・行う　・行わない

2 鋳鉄製ふた
(21. 2. 1)

鋳鉄製ふた

| 名称 | 種類 | 適用荷重 | 鍵 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 鋳鉄製マンホールふた | ・水封形<br>・簡易密閉形<br>（パッキン式）<br>・密閉形<br>（テーパ・パッキン式）<br>・中ふた付き密閉形<br>（テーパ・パッキン形） | ・T-2用<br>・T-6用<br>・T-20用<br>・ | ・有り<br>・無し | 左記以外の品質等は（公社）空気調和衛生工学会SHASE-S209による |
| 塩ビ製 | ・RS-VU G | | | |

グレーチング

| 材質 | 形式 | 用途 | 適用荷重 | ﾒｲﾝﾊﾞｰﾋﾟｯﾁ | 亜鉛めっき (付着量) | 上面形状 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ・鋼製 | ― | ・溝ふた<br>（横断用） | ・歩行用 | ・細目<br>・ | ・（　　） | ・凹凸形<br>・ |
| | ・受枠付き、ボルト固定<br>・ | ・溝ふた<br>（側溝用）<br>・桝ふた用<br>・U字溝用 | ・T-2用<br>・T-6用<br>・T-14用<br>・T-20用 | ・普通目<br>・細目 | ・（　　） | ・平形<br>・ |
| ・ステンレス製 | ― | ・溝ふた<br>（横断用） | ・歩行用 | ・細目<br>・ | ・（　　） | ・凹凸形<br>・ |
| | ・受枠付き、ボルト固定<br>・ | ・溝ふた<br>（側溝用）<br>・桝ふた用<br>・U字溝用 | ・T-2用<br>・T-6用<br>・T-14用<br>・T-20用 | ・普通目<br>・細目 | ・（　　） | ・平形<br>・ |

＜鋼製グレーチング＞以下のもの又は同等のものとする

| 項目 | 品質・性能 |
|---|---|
| メインバー、サイドバー及びエンドプレート | JIS G 3101　SS400 |
| クロスバー | JIS G 3101 SS400及びJIS G 3505 「軟鋼線材」SWRM |
| 受け枠用アングル材 | JIS G 3101 SS400及びJIS G 3132 「鋼管用熱間圧延炭素鋼鋼帯」SPHT |
| 溶融亜鉛めっきの付着量 | JIS H 8641「溶融亜鉛めっき」による試験において溶融亜鉛めっきの付着量がHDZ40以上又は、HDZ 50以上 |
| 表面仕上げ | 塗装仕上げとする場合は、樹脂系塗料 |
| アンカー | 間隔　側溝の場合500mm内外 |
| ふた | 幅及び長さの許容差　±3.0mm |
| 荷重性能 | 設計荷重の1.5倍までの加力に対して、溶接部のはずれ等その他の異常がないものとする |

＜ステンレス製グレーチング＞

| 項目 | 品質・性能 |
|---|---|
| メインバー、クロスバー | JIS G 4303,JIS G 4304,JIS G 4305,JIS G 4308,JIS G 4318のSUS304又はJIS G 4304,JIS G 4305のSUS430J1L |
| エンドバー、サイドバー | JIS G 4303,JIS G 4304,JIS G 4305,JIS G 4308, JIS G 4317,JIS G 4318,のSUS304　JIS G 4320のSUS304又はJIS G 4304,JIS G 4305のSUS430J1L |
| 受け枠用アングル材 | JIS G 4304,JIS G 4305, JIS G 4317, JIS G 4320のSUS304又はJIS G 4304,JIS G 4305のSUS430J1L |
| アンカー | JIS G 3101 SS400 、塩害の多い地区は塩害に対する防錆処理を行う<br>間隔　側溝の場合500mm内外 |
| 表面仕上げ | 2B程度 |
| ふた | 幅及び長さの許容差　±3.0mm |
| 荷重性能 | 設計荷重の1.5倍までの加力に対して、溶接部のはずれ等その他の異常がないものとする |

（荷重試験方法）
設計荷重は以下の通りとする

| 歩車道区分 | 荷重種別 | 側溝用(KN) | 横断溝用(KN) | 加圧面積(cm) |
|---|---|---|---|---|
| 車道 | T-20 | 78.5 | 109.8 | 20×50 |
| | T-14 | 54.9 | 76.9 | 20×50 |
| | T-6 | 23.5 | 33.0 | 20×24 |
| | T-2 | 7.8 | 11.0 | 20×16 |
| 歩道 | 4,903N/㎡の等分布荷重 | | | |

試験体は、下記の種別ごとに強度計算における応力度が最大となる製品について試験を行う。
イ）溝ふた　横断用　T-20～T-2のうち1体
歩道用　のうち1体
側溝用　T-20～T-2のうち1体
ロ）U字溝用　側溝用　T-20～T-2のうち1体
歩道用　のうち1体
設計荷重を基準として一方向繰り返し加力を行う。加力速度は、4,903N/sとする。繰り返し加力は3回行った後、残留ひずみ等がないか確認する。その後設計荷重の1.5倍まで加力し、溶接部のはずれ等異常の有無について確認する。

3 街きょ、縁石、側溝
(21. 3. 1、2)
(表21. 3. 1)

街きょ、縁石、側溝

| 種類 | 形状、寸法 |
|---|---|
| ・縁石 | ・ 図示　・ |
| ・U形側溝 | ・ 図示　・ |
| ・U形側溝ふた | ・ 図示　・ |
| ・ | ・ 図示　・ |

砂地業に用いる材料　※シルト、有機物等の混入しない締固めに適した山砂、川砂又は砕砂
・
砂利地業に用いる材料　※再生クラッシャラン G
・切込砂利又は切込砕石
砂利地業の厚さ　※100 (mm)　・図示
現場打ちの場合のコンクリート材料
設計基準強度　※18N/mm2　・
スランプ　※15cm又は18cm　・
現場打ちの場合の鉄筋
種類の記号　※SD295A　・
凍上抑制層に用いる材料　・
砂の粒度試験　・行う
・行わない

4 埋戻し土
(21. 2. 2)

※ Ｂ種　・

22 舗装工事

1 路床
(22. 2. 2、3、5)
(表22. 2. 1)

路床の材料　(22.2.2、3、5)(表22.2.1)

| 種別 | 材料 | 厚さ(mm) |
|---|---|---|
| ・盛土 | ・A種　・B種　・C種　・D種<br>・建設汚泥から再生した処理土 G | ・図示<br>・ |
| ・凍上抑制層 | ・再生クラッシャラン G　・クラッシャラン　・切込み砂利<br>・砂 | ・図示<br>・ |
| ・フィルター層 | ・砂<br>・ | ・図示<br>・ |

路床安定処理
・添加材料による安定処理
種類　・普通ポルトランドセメント　・高炉セメントＢ種
・フライアッシュセメントＢ種
・生石灰（　・特号　・1号）　・消石灰（　・特号　1号）
添加量　kg（目標CBR　・3以上　・　）
目標CBRを満足する添加量の確認方法
・安定処理土のCBR試験　・
・ジオテキスタイル
単位面積質量　・60g/㎡以上　・
厚さ(mm)　・0.5～1.0　・
引張強さ　・98N/5cm (10kgf/5cm) 以上　・
透水係数　・1.5×10cm/sec以上　・
試験
路床土の支持力比（ＣＢＲ）試験　・行う　・行わない
路床締固め度の試験　・行う　・行わない
現場CBR試験　・行う　・行わない

2 路盤
(22. 3. 2、3、5)
(表22. 3. 1)

路盤の厚さ　・図示　・
路盤材料

| 種類 | |
|---|---|
| 砕石 | ・クラッシャラン |
| | ・粒度調整砕石 |
| 再生材 | ・クラッシャラン G |
| | ・粒度調整砕石 G |
| ・クラッシャラン鉄鋼スラグ G | |
| ・粒度調整鉄鋼スラグ G | |
| ・水硬性粒度調整鉄鋼スラグ G | |

路盤締固め度の試験　※行う　・行わない

3 アスファルト舗装
(22. 4. 2～6)
(表22. 4. 4)

アスファルト舗装の構成及び厚さ　※図示　・
材料
アスファルト　・再生アスファルト G　(種類　※60～80　・80～100)
・ストレートアスファルト
骨材　・道路用砕石
・アスファルトコンクリート再生骨材 G
加熱アスファルト混合物等の種類

| 区分 | 地域 | 種類 |
|---|---|---|
| 表層 | ・一般地域 | ・密粒度アスファルト混合物(13)<br>・細粒度アスファルト混合物(13) |
| | ・寒冷地域 | ・密粒度アスファルト混合物(13F) |

シールコートの施工　※行わない　・行う
試験
アスファルト混合物等の抽出試験　・行う　・行わない
舗装の平たん性　※通行の支障となる水たまりを生じない程度
・

4 コンクリート舗装
(22. 5. 2～4、6)
(表22. 5. 1、3)

コンクリート舗装の構成及び厚さ

| 舗装の種類 | 部位 | 構成 | 厚さ(mm) |
|---|---|---|---|
| コンクリート舗装 | 車路及び駐車場 | ・図示 | ・図示　・ |
| | 歩行者用通路 | ・図示 | ※７０　・ |

寒冷地の縁部立下り寸法等　・図示　・
材料
コンクリート　・標準仕様書表22.5.1による　・
早強ポルトランドセメント　・使用する　・使用しない
注入目地材料　※低弾性タイプ　・高弾性タイプ
目地
種類、間隔、構造　※標準仕様書表22.5.3及び図22.5.1による　・図示
舗装の平たん性　※通行の支障となる水たまりを生じない程度
・

5 カラー舗装
(22. 6. 2～4)

・加熱系カラー舗装
構成・厚さ　※図示　・
加熱系混合物の結合材　・アスファルト混合物
・石油樹脂系混合物　顔料の添加物（　　%）
着色骨材（　　）、自然石（　　）
・常温系カラー舗装
工法　・ニート工法　・塗布工法
着色部の下部　・アスファルト舗装　・コンクリート舗装
舗装の平たん性　※通行の支障となる水たまりを生じない程度
・

6 透水性アスファルト舗装 G
(22. 7. 2、3、6)

構成　・　図示　・
材料
骨材　・道路用砕石
・アスファルトコンクリート再生骨材 G
試験
開粒度アスファルト混合物等の抽出試験　・行う　・行わない
砂の粒度試験　・行う（適用箇所　・フィルター層　・砂を用いる場合の凍上抑制層）
・行わない
舗装の平坦性　※著しい不陸がないもの　・

7 ブロック系舗装
(22. 8. 2、3)

・ コンクリート平板舗装

| 種類 | 寸法(mm) | 厚さ(mm) | 目地材 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| ※普通平板(N) G<br>・透水平板(P) G<br>・保水性平板（M） | ※300角<br>・ | ※ 60<br>・ | ※砂<br>・モルタル | 表面加工<br>・研ぎ出し<br>・洗い出し<br>・たたき出し |

普通平板は G (再生材料を用いた舗装用ブロック)、透水平板は G (透水性コンクリート) とする。
仕上り面の平たん性　※歩行に支障となる段差がないものとし、ｺﾝｸﾘｰﾄ平板間の段差は3mm以内
・
・ インターロッキングブロック舗装

| 種類 | 部位 | 形状・寸法 | 厚さ(mm) | 曲げ強度 (N/mm²) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| ※普通ブロック（N）<br>・透水性ブロック（P）<br>・保水性ブロック（M） | 車路 | ・図示<br>・ | ※８０<br>・ | ※5.0<br>・ | 色彩、表面加工 |
| ※普通ブロック（N） G<br>・透水性ブロック（P） G<br>・保水性ブロック（M） | 歩行者用通路 | ・図示<br>・ | ※８０<br>・ | ※3.0<br>・ | ・ 標準品 |

歩行者用通路に使用する普通ブロックは G (再生材料を用いた舗装用ブロック)とする。
透水性ブロックは G （透水性コンクリート）とする。
仕上り面の平たん性　※歩行に支障となる段差がないものとし、ブロック間の段差は3mm以内
・
・ 舗石舗装

| 種類 | 形状・寸法(mm) | 厚さ(mm) | 施工方法 | 基層 | 基層の厚さ(mm) |
|---|---|---|---|---|---|
| ※花こう岩<br>・ | ・割石<br>・図示 | ・ | ・うろこ張り<br>・ | ・コンクリート版<br>・アスファルト混合物 | ※70　・<br>※50　・ |

仕上り面の平たん性　※歩行に支障となる段差がないものとし、舗石間の段差は3mm以内
・

8 砂利敷き
(22. 9. 2)

種別
・ Ａ種（施工範囲：・図示　・通路　・　　）
・ Ｂ種（施工範囲：・図示　・建物周囲　・　　）

9 路面標示用塗料
JIS K 5665（路面標示用塗料）による

| 種類 | 施工 | 適用 | 色 | 幅(mm) | 塗布厚さ(mm) | 適用部位 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ※ ３種１号 | 溶融 | 粉体状 | ・ 白<br>・ | ・ 150<br>・ 100 | ・ 1.0<br>・ | ・白線　・視覚障害者用表示<br>・車椅子駐車場ライン |
| ・ １種 G<br>・ ２種 G | 常温<br>加熱 | 液状 | | | | |

G 低揮発性有機溶剤型の路面標示用水性塗料



株式会社 白兎設計事務所
鳥取県知事　登録番号　第０５－１４２
管理建築士（一級建築士登録番号　２０２７９１）　藪田　浩明


| PROJECT.NO | DATE | DRAWING BY. |
|---|---|---|
| 2026-01 | 2026. 8 | 一級建築士登録番号 |
| DRAWING.NO | SCALE | 第314245号 |
| 特 - 09 | - | 中島　直行 |